

# 農 薬 抄 録

## イミダクロプリド

### (殺虫剤)

平成 13 年 12 月 12 日作成

平成 25 年 10 月 8 日改訂

バイエルクロップサイエンス株式会社

作成責任者・所属

連絡先	(社名)	(担当部)	(担当者名)	(TEL)
バイエルクロップサイエンス(株)				

## 目 次

	頁
I 開発の経緯	1
II 物理的・化学的性状	11
III 生物活性	27
IV 適用及び使用上の注意	35
V 残留性及び水質汚濁性	61
1. 作物残留	61
2. 乳汁への移行性	71
3. 家禽類での残留性	73
4. 大動物（泌乳山羊及び産卵鶏）での代謝試験	75
5. 土壌残留	117
6. 水質汚濁性	127
VI 有用動植物等に及ぼす影響	131
1. 水産動植物に対する影響	131
2. 水産動植物以外の有用性物への影響	159
VII 使用時安全上の注意、解毒法等	163

目 次 (続 き)

	頁
VIII 毒性	毒 - 1
1. 原体	
(1) 急性毒性	毒 - 17
(2) 皮膚及び眼に対する刺激性	毒 - 37
(3) 皮膚感作性	毒 - 39
(4) 急性神経毒性	毒 - 42
(5) 急性遅発性神経毒性	毒 - 48
(6) 90日間反復経口投与毒性	毒 - 49
(7) 21日間反復経皮投与毒性	毒 - 64
(8) 90日間反復吸入毒性	毒 - 69
(9) 反復経口投与神経毒性	毒 - 77
(10) 28日間反復投与遅発性神経毒性	毒 - 85
(11) 1年間反復経口投与毒性及び発がん性	毒 - 86
(12) 繁殖毒性及び催奇形成	毒 - 152
(13) 変異原性	毒 - 184
(14) 生体の機能に及ぼす影響	毒 - 224
(15) 解毒および治療	毒 - 231
(16) その他	毒 - 241
2. 原体混在物および代謝物	
(1) 急性毒性	毒 - 248
(2) 90日間反復経口投与毒性	毒 - 262
(3) 変異原性	毒 - 271
3. 製剤	
製剤毒性	毒 - 313
IX 動植物及び土壌等における代謝分解	代 - 1
1 動物	代 - 21
2 植物	代 - 60
3 土壌	代 - 134
4 加水分解	代 - 152
5 水中光分解	代 - 155
6 土壌吸着	代 - 163
7 その他	代 - 165
8 代謝分解の要約	代 - 173

## I. 開発の経緯

過去、日本農業における害虫管理の主体であった有機リン剤、カーバメート剤に代わり、数多くの合成ピレスロイド剤、あるいはジフェニル尿素を骨格に持つIGR(Insect Growth Regulator)剤が上市されてきた。しかしながら、それらに対する抵抗性が一部で問題になり、全く異なった活性基を持った殺虫剤の開発が強く望まれてきた。

このような背景の中で、日本特殊農薬製造株式会社（現名称：バイエルクロップサイエンス株式会社）の結城中央研究所では、稲作におけるウンカ及びヨコバイ類、蔬菜並びに果樹分野におけるアブラムシ類、コナジラミ類等の防除困難な吸汁性害虫である半翅目昆虫をターゲットとして、特異的に高い活性を示す化合物の検索を続けてきた。

同社は 年（昭和 年）よりニトロメチレン系殺虫剤の検索を始め、1984年（昭和59年）から本格的に化合物を合成、それらの生物活性の検索を開始した。その結果、1985年（昭和60年）2月に NTN33893 のコード番号で選抜された化合物が委託試験番号6331（一般名イミダクロプリド）である。様々な類縁化合物を合成し、殺虫活性を検索した過程において、パラクロロチアゾール基を付けると著しく活性があがること、ニトロメチレン基よりもニトロイミノ基の方が残効性に富むこと、5員環（イミダゾリジン環）の方が6員環（テトラヒドロピリミジン環）よりも一般的に活性が高いこと等が判明し、最終的にイミダクロプリドが選出された。

また同社内で試験を進めていく間に、イミダクロプリドは半翅目昆虫だけでなくイネミズゾウムシ、コガネムシ類幼虫のような鞘翅目昆虫、あるいは近年問題になっているミナミキイロアザミウマのようなアザミウマ目昆虫、鱗翅目昆虫の中でもキンモンホソガのようなハモグリガの類に対して特異的に極めて高い殺虫力と残効性を示すことも判明した。特に粒剤での稲の箱育苗施用では、低薬量でウンカ、ヨコバイ類とイネミズゾウムシ、イネドロオイムシとの同時防除が可能な薬剤の一つである。

日本では、イミダクロプリドは1988年（昭和63年）より公的試験機関において、6331の試験番号で水稻、野菜、果樹で数多くの害虫を対象にして、粒剤、水和剤、粉剤での試験が実施され、薬害もなく、安定した高い試験結果が得られ、1991年（平成3年）に商品名アドマイヤーの名称で水和剤、箱粒剤、1粒剤及び粉剤を登録申請し、1992年（平成4年）には登録が取得された。その後、フロアブル（1993年、平成5年）や顆粒水和剤（2000年、平成12年）等が開発・登録されている。

また2004年（平成16年）に、クロロニコチル系殺虫剤として初めて開発・上市されたこと及びその後の全世界的な農業への功績を賞し、「新規の化学構造と生物活性をもつクロロニコチル系殺虫剤（イミダクロプリド）の創出」として農林水産大臣賞が本化合物の創出者に授与された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

2003年（平成15年）の食品衛生法の改正公布による所謂ポジティブリスト制度の導入に伴って、2005年（平成17年）11月29日付でイミダクロプリドに関する「食品中の残留基準値」（以下、残留基準値）が設定された。

このポジティブリスト制度に対応する残留基準値の見直しは、別途申請された作物名「稲」の使用時期変更（米の基準値の変更）等とともに審議され、リスク評価機関の評価結果は次のとおりであった。

食品安全委員会（平成19年〔2007年〕6月14日付府食第596号）：  
 一日許容摂取量 0.057mg/kg体重/日

この結果を受け、薬事・食品衛生審議会 食品衛生分科会 農薬・動物用医薬品部会から次に示す残留基準値（抜粋）が平成21年6月30日付けで同審議会 食品衛生分科会に報告され、平成22年〔2010年〕4月6日付けで告示された。

平成22年4月6日付け改正のイミダクロプリドの残留基準値（抜粋）

食品名（抜粋）	残留基準値 (ppm)	残留の規制対象
米	1	イミダクロプリド本体。  但し、畜産物にあっては、イミダクロプリド及び6-クロロピリジル基を有する代謝物をイミダクロプリドに換算したものの和。
～省略～	～省略～	
その他の穀類	0.05	
～省略～	～省略～	
なす	0.5	
～省略～	～省略～	
ほうれんそう	2.5	
～省略～	～省略～	
コーヒー豆	0.7	
～省略～	～省略～	
その他のハーブ	5	
牛、豚、その他の陸棲哺乳類の筋肉	0.1	
牛、豚、その他の陸棲哺乳類の脂肪	0.02	
牛、豚、その他の陸棲哺乳類の肝臓、腎臓、食用部分	0.2	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

平成22年4月6日付け改正のイミダクロプリドの残留基準値（抜粋、続き）

食品名（抜粋）	残留基準値 (ppm)	残留の規制対象
乳	0.1	イミダクロプリド本体。  但し、畜産物にあつては、イミダクロプリド及び6-クロロピリジル基を有する代謝物をイミダクロプリドに換算したものの和。
鶏、その他の家きんの筋肉	0.02	
鶏、その他の家きんの脂肪	0.02	
鶏、その他の家きんの肝臓、腎臓、食用部分	0.1	
鶏の卵	0.02	
その他の家きんの食用部分	0.1	

その後、残留基準値の変更が必要な農薬登録申請及びインポートトレランス申請により、食品安全委員会での評価（評価結果通知日：平成22年9月9日、府食第704号）及び薬事・食品衛生審議会 食品衛生分科会 農薬・動物用医薬品部会の報告（報告日：平成23年5月13日）が行われ、イミダクロプリドの残留基準値の改正が平成23年〔2011年〕12月27日付けで以下のとおり行われた。

平成23年12月27日付け改正のイミダクロプリドの残留基準値（抜粋）

食品名（抜粋）	残留基準値 (ppm)	残留の規制対象
その他の穀類	3	イミダクロプリド本体。  但し、畜産物にあつては、イミダクロプリド及び6-クロロピリジル基を有する代謝物をイミダクロプリドに換算したものの和。
～省略～	～省略～	
なす	2	
～省略～	～省略～	
ほうれんそう	15	
～省略～	～省略～	
その他のハーブ	15	
牛、豚、その他の陸棲哺乳類の筋肉	0.3	
牛、豚、その他の陸棲哺乳類の脂肪	0.3	
牛、豚、その他の陸棲哺乳類の肝臓、腎臓、食用部分	0.3	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

またイミダクロプリドのカカオ豆の残留基準値に関して、検査部位の変更に係る評価（食品安全委員会の評価結果通知日：平成24年10月10日、府食第899号、薬事・食品衛生審議会 食品衛生分科会 農薬・動物用医薬品部会の報告日：平成24年11月15日）が行われた。

カカオ豆の検査部位の変更（変更前：外皮を含むもの、変更後：外皮を含まないもの）は、平成25年〔2013年〕7月2日付けで行われた。

ポジティブリスト制度の導入に伴う食品の残留基準値の設定と合わせて、飼料においても「飼料のイミダクロプリドの成分規格」（以下、飼料の残留基準値）が平成18年〔2006年〕5月22日付で設定された。

この飼料の残留基準値の見直しのため、食品安全委員会での評価（評価結果通知日：平成22年9月9日）及び第30回農業資材審議会飼料分科会（平成24年2月28日）での審議が行われ、以下に示すイミダクロプリドに関する飼料基準値が平成24年11月22日付けで告示された。

対象となる飼料	基準値 ppm (mg/kg)
えん麦	0.05
大麦	0.05
小麦	0.05
とうもろこし	0.05
マイロ	0.05
ライ麦	0.05
牧草 (*)	0.5

(\*) 稲わら及び稲発酵粗飼料を除く。

また、稲わら及び稲発酵粗飼料については、飼料の有害物質の指導基準においてイミダクロプリドの基準が次のとおり定められている。

対象となる飼料	基準 (mg/kg)
稲わら	10
稲発酵粗飼料	3

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

イミダクロプリドに農薬登録保留基準として、「水産動植物の被害防止に係る農薬登録保留基準」及び「水質汚濁に係る農薬登録保留基準」がそれぞれ以下のとおり設定されている。

- ・ 水産動植物の被害防止に係る農薬登録保留基準：8500  $\mu\text{g/L}$   
(平成20年11月25日付け告示)
- ・ 水質汚濁に係る農薬登録保留基準：0.15  $\text{mg/L}$  (平成22年12月1日付け告示)



## 国外での状況

諸外国では、イミダクロプリドは新しい活性基を持った殺虫剤であるばかりでなく、その高い基礎活性、残効性、浸透性に優れ、且つ、対象作物に葉害を起こす事例が著しく少ない安全な薬剤であること等がドイツのバイエル社においても高く評価され、同社により全世界的に開発が進められた。

イミダクロプリドは米国、カナダ、豪州及びEU加盟国といった126カ国又は地域（2009年現在）で農薬登録されている。これらの農薬登録国及び地域において、種子処理剤や土壌処理剤（主としてアブラムシ類を対象）の他、フロアブル製剤といった散布剤としても使用されている。

また、各種の穀類、豆類、いも類、野菜類、果樹類、オイルシード類、ナッツ類、茶、コーヒー豆及びホップといった多岐にわたる作物で使用されている。

### (1) 国際機関及び諸外国における一日摂取許容量(ADI)/慢性参照用量 (CRfD) 及び急性参照用量(ARfD)

FAO/WHO Joint Meeting on Pesticide Residues (JMPR)、米国環境保護庁 (EPA) および欧州食品安全機関 (EFSA) で毒性評価がなされており、それぞれ設定された一日摂取許容量 (ADI) あるいは慢性参照用量 (CRfD) および急性参照用量 (ARfD) は以下のとおりである。

JMPR (2001年) :

ADI; 0-0.06mg/kg/日 安全係数100

設定の根拠 ; 1年間発がん性併合毒性試験の無毒性量5.7mg/kg/日

ARfD; 0.4mg/kg/日 安全係数100

設定の根拠 ; 急性神経毒性試験の無毒性量 42mg/kg/日

米国EPA (2003年) :

CRfD; 0.057mg/kg/日 安全係数100

設定の根拠 ; 1年間発がん性併合毒性試験の無毒性量5.7mg/kg/日

ARfD; 0.14mg/kg/日 安全係数300

設定の根拠 ; 急性神経毒性試験の最小毒性量42mg/kg/日

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

EFSA (2007年) :

ADI; 0.06mg/kg/日 安全係数100

設定の根拠; 1年間発がん性併合毒性試験の無毒性量5.7mg/kg/日

ARfD; 0.08mg/kg/日 安全係数100

設定の根拠; イヌの90日反復経口毒性試験の無毒性量7.8mg/kg/日

## (2) 残留基準値

2002年に開催されたJMPRにおいて、イミダクロプリドの残留性に関する国際的な評価が行われた。その後、2006年、2008年及び2012年に開催されたJMPRにおいて、残留性に関する追加評価が実施されている。

現行のCODEX残留基準値を以下に示す。

CODEX残留基準値 (CXLs)

農産物	残留基準値 (mg/kg)	採択年
マンゴー	0.2	2004年
メロン類果実	0.2	2004年
なたね	0.05 (*)	2004年
サマースカッシュ	1	2004年
小麦粉	0.03	2004年
きゅうり	1	2004年
りんご搾り滓	5	2004年
未成熟豆[いんげん類似]	2	2004年
小麦ふすま	0.3	2004年
ホップ	10	2004年
ネクタリン	0.5	2004年
ライ麦の藁	1	2004年
カリフラワー	0.5	2004年
アプリコット	0.5	2004年

(\*) 検出限界値として

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

CODEX残留基準値 (CXLs) (続き)

農産物	残留基準値 (mg/kg)	採択年
たまねぎ	0.1	2004年
スイートコーン	0.02(*)	2004年
大麦の藁	1	2004年
リーキ	0.05(*)	2004年
穀類	0.05	2004年
なし	1	2004年
もも	0.5	2004年
トマト	0.5	2004年
ブロッコリー	0.5	2004年
りんご	0.5	2004年
とうもろこしのかいば	0.2	2004年
すもも類 (プルーンを含む)	0.2	2004年
かんきつ類果肉、乾燥	10	2004年
バナナ	0.05	2004年
キャベツ類	0.5	2004年
芽キャベツ	0.5	2004年
すいか	0.2	2004年
オート麦の藁	1	2004年
レタス頭部	2	2004年
なす	0.2	2004年
ぶどう	1	2004年

(\*) 検出限界値として

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

CODEX残留基準値 (CXLs) (続き)

農産物	残留基準値 (mg/kg)	採択年
ピーマン類 (peppers)	1	2004年
小麦の藁	1	2004年
甘味おうとう	0.5	2006年
とうがらし、乾燥	10	2006年
クランベリー	0.05(*)	2007年
未成熟豆[いんげん類似](さや無し)	2	2009年
未成熟豆[えんどう豆類似]	5	2009年
いちご	0.5	2009年
鳥の内臓可食部	0.05	2009年
ラディッシュの葉(ラディッシュの頭部を含む)	5	2009年
哺乳動物の内臓可食部	0.3	2009年
ベリー類及びその他の小果実	5	2009年
ピーナッツのかいば	30	2009年
ザクロ	1	2009年
鳥肉	0.02	2009年
根菜及び塊茎状野菜	0.5	2009年
アーモンドの外皮	5	2009年
コーヒー豆	1	2009年
ピーナッツ	1	2009年
哺乳動物の肉 (海洋哺乳類以外の哺乳類)	0.1	2009年

(\*) 検出限界値として

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

CODEX残留基準値 (CXLs) (続き)

農産物	残留基準値 (mg/kg)	採択年
卵	0.02	2009年
乳	0.1	2009年
ひまわりの種子	0.05(*)	2009年
木の実類	0.01(*)	2009年
かんきつ類果実 (きんかんを除く)	1	2013年
セロリ	6	2013年
豆類 (乾燥大豆を除く)	2	2013年

(\*) 検出限界値として

## II. 物理的・化学的性状

### 1. 有効成分の名称及び化学構造

1) 有効成分の一般名：イミダクロプリド、imidacloprid (ISO名)

2) 別名

商品名：アドマイヤー (Admire)

試験名：NTN 33893、6331

3) 化学名

IUPAC名：

[英名] 1-(6-chloro-3-pyridylmethyl)-N-nitroimidazolidin-2-ylideneamine

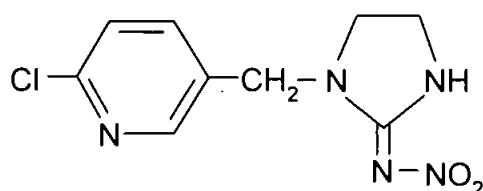
[和名] 1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N-ニトロイミダゾリジン-2-イリデンアミン

CAS名：

[英名] 1-[(6-chloro-3-pyridinyl)methyl]-N-nitro-2-imidazolidinimine

[和名] 1-[(6-クロロ-3-ピリジニル)メチル]-N-ニトロ-2-イミダゾリジンイミン

4) 構造式



5) 分子式  $C_9H_{10}ClN_5O_2$

6) 分子量 255.7 g/mol

7) CAS番号 138261-41-3、(旧登録番号：105827-78-9も参照可能)

### 2. 有効成分の物理的・化学的性状

- |          |                               |                                 |
|----------|-------------------------------|---------------------------------|
| 1) 外観・臭気 | 無色結晶 (固体) ・弱い特異臭              | 官能法                             |
| 2) 密度    | 1.41 g/cm <sup>3</sup> (20°C) | 比較比重計法<br>ドイツバイエル社<br>1995年、GLP |
| 3) 融点    | 144°C                         | 溶融顕微鏡法<br>ドイツバイエル社<br>1993年、GLP |
| 4) 沸点    | 常圧において熱分解から<br>測定困難           |                                 |

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

5) 蒸気圧	$2 \times 10^{-7}$ Pa (20°C)	蒸気圧天秤法 ドイツバイエル社 1993年、GLP
6) 溶解度		
水 (20°C)	0.48 g/L (20°C)	フラスコ法 日本バイエルアグロケム社 1987年、非 GLP
ヘキサン	<0.1 g/L (20°C)	フラスコ法
トルエン	0.68 g/L (20°C)	ドイツバイエル社
ジクロロメタン	55 g/L (20°C)	1990年、GLP
アセトン	47 g/L (20°C)	
2-プロパノール	1.2 g/L (20°C)	
オクタノール	0.78 g/L (20°C)	
ポリエチレングリコール	39 g/L (20°C)	
ポリエチレングリコール +エタノール 1+1	23 g/L (20°C)	
ジメチルホルムアミド	>200 g/L (20°C)	
ジメチルスルホキシド	>200 g/L (20°C)	
アセトニトリル	46 g/L (20°C)	
メタノール	10 g/L (20°C)	フラスコ法 日本バイエルアグロケム社 非 GLP
7) 解離定数 (pKa)	通常条件下では測定できず (非常に弱い塩基性のため)	滴定法 ドイツバイエル社 1990年 (1992年改定)、非 GLP
8) 分配係数 (n-オクタノール/水)	$\log P_{ow} = 0.57$ (21°C)	フラスコ振とう法 ドイツバイエル社 1990年 (1992年改定)、非 GLP
9) 安定性		
①熱	200°C 以上で分解	示差熱分析及び熱重量分析 ドイツバイエル社 1988年、非 GLP
②加水分解性	$t_{1/2}$ : 分解せず (25°C、pH 5) $t_{1/2}$ : 分解せず (25°C、pH 7) $t_{1/2}$ : 355 日 (25°C、pH 9)	EPA § 161-1 日本バイエルアグロケム社 1989年、GLP
③水中光分解性		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

滅菌緩衝液	$t_{1/2}$ : 57 分 (25°C) (0.89-0.95 W/m <sup>2</sup> , 310~400 nm)	EPA § 161-2 日本バイエルアグロケム社 1988 年、GLP
自然水	$t_{1/2}$ : 61 分 (25°C) (78.62 W/m <sup>2</sup> , 270~400 nm)	EPA § 161-2 日本バイエルアグロケム社 1991 年、非 GLP
10) UV、赤外、MS、NMR ( <sup>1</sup> H-, <sup>13</sup> C-) 等のスペクトル		ドイツバイエル社 1987 年、非 GLP



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

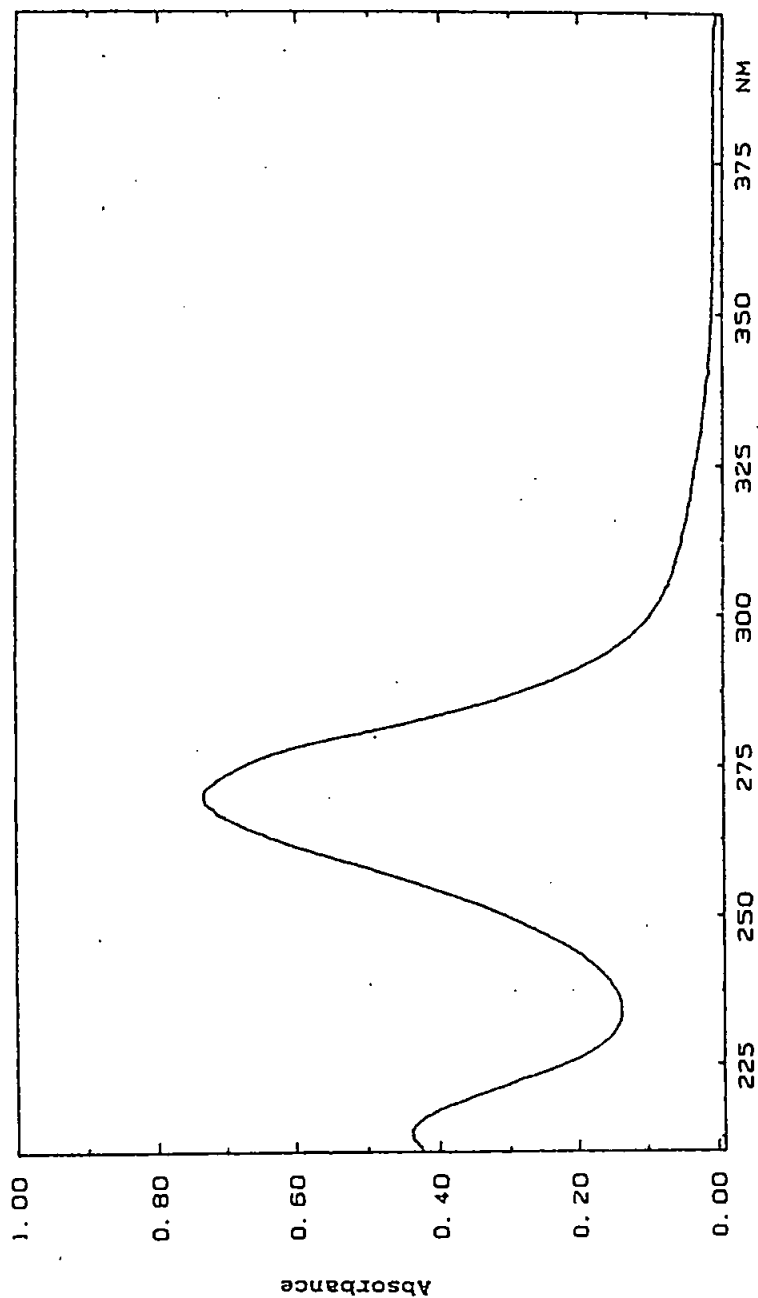
## 1. 紫外可視吸収スペクトル

被験物質	NTN 33893 ( %) (バッチ No. APF 08128650)
日付	1987年9月6日
試験機関	バイエル エルバフェルト研究所
測定条件	
測定機器	分光光度計 554 (Perkin-Elmer)
溶媒	メタノール
濃度	$3.8122 \times 10^{-2}$ mg/mL
セル形状 (光路長)	0.2 cm 室温
測定温度	
測定結果	
最大吸収波長	269.6 nm
モル吸光係数	8910.601

NTN 33893

UV Spectrum

SOLVENT : METHANOL  
CONCENTRATION : 3.8122E-02 MG/ML  
VELOCITY : 120 NM/MIN  
PATH-LENGTH : 0.2 CM  
DATE : 09.06.1987  
SLIT : 1 NM  
EXPANSION : 9.5 NM/CM

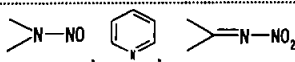
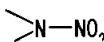


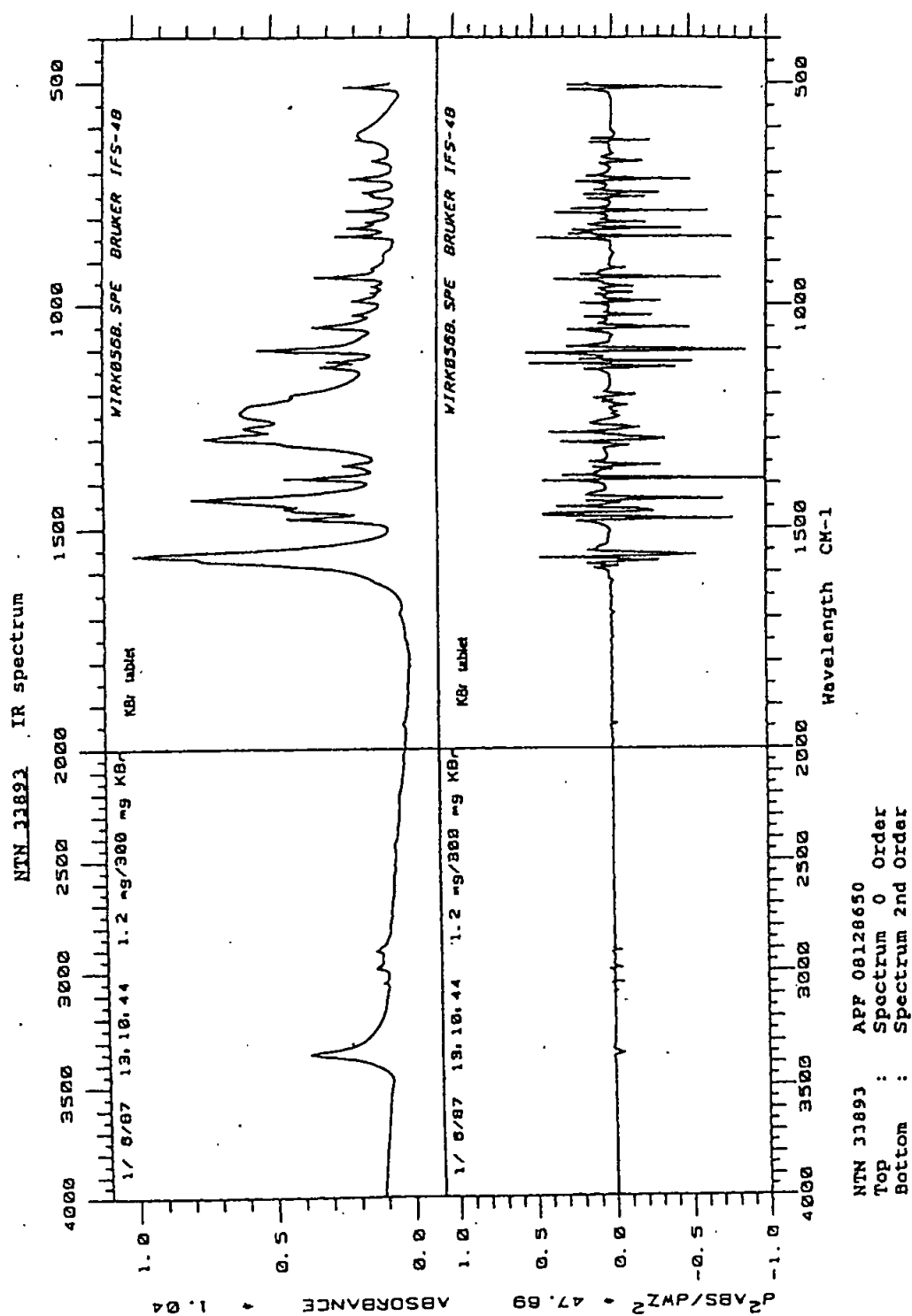
溶媒	メタノール
濃度	$3.8122 \times 10^{-2}$ mg/mL
最大吸収波長	269.6 nm
モル吸光係数	8910.601

紫外吸収スペクトル

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

## 2. 赤外吸収スペクトル

被験物質	NTN 33893 ( %) (バッチ No. APF 08128650)	
日付	1987年6月1日	
試験機関	バイエル エルバフェルト研究所	
測定条件		
測定機器	Bruker IFS-48	
測定法	KBr 法	
濃度	1.2 mg/300 mg KBr	
ピークの帰属	吸収波長 (cm-1)	吸収部位
	3354	NH
	3049	CH- aromatic
	2984	CH- aliphate
	2906	
	1563	
	1298	
	825	=CH-pyridine, 2,5-disubstituted



測定法  
濃度

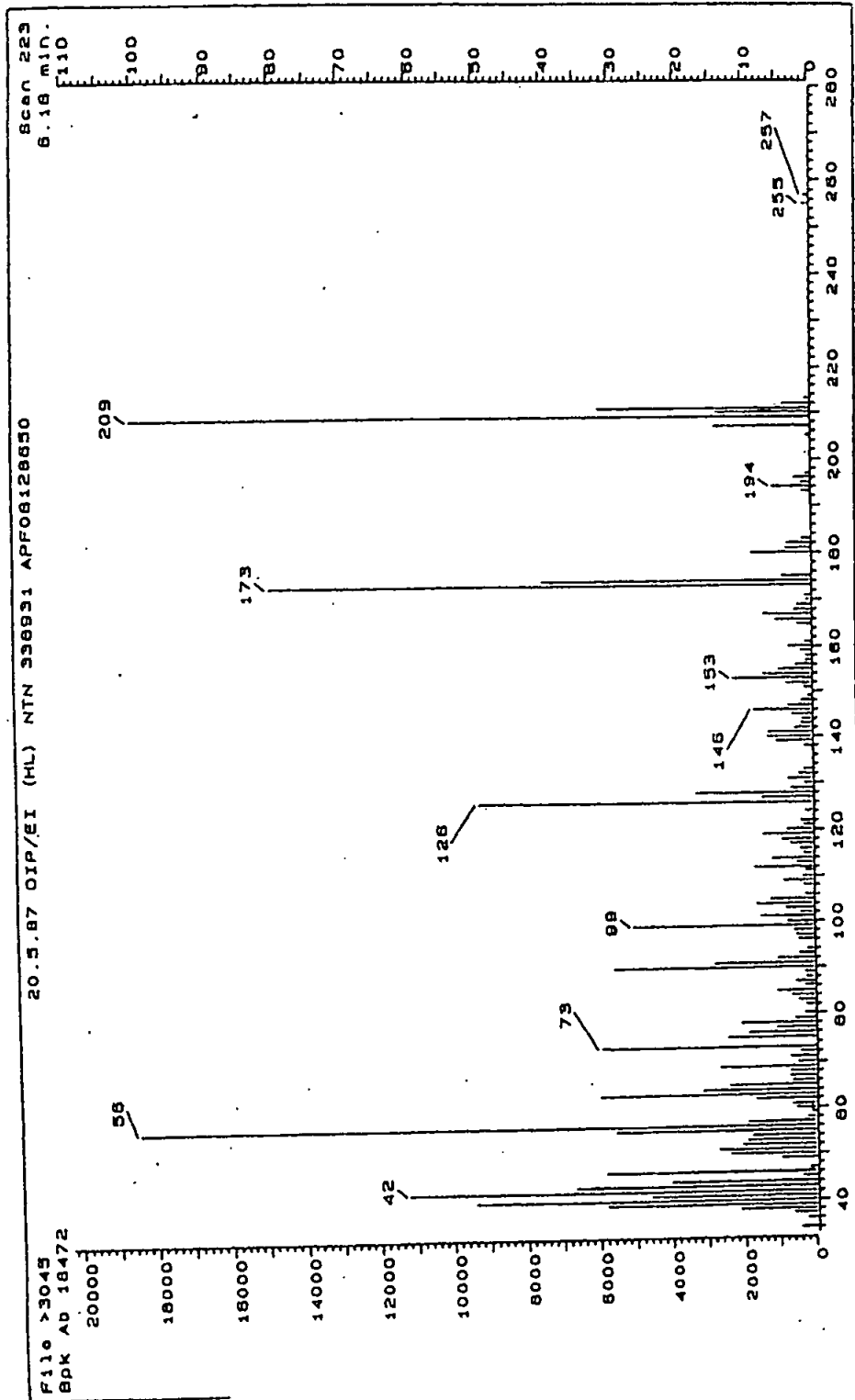
KBr 法  
1.2 mg/300 mg KBr

赤外吸収スペクトル

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

### 3. 質量スペクトル

被験物質	NTN 33893 ( % ) (バッチ No. APF 08128650)	
日付	1985 年 8 月 29 日	
試験機関	バイエル エルバフェルト研究所	
測定条件		
測定機器	HP 5987	
導入法	直接導入法	
イオン化法	電子衝撃法	
イオン化電圧	70 eV	
イオン源温度	200°C	
ピークの帰属	m/z	
	255	分子イオン (M+) = C <sub>9</sub> H <sub>10</sub> ClN <sub>5</sub> O <sub>2</sub>
	209	M+ - NO <sub>2</sub>
	173	m/z 209 - HCl
	126	Cl-C <sub>5</sub> NH <sub>3</sub> -CH <sub>2</sub>
	90	m/z 126 - HCl



41 社

直接導入法

導入法

イオン化法

イオン化電圧

イオン源温度

直接導入法

電子衝撃法

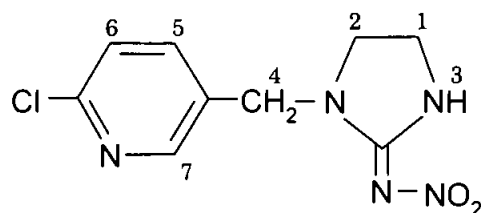
70 eV

200°C

質量スペクトル

4. 核磁気共鳴スペクトル (<sup>1</sup>H)

被験物質	NTN 33893 ( % ) (バッチ No. APF 08128650)			
日付	1987年6月11日			
試験機関	バイエル エルバフェルト研究所			
測定条件	測定機器 Bruker, model AM 250 周波数 250 MHz 溶媒 重クロロホルム 基準物質 テトラメチルシラン (TMS) 濃度 19.35 mg/mL 測定温度 約 27°C			
ピークの帰属	H-atom	δ /ppm	mult.	rel.No.H
	2	3.82	DD	2
	1	3.53	DD	2
	4	4.55	S	2
	5	7.36	D	1
	6	7.70	DD	1
	3	8.1~8.3	BS	1
	7	8.33	D	1

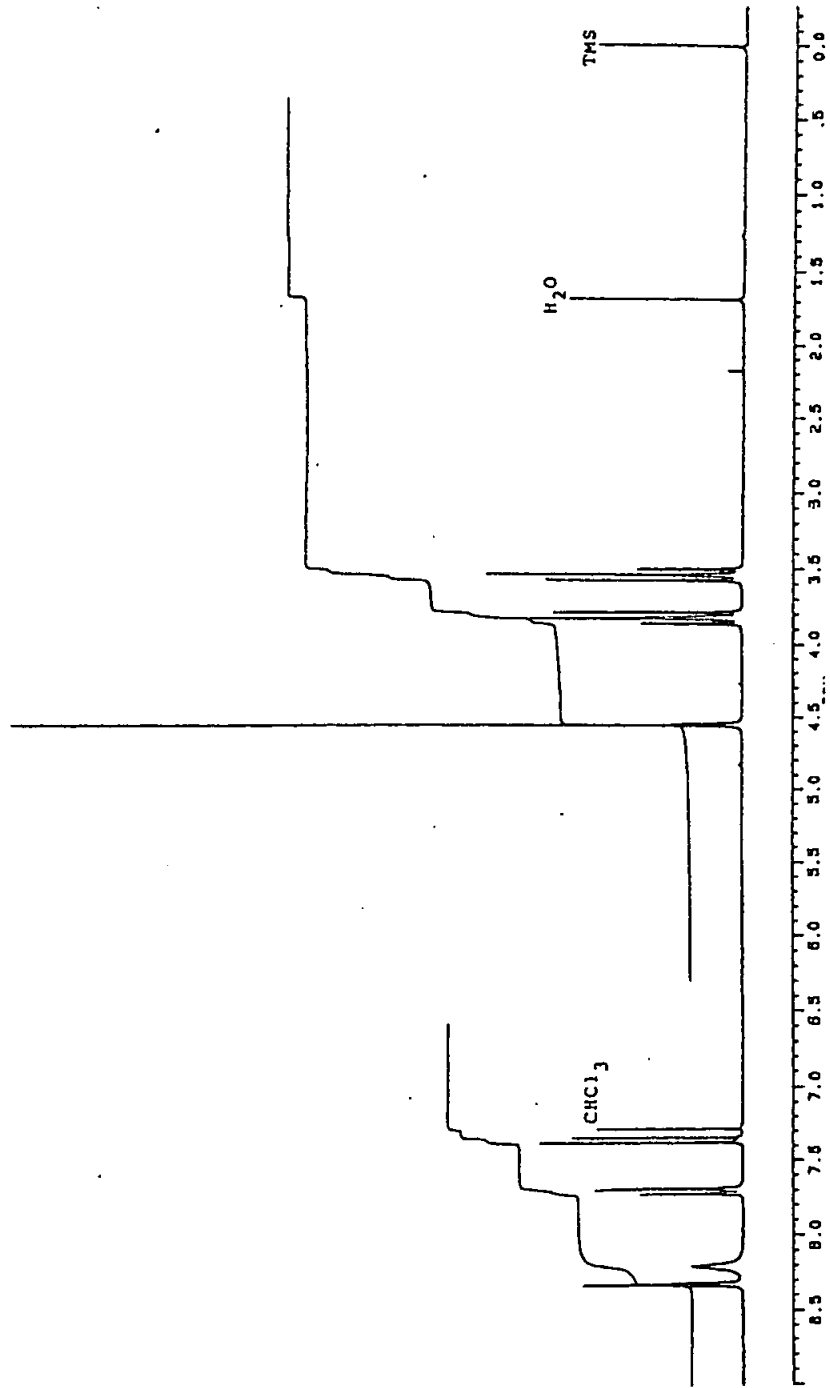


本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

NTN\_33893

<sup>1</sup>H-NMR Spectrum

sample: batch no. APF 08128650



周波数

250 MHz

溶媒

重クロロホルム

基準物質

テトラメチルシラン (TMS)

濃度

19.35 mg/mL

測定温度

約 27°C

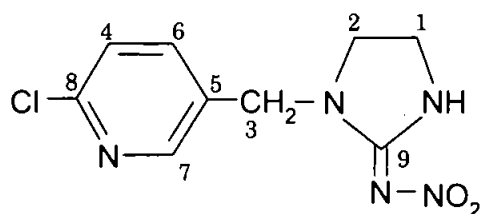
核磁気共鳴スペクトル (<sup>1</sup>H)



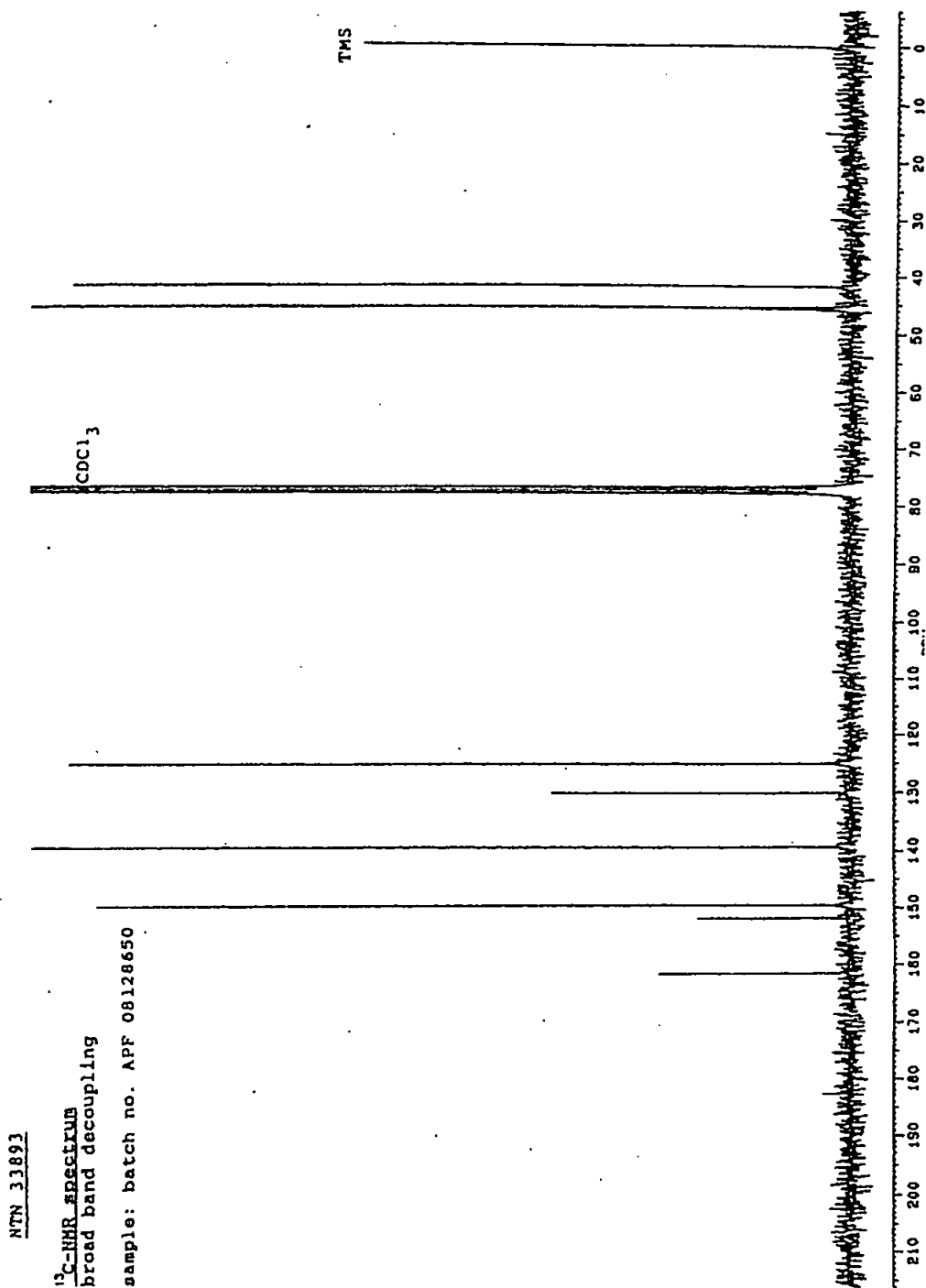
本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

5. 核磁気共鳴スペクトル ( $^{13}\text{C}$ )

被験物質	NTN 33893 ( % ) (バッチ No. APF 08128650)			
日付	1987年6月11日			
試験機関	バイエル エルバフェルト研究所			
測定条件	Bruker, model AM 250			
測定機器	62.89 MHz			
周波数	重クロロホルム			
溶媒	テトラメチルシラン (TMS)			
基準物質	24.3 mg/mL			
濃度	約 30°C			
測定温度	C-atom	$\delta$ /ppm	mult.	rel.No.C
ピークの帰属	1	41.51	T	1
	2	45.20	T	1
	3	45.34	T	1
	4	124.77	D	1
	5	129.82	S	1
	6	139.08	D	1
	7	149.33	D	1
	8	151.61	S	1
	9	161.31	S	1



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

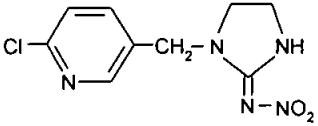


周波数	62.89 MHz
溶媒	重クロロホルム
基準物質	テトラメチルシラン (TMS)
濃度	24.3 mg/mL
測定温度	約 30°C

核磁気共鳴スペクトル ( $^{13}\text{C}$ )

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

### 3. 原体の成分組成

区分	名称		構造式	分子式	分子量	含有量 (%)	
	一般名	化学名				規格値	通常値又はレンジ
有効成分	イダクアブライド	1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N-ニトロイミダゾリジン-2-イリデンアミン		$C_9H_{10}ClN_5O_2$	255.7		
原体							
混在物							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

#### 4. 製剤の組成

① 2%粒剤 (アドマイヤー箱粒剤)	%
イミダクロプリド原体	2.0
鉍物質微粉 等	98.0
計	100.0
<hr/>	
② 1%粒剤 (アドマイヤー1粒剤)	%
イミダクロプリド原体	1.0
鉍物質微粉 等	99.0
計	100.0
<hr/>	
③ 10%水和剤 (アドマイヤー水和剤)	%
イミダクロプリド原体	10.0
鉍物質微粉、界面活性剤 等	90.0
計	100.0
<hr/>	
④ 20%フロアブル剤 (アドマイヤーフロアブル、 タフバリアフロアブル)	%
イミダクロプリド原体	20.0
水、界面活性剤 等	80.0
計	100.0
<hr/>	
⑤ 70%粉末 (ガウチョVM)	%
イミダクロプリド原体	70.0
鉍物質微粉 等	30.0
計	100.0
<hr/>	
70%粉末 (ガウチョWS)	%
イミダクロプリド原体	70.0
界面活性剤、鉍物質微粉 等	30.0
計	100.0

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

⑥ 50%顆粒水和剤 (アドマイヤー顆粒水和剤)		%
イミダクロプリド原体	50.0	
鉍物質微粉、界面活性剤 等	50.0	
計	100.0	
⑦ 0.005%液剤 (ブルースカイAL)		%
イミダクロプリド原体	0.0050	
水、界面活性剤 等	99.995	
計	100.0	
⑧ 0.5%粒剤 (ブルースカイ粒剤)		%
イミダクロプリド原体	0.50	
界面活性剤、鉍物質 等	99.50	
計	100.0	

### III 生物活性

ニトロメチレン関連化合物の作用機作についてみると、Schröder と Flattum (1984) が nithiazine (Soloway et al. 1979) タイプのニトロメチレン環状化合物のターゲットがニコチン性のアセチルコリン受容体であること、また、その働きが興奮の誘導と神経伝達の遮断であることを電気生理学的手法を用いてはじめて明らかにした。

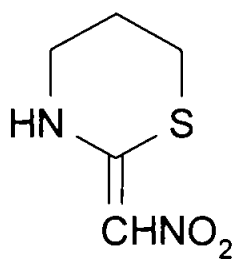
その後、imidacloprid タイプや 3-pyridyl methyl 基を有するニトロメチレン環状化合物や作用機構が研究され (Sattelle et al., 1989; Benson, 1989; Cheung et al., 1992)、nithiazine と同様にアセチルコリン受容体に作用することが報告された。Imidacloprid 自身の作用機構は、電気生理学的手法を用いた研究や受容体結合の研究から明らかにされてきている。

受容体結合の研究についてみると、Abbink (1991) がサシバエ (*Stomoxys calcitrans*) のアセチルコリン受容体を用い  $^3\text{H}$ -bungarotoxin をリガンドとして、また、Bai et al. (1991) がゴキブリの中枢神経を用い  $^{125}\text{I}$ -bungarotoxin をリガンドとして、Tomizawa and Yamamoto (1992) がミツバチ (*Apis mellifera*) のアセチルコリン受容体を用い  $^{125}\text{I}$ -bungarotoxin をリガンドとして、Lui et al. (1993) がイエバエ (*Musca domestica*) のアセチルコリン受容体を用い  $^3\text{H}$ -imidacloprid をリガンドとして結合実験を行い、imidacloprid がアセチルコリン受容体に結合していることを明らかにした。

一方、電気生理学的手法を用いた研究では、Sone et al. (1994) がワモンゴキブリ (*Peripranata americana*) の中枢神経系を用いて細胞外電位を測定し、ニコチン性のアセチルコリン受容体であること、その働きが興奮の誘導と神経伝達の遮断であることを報告している。Bai et al. (1991) は、ワモンゴキブリ (*Peripranata americana*) の中枢神経系を用いて細胞内電位を測定し、imidacloprid がアゴニストとして働いていることを報告している。Methfessel (1992) はラットの筋細胞を、Nagata et al. (1996, 1998a, b) はニコチン性アセチルコリン受容体を有するラットのガン細胞である PC-12 を用いて、Patch-clamp 法によりチャンネルレベルでの imidacloprid の作用性を研究し、パーシャルアゴニスト (部分的アゴニスト) であることを報告している。これらの研究から、imidacloprid がニコチン性アセチルコリン受容体に結合し、ア

ゴニストとして作用することが明らかになった。

Imidacloprid 関連化合物の構造活性相関は、Moriya et al. (1992, 1993a, b)、Kagabu et al. (1992) および K. Shiokawa et al. (1992) によってなされ、高い殺虫活性を示すには 1-(6-chloro-3-pyridyl)-methyl 基を有することが必須であることを報告した。一方、山本ら (Tomizawa and Yamamoto, 1993; Yamamoto and Tomizawa, 1993) は、nicotine と imidacloprid が共に化学構造中に 3-pyridyl-methyl-amino 部分を持つ点に注目し、ニコチン類縁体と imidacloprid 類縁体の構造活性相関、作用機構を比較し、両方のグループが作用点、必須構造部分を同じくし、構造活性相関も類似していることから、imidacloprid をニコチン類縁体の 1 種であると位置づけた。すなわち、imidacloprid 類縁体では、イオン化したピロリジル窒素原子の電子が、ニトロメチレン、ニトロイミン、シアノイミン等の電子吸引基により非局在化し、言い換えると部分的に陽荷電を帯び、その陽荷電が受容体部分の結合に働いていることが明らかになった (Yamamoto et al, 1995)。この他、imidacloprid 類縁化合物の構造活性相関、受容体結合の研究、電気生理学的手法を用いた研究は、近年多くの研究者によりなされている (Lui et al., 1993; Lui et al., 1994; Nishimura et al., 1994; Zwart, 1994; Tomizawa et al., 1995a, b; Tomizawa et al., 1996, Yamamoto et al, 1998; Matsuo et al, 1998)。



nithiazin

Imidacloprid の植物体内での代謝物と生物活性の関係については Nauen らが、モモアカアブラムシやタバココナジラミを用いて調べている。

Imidacloprid の代謝物のうち、オレフィン体や還元体を経口的に虫体へ処理した場合、オレフィン体は親化合物に比べ 10 倍 (タバココナジラミ) から 16 倍 (アブラムシ) の活性を示し、還元体は 5 倍程度 (モモアカアブラムシ) の活性を有する。水酸化体も若干劣るもののアブラムシやタバココナジラミに活性を示す。一方、経皮的に虫体へ処理した場合は経口的に処理した場合に比べ、

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

オレフィン体を始めとする各代謝物の活性は Imidacloprid 本体の活性より劣ることが知られている。

また、オレフィン体代謝物のニコチン性アセチルコリン受容体への結合力は Imidacloprid 本体より若干高い値を示しており、生物活性の高さを裏付けている。

#### [生物活性]

##### 1. 活性の範囲

社内試験、並びに公的機関における委託試験の結果、イミダクロプリドの茎葉散布及び粒剤の育苗箱、または土壌施用では別表のような殺虫スペクトラムを示した。

半翅目、鞘翅目、総翅目及び一部の鱗翅目害虫に高い活性が認められている。



## イミダクロプリドの殺虫活性一覧

作物及び害虫の種類		殺虫活性 (一～++++)	
学名	和名	茎葉散布	育苗箱 又は土壌施用
<u>[ 水 稻 ]</u>			
<u>半 翅 目</u>			
<i>Nephotettix cincticeps</i> /R	ツマグロヨコバイ	++++	++++
<i>Nilaparvata lugens</i> /R	トビイロウンカ	+++	++++
<i>Sogatella furcifera</i> /R	セジロウンカ	+++	++++
<i>Laodelphax striatellus</i> /R	ヒメトビウンカ	++	+++
<i>Leptocorisa chinensis</i>	クモヘリカメシ	+	
<i>Nezara viridula</i>	ミミアカメシ	++	
( Dwarf virus	稲萎縮病		++++)
( Yellow dwarf disease	稲黄萎病		++++)
( Stripe virus	稲縞葉枯病		+++ )
( ) 内は媒介昆虫防除による間接的効果を示す。			
<u>鞘 翅 目</u>			
<i>Lissorhoptrus oryzophilus</i>	イネミスヅウムシ	+	+++
<i>Oulema oryzae</i> /R	イネトノロイムシ	++	++++
<u>総 翅 目</u>			
<i>Baliothrips biformis</i>	イネアザミウマ	+++	++
<u>鱗 翅 目</u>			
<i>Chilo suppressalis</i>	ニカメイチュウ	-	-
<i>Cnaphalocrocis medinalis</i>	コブノメイガ	+	-
<i>Parnara guttata</i>	イネツトムシ		+-
<i>Naranga aenescens</i>	フタホトコヤガ		++
<u>直 翅 目</u>			
<i>Oxya yezoensis</i>	コハネナゴ	++	
<u>双 翅 目</u>			
<i>Hydrellia griseola</i>	イネヒメモクリハエ		++

作物及び害虫の種類		殺虫活性 (一～++++)	
		茎葉散布	育苗箱 又は土壌施用
学名	和名		
[ 果菜 ]			
<u>半翅目</u>			
<i>Myzus persicae</i> /R	モモアブラムシ	+++	++++
<i>Aphis gossypii</i> /R	ワタアブラムシ	+++	++++
<i>Macrosiphum euphorbiae</i>	チューリップヒゲナガアブラムシ	++	+++
<i>Trialeurodes vaporariorum</i>	オンシツコナジラミ	+++	++
<i>Bemisia argentifolii</i>	シルバーリーフコナジラミ	+++	++
<u>鞘翅目</u>			
<i>Psylliodes angusticollis</i>	ナスノミハムシ		++
<i>Ailacophpra femoralis</i> /R	ウリハムシ	+++	
<u>総翅目</u>			
<i>Thrips palmi</i> /R	シメキイロアザミウマ	+++	+++
<i>Thrips setosus</i>	ダイスウスイロアザミウマ		+++
<i>Frankliniella occidentalis</i>	シカンキイロアザミウマ	+	+
<u>双翅目</u>			
<i>Liriomyza trifolii</i>	ママハモクリバエ	+	+
[ 根菜、葉菜、イチゴ、いも類 ]			
<u>半翅目</u>			
<i>Myzus persicae</i> /R	モモアブラムシ	+++	++++
<i>Brevicoryne brassicae</i>	ダイコンアブラムシ	+++	++++
<i>Lipaphis erysimi</i>	ニセダイコンアブラムシ	+++	++++
<i>Aphis gossypii</i> /R	ワタアブラムシ	+++	++
<i>Aulacorthum solani</i>	ジヤカイモヒゲナガアブラムシ	++	++
<u>鞘翅目</u>			
<i>Anomala cuprea</i>	ドウカネブイブイ		++++
<i>Phyllotreta striolata</i>	キスジノミハムシ		+
<u>鱗翅目</u>			
<i>Plutella xylostella</i> /R	コナガ	+	+
<i>Pieris rapae crucivora</i>	モンシロチョウ	+-	-
<i>Plusia nigrisigna</i>	タマナギソウワバ	+-	-
<i>Mamestra brassicae</i>	ヨトウガ	+	
<i>Spodoptera litura</i>	ハスモンヨトウ	+	

作物及び害虫の種類		殺虫活性 (一~++++)	
		茎葉散布	育苗箱 又は土壌施用
学名	和名		
[ マメ類 ]			
<u>半翅目</u>			
<i>Aphis craccivora</i>	マメアブラムシ	++	+
<i>Megoura crassicauda</i>	ソラマヒゲナガアブラムシ	++	++
<i>Riptortus clavatus</i>	ホソハリカメシ	+	
<u>鞘翅目</u>			
<i>Anomala cuprea</i>	トウガネブイブイ		++++
<u>双翅目</u>			
<i>Hylemya platura</i>	タネバエ		+
[ 果樹、茶、花木等の多年生作物 ]			
<u>半翅目</u>			
<i>Aphis gossypii</i> /R	ワタアブラムシ	+++	
<i>Aphis spiraeicola</i>	ユキヤナギアブラムシ	+++	
<i>Hyalopterus pruni</i>	モモコブキアブラムシ	+++	
<i>Myzus persicae</i>	モモアブアブラムシ	+++	
<i>Ovatus crataegarius</i>	ハッカイボアブラムシ	+++	
<i>Schizaphis piricola</i>	ナシノアブラムシ	+++	
<i>Eriosoma lanigerum</i>	リンゴワタムシ	++	
<i>Arboridia apicalis</i>	フタテンヒメヨコバエ	+++	
<i>Empoasca onuki</i> /R	チャノミドリヒメヨコバエ	++++	
<i>Stephanitis pyrioides</i>	ツツシケンバエ	+++	
<i>Unaspis yanonensis</i>	ヤノネカイガラムシ	++	
<i>Pseudococcus comstocki</i>	クワコナカイガラムシ	++	
<i>Phenacoccus pergandei</i>	オオワタコナカイガラムシ	++	
<i>Lygocoris spinolai</i>	ウスミドリメクラカメ	++	
<u>鞘翅目</u>			
<i>Anomala cuprea</i>	トウガネブイブイ	++++	
<i>Anoplophora malasiaca</i>	コマダラカミキリ	+++	
<u>総翅目</u>			
<i>Scirtothrips dorsalis</i> /R	チャノキイロアザミウマ	+++	

作物及び害虫の種類		殺虫活性 (一～++++)	
学名	和名	茎葉散布	育苗箱 又は土壌施用
[ 果樹、茶、花木等の多年生作物 ] (続き)			
<u>鱗翅目</u>			
<i>Phyllocnistis citrella</i>	ミカンハモグリガ	++++	
<i>Phyllonorycter ringoneella</i>	キンモンホカ	+++	
<i>Lyonetia prunifoliella</i>	キンモンハモグリガ	+++	
<i>Caloptilia theivora</i>	チャノホカ	++	
<i>Adoxophyes sp.</i>	チャノコカクモンハマキ	-	
<i>Homona magnanima</i>	チャハマキ	-	
<i>Grapholita molesta</i>	ナシヒメシクイ	+	
[ その他 ]			
<i>Coptotermes formosanus</i>	イシアリ		++++
<i>Panonychus citri</i> /R	ミカンダニ	-	
<i>Tetranychus urticae</i> /R	ナシダニ	-	
<i>Nematodes</i>	線虫類		-
<i>Musca domestica</i>	イエバエ	-	
<i>Culex pipiens</i>	アカイカ	+	
/R	: 抵抗性系統		
評価	++++	: 卓効	
	+++	: 有効	
	++	: やや劣るが有効(中程度の対照薬剤並)	
	+	: 効果不十分	
	+-	: 劣るまたは無効	
	-	: 無効	

## 2. 作用特性と防除上の利点等

イミダクロプリドは化学構造から、クロロニコチニル系に属し、有機りん剤、カーバメート剤やピレスロイド剤とは異なる作用機構を持つ系統の殺虫剤であり、次のような特徴を備えている。

\* 従来の殺虫剤に感受性の低下した害虫にも交差抵抗性が認められず、低薬量で

高い効果を示す。

- \* 低薬量で有効とされているピレスロイド剤と同等又はそれ以上の高い生物活性とピレスロイド剤、IGR剤には欠けている強い浸透移行性があり、従来の薬剤では考えられなかった画期的防除法の確立が可能。
- \* 特に粒剤は残効性に優れ長期間に亘ってウイルス媒介昆虫を駆除できることから間接的にウイルス病の防除が可能になった。
- \* イネミズゾウムシやイネドロオイムシ等の水田初期害虫はもちろん、半翅目に対して長期の残効性を有するので、中～後期に飛来加害するセジロウンカやトビロウンカの通年防除が育苗箱施用の一発処理で可能となった。
- \* 長期持続型のいもち病防除剤との育苗箱施用混合剤により、水稻病虫害防除の省力化が可能となった。
- \* 各作物に対する安全性については化合物(イミダクロプリド)そのものの植物親和性の良さに加えて使用薬量が有機燐剤、カーバメート剤の1/5-1/10と少ないため、各製剤、各作物共に、実用上問題になる薬害は報告されていない。
- \* 魚毒性やクモ等天敵に対する毒性が低く水田でも安全に使用できる。
- \* 薬剤の特性を最大限に利用発揮させるため、粒剤、粉剤、フロアブル剤、顆粒水和剤、各種混合製剤が開発され使用されている。また、更なる薬量低減ならびに省力化を目指し、育苗箱播種時処理や種子処理用製剤が開発された。

イミダクロプリドの害虫に対する作用性は特異的で、従来の殺虫剤のような苦悶、痙攣等の症状は全く見られない。運動機能の抑制により摂食、交尾、産卵等の活動が停止または低下するのが特徴である。このため、一方では虫の生育不良、発育停止、餓死などの直接殺虫効果として、一方では交尾、産卵行動の停止または生育不良による産卵数の減少が次世代密度抑制効果として現れる。又、圃場条件下では同じ現象が植物体への加害防止作用として観察されることもある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

## IV. 適用及び使用上の注意

### 1. 適用病害虫の範囲及び使用方法

#### ① 2%イミダクロプリド粒剤 (名称：アドマイヤー箱粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イダクプロリトを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ツマグロヨコバイ ウカ類 イネズゾウムシ イネザミマ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50～80g	移植2日前 ～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	3回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田での散布は 2回以内)
	イネトオムシ イネヒメグサリバエ	育苗箱1箱 当り50g				

#### ② 2%イミダクロプリド・2%インチアニル粒剤 (名称：ルーチンアドマイヤー箱粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イダクプロリトを含む農薬の総使用回数	インチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	内穎褐変病 穂枯れ (ごま葉枯病菌)	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	3回以内 (移植時までの処理は 1回以内、 本田での散布は 2回以内)	3回以内 (移植時までの処理は 1回以内、 本田では 2回以内)
	白葉枯病 もみ枯細菌病		は種時 (覆土前) ～ 移植当日				
	イネヒメグサリバエ イネズゾウムシ イネトオムシ ツマグロヨコバイ ウカ類 いもち病		は種前		育苗箱の床土 又は覆土に均一に混和する。		
	イネザミマ		は種時 (覆土前) ～ 移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
			は種前		育苗箱の床土に均一に混和する。		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

③ 1%イミダクロプリド粒剤 (名称: アドマイヤー1 粒剤)

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	
稲	—	ツマゲロコバイウカ類	3kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	3回以内 (種もみへの処理又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	
かんきつ(苗木)		ミカンハダカ	20g/樹 (但し、6kg/10aまで)	育苗期		1回	株元散布	—
豆類(種実、ただし、だいずを除く)		アブラムシ類	3kg/10a	は種時	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5~4L)当り50g		播溝土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
だいず							本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの培土に均一に混和する	
えだまめ			3kg/10a	定植時	播溝土壌混和		3回以内 (定植時及びは種時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)	
			2g/植穴 (但し、6kg/10aまで)		植穴土壌混和			
豆類(未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげん、未成熟そらまめを除く)			3kg/10a	は種時	播溝土壌混和			
さやいんげん			1~2g/株 (但し、6kg/10aまで)	定植時又はは種時	植穴土壌混和			
未成熟そらまめ			3kg/10a	は種時	播溝土壌混和		3回以内 (定植時及びは種時の土壌混和は1回以内)	
			2g/植穴 (但し、6kg/10aまで)	定植時	植穴土壌混和			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

③ 1%イミダクロプリド粒剤（名称：アドマイヤー1粒剤）（続き）

作物名	適用場所	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	イミダクロプリド を含む農薬 の総使用回数
きゅうり	—	アブラムシ類	1g/株	育苗期 後半	1回	株元 散布	4回以内 (育苗期の株元 散布及び定植 時の土壌混和 は合計1回 以内、散布及び 常温煙霧は 合計3回以内)
		アブラムシ類 アザミヤカ類	1～2g/株	定植時		植穴又は 株元土壌 混和	
コジラミ類		2g/株	植穴 土壌混和				
ズッキーニ			アザミヤカ類 コジラミ類	5g/株(但 し、3kg/10a まで) 1～5g/株 (但し、 3kg/10a まで)		定植時	株元 土壌混和
		アブラムシ類	植穴 土壌混和				
すいか		アザミヤカ類	1～2g/株 (但し、 3kg/10a まで)	定植時		株元 土壌混和	
		アブラムシ類	1g/株			育苗期 後半	株元散布
メロン		アブラムシ類 アザミヤカ類	1～2g/株	定植時		植穴又は 株元土壌 混和	
		コジラミ類	2g/株			植穴 土壌混和	
		コジラミ類 アザミヤカ類	2g/株			3回以内 (定植時の土壌 混和は1回 以内、散布は 2回以内)	
かぼちゃ	アブラムシ類	1～2g/株	定植時	植穴又は 株元 土壌混和	2回以内 (定植時の 土壌混和は 1回以内)		
にがうり	アブラムシ類	1g/株		植穴 土壌混和	1回		
まくわうり							



③ 1%イミダクロプリド粒剤 (名称：アドマイヤー1 粒剤) (続き)

作物名	適用場所	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	イミダクロプリド を含む農薬 の総使用回数
トマト ミニトマト	—	コジラミ類	0.5～1g/株	育苗期 後半	1回	株元散布	3回以内 (育苗期の株元 散布及び 定植時の土壌 混和は合計 1回以内、散布 は2回以内)
		アブラムシ類 コジラミ類	1～2g/株	定植時		植穴 土壌混和	
ピーマン とうがらし類		アブラムシ類	1g/株	育苗期 後半		株元散布	
		アブラムシ類 アザミヤカ類	1～2g/株	定植時		植穴又は 株元 土壌混和	
なす		アブラムシ類	1g/株	育苗期 後半		株元散布	3回以内 (育苗期の株元 散布及び定植 時の土壌混和 は合計1回 以内、散布及び 常温煙霧は 合計2回以内)
		アブラムシ類 アザミヤカ類	1～2g/株			植穴又は 株元 土壌混和	
わけぎ あさつき		アザミヤカ類	4kg/10a			植溝 土壌混和	3回以内 (定植時の土壌 混和は1回 以内、散布は 2回以内)
ねぎ							3回以内 (定植時までの 処理は1回 以内、散布は 2回以内)
はくさい				定植時			3回以内 (育苗期の灌水 及び定植時の 土壌混和は合 計1回以内、散 布は2回以内)
キャベツ		アブラムシ類	0.5g/株			植穴 土壌混和	4回以内 (育苗期の灌水 は1回以内、定植 時の土壌混和は 1回以内、散布は 2回以内)
ブロッコリー							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

③ 1%イミダクロプリド粒剤（名称：アドマイヤー1粒剤）（続き）

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	
レタス	-	アブラムシ類	0.5g/株	育苗期後半	1回	株元散布	3回以内 (育苗期の処理は1回以内、散布は2回以内)	
だいこん			3~6kg/10a	は種前		播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、は種後は2回以内)	
非結球あぶらな科葉菜類							2回以内 (は種時の土壌混和は1回以内)	
なばな類							なばなは2回以内(は種時の土壌混和は1回以内)、 なばな以外のなばな類は1回	
ほうれんそうかぶ							3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)	
ごぼう			4kg/10a	は種時		2回以内	株元散布	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
			収穫7日前まで					
いちご			0.5g/株	育苗期後半		1回	植穴 土壌混和	1回
			定植時					
パセリ			アブラムシ類 アザミヤカ類	3kg/10a		は種時	1回	播溝散布
	アブラムシ類	は種時	株元散布					
			収穫14日前まで					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

③ 1%イミダクロプリド粒剤 (名称: アドマイヤー1 粒剤) (続き)

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
こんにやく	—	アブラムシ類	3~6 kg/10a	培土時(基根伸長期)	1回	株元 土壌混和	3回以内 (培土時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
			6kg/10a	生育期 但し収穫 21日前 まで	2回以内	茎葉散布	
さといも さといも(葉柄) ばれいしょ		イネ初ハムシ クワイビレアブラムシ	4kg/10a	植付時	1回	植溝 土壌混和	3回以内 (植付時の土壌混和は1回以内、植付後は2回以内)
			3kg/10a				
れんこん		クワイビレアブラムシ	4kg/10a	収穫14日 前まで	2回以内	散布	
		かんしょ	コガネムシ類	4~6 kg/10a	植付前	1回	作条 土壌混和
6kg/10a				全面 土壌混和			
やまのいも		アブラムシ類 コガネムシ類	4kg/10a	植付時	1回	植溝 土壌混和	1回
やまのいも (むかご)		コガネムシ類					
にら		ネアザミウマ					
にら (花茎)	収穫30日 前まで		株元散布				
じゅんさい	じゅんさい田	ユスリカ類	3kg/10a	収穫前日 まで	1回	散布	
ごま	—	アブラムシ類	2g/株 (但し、 6kg/10a まで)	は種時	5回以内	播溝土壌 混和	
花き類・観葉植物 (きく、ばら、ペチ ュニア、レザーフ アンを除く)				5回以内		株元散布	5回以内
きく		アザミウマ類	3kg/10a		生育期	散布	
		アブラムシ類	2g/株 (但し、 6kg/10a まで)	株元散布			

下線部: 平成25年3月13日付け農薬登録事項変更登録申請中(残留農薬基準値の変更)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

③ 1%イミダクロプリド粒剤 (名称: アドマイヤー1粒剤) (続き)

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イダクロプリドを含む農薬の総使用回数	
ばら	—	イラビゲナ アブラムシ	2g/株 (但し、6kg/10a まで)	生育期	5回以内	株元 土壌混和	5回以内	
ペチュニア		アブラムシ類				株元 散布		
レザーフアン		アザミウマ類	1g/株 (但し、3kg/10a まで)	定植時	1回	植穴 土壌混和		
ポインセチア		アブラムシ類	2g/株 (但し、6kg/10a まで)	生育期	5回以内	株元 土壌混和		
		コナジラミ類				株元 散布		
つつじ類		コガネムシ類	4kg/10a	植付 又は 植替時	2回以内	作条 土壌混和		5回以内 (株元灌注は2 回以内、土壌混 和は2回以内)
		ツツジクンバイ	6kg/10a	発生 初期	5回以内	株元 散布		
樹木類 (つつじ類を 除く)		コガネムシ類	4kg/10a	植付時	2回以内	作条 土壌混和		2回以内
たばこ		アブラムシ類	3kg/10a (1g/株)		1回	植穴 土壌混和		2回以内 (植付時の土壌 混和は1回 以内、散布は 1回以内)

④ 10%イミダクロプリド水和剤 (名称: アドマイヤー水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イダクロプリドを含む農薬の総使用回数
りんご	アブラムシ類 キンモンホガ キンモンハモグリガ	1000～ 2000倍	200～700 L/10a	収穫3日 前まで	2回以内	散布	2回以内
なし	アブラムシ類 カメムシ類 チュウゴクナシキジラミ						

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

④ 10%イミダクロプリド水和剤（名称：アドマイヤー水和剤）（続き）

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イミダクロプリド を含む農薬の 総使用回数	
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ	1000～ 2000倍	200～700 L/10a	収穫3日 前まで	2回以内	散布	2回以内	
	カメムシ類	1000倍						
ネクタリン	アブラムシ類 モモハモグリガ	1000～ 2000倍						収穫14日 前まで
	カメムシ類	1000倍						
ぶどう	チャノキイロアザミウマ	1000～ 2000倍		収穫21日 前まで				
	フタテンヒメヨコバイ	1000倍						
かき	チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ	1000～ 2000倍		収穫7日 前まで				3回以内
	カメムシ類	1000倍						
うめ すもも	アブラムシ類	2000倍		収穫21日 前まで				2回以内
くり	クリイガアブラムシ	1000倍		収穫7日 前まで				3回以内
マンゴー	チャノキイロアザミウマ	2000倍	収穫14日 前まで	2回以内	3回以内 (種もみへの処理 又は移植時までの 処理は1回以内、 本田での散布は 2回以内)			
稲	ツマク <sup>®</sup> ロヨコバイ ウナカ類		60～150L/10a			収穫7日 前まで		
稲 (箱育苗)	イネド <sup>®</sup> ロイムシ イネミスゾウムシ ツマク <sup>®</sup> ロヨコバイ ウナカ類	100倍	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5L) 1箱当り0.5L	移植日前 ～ 移植当日	1回	灌注	3回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田での散布は 2回以内)	
ばれいしょ	アブラムシ類	1000～ 3000倍	100～300 L/10a	収穫14日 前 まで	2回以内	散布	3回以内 (植付時の土壌 混和は1回以内、 植付後は2回以内)	
		16倍	3.2 L/10a			無人ヘリ コプターに よる散布		
きゅうり	アブラムシ類 オンシツコナジラミ ミナミキイロアザミウマ	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は合 計1回以内、散 布及び常温煙霧 は合計3回以内)	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

④ 10%イミダクロプリド水和剤（名称：アドマイヤー水和剤）（続き）

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イミダクロプリド を含む農薬の 総使用回数	
すいか	アブラムシ類 メキイロアザミウマ	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日 前まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時の土壌 混和は1回以内、 散布は3回以内)	
メロン	アブラムシ類 メキイロアザミウマ タバココナジラミ類 (シバリーコナジラミを 含む)						4回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時の 土壌混和は 合計1回以内、 散布は3回以内)	
にがうり	メキイロアザミウマ			2回以内 (定植時の土壌 混和は1回以内)				
トマト	アブラムシ類 タバココナジラミ類 (シバリーコナジラミを 含む) オンシツコナジラミ			3回以内 (育苗期の株元散 布及び定植時の 土壌混和は合計 1回以内、散布は 2回以内)				
なす	アブラムシ類 メキイロアザミウマ オンシツコナジラミ			3回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は合 計1回以内、散 布及び常温煙霧 は合計2回以 内)				
ピーマン	メキイロアザミウマ アブラムシ類			3回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は合 計1回以内、散 布は2回以内)				
てんさい	テンサイトビハムシ アブラムシ類	60倍	ペーパーポット 1冊当り1L (3L/m <sup>2</sup> )	定植時	1回	苗床灌注	1回	
茶	チャメキイロアザミウマ	1000～ 2000倍	200～400 L/10a	摘採7日前 まで		散布		
	チャノミトナリヒメヨコバイ チャノホカ	1000倍 2000倍						
たばこ	アブラムシ類	2000倍	100～180 L/10a	収穫10日前 まで	2回以内 (植付時の土壌 混和は1回 以内、散布は 1回以内)			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

④ 10%イミダクロプリド水和剤（名称：アドマイヤー水和剤）（続き）

作物名	適用場所	適用 病害虫名	使用量	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	イダクロプリド を含む農薬の 総使用回数
きゅうり	温室、 ガラス室、 ビニール ハウス等 密閉 できる 場所	アブラムシ類	100g/10a	5L/10a	収穫前日 まで	3回以内	常温 煙霧	4回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は 合計1回以内、 散布及び常温 煙霧は合計3回 以内)
なす								3回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は 合計1回以内、 散布及び常温 煙霧は合計2回 以内)
ぶどう		チャノキアザミ	200g/10a	9L/10a	収穫21日 前まで	2回以内		

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	イダクロプリド を含む農薬の 総使用回数
湛水 直播 水稻	ツマクゴコハ ウカ類	種もみ3kg 当り150~200g	は種前	1回	過酸化カルシウム剤との 同時湿粉衣 (地上は種用、空中 散布及び無人ヘリ コプターによる散 播用)	3回以内 (種もみへの処理は1回 以内、本田での散布は 2回以内)
	イネミスヅカムシ	種もみ3kg 当り200g				
小麦	イネシロトビムシ	種子重量の 0.15%			種子粉衣	3回以内 (種子粉衣は1回以内、 散布は2回以内)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

⑤ 20%イミダクロプリド水和剤 (名称: アドマイヤーフロアブル)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イミダクロプリド を含む農薬の 総使用回数	
びわ	アブラムシ類 カメムシ類	2000倍	200~700 L/10a	収穫7日 前まで	2回以内	散布	2回以内	
なし	アブラムシ類	5000倍		収穫3日 前まで				
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ カメムシ類			収穫7日 前まで				
あんず	アブラムシ類			収穫21日 前まで				
ぶどう	アザミウマ類							
かんきつ	ケンキスイ類 コアホナムグリ	4000~ 5000倍	200~700 L/10a	収穫14日 前まで	3回以内	散布	3回以内	
	コナカイガラムシ類	2500倍						
	アカムカイガラムシ	2500倍~ 5000倍						
	アブラムシ類 アザミウマ類 カメムシ類 シロハモグリガ コマダラカミキリ成虫	2000~ 5000倍	5L/10a					無人ヘリコプ ターによる 散布
	シロハエ	2000~ 4000倍						
	シロキジラミ	2000倍						
	コマダラカミキリ成虫	40倍						
アブラムシ類	20倍							
キウイフルーツ	カメムシ類	2000倍	200~700 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内	
いちよう (種子)	イチョウヒゲビロウト カミキリ成虫							
アセロラ	アブラムシ類	4000倍	100~300 L/10a	収穫7日 前まで	2回以内	無人ヘリコプ ターによる 散布	3回以内 (種子粉衣は 1回以内、は種後 は2回以内)	
ピタヤ		2000倍						
とうもろこし	アブラムシ類	64倍	3.2L/10 a	収穫14日 前まで	2回以内	散布	2回以内	
ヤングコーン		4000倍		収穫3日 前まで				
アマランサス (茎葉)		5000倍		収穫3日 前まで				
キノア	カメムシ類	4000倍	100~300 L/10 a	収穫7日 前まで	2回以内	散布	3回以内 (育苗期の灌 注及び定植時 の土壌混和は 合計1回以 内、散布は 2回以内)	
キャベツ	アブラムシ類							



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

⑤ 20%イミダクロプリド水和剤（名称：アドマイヤーフロアブル）（続き）

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イミダクロプリド を含む農薬の 総使用回数					
はくさい	アブラムシ類	4000倍	100～300 L/10a	収穫7日 前まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時までの 処理は1回 以内、散布は 2回以内)					
ブロッコリー		2000倍		収穫3日 前まで			4回以内 (育苗期の灌 注は1回以 内、定植時の 土壌混和は 1回以内、散布 は2回以内)					
畑わさび							収穫7日 前まで	2回以内				
わさび							畑育苗期	3回以内				
だいこん							収穫14日 前まで	3回以内 (は種時の土 壌混和は1回 以内、は種後 は2回以内)				
非結球あぶらな科 葉菜類 (みずなを除く)		アブラムシ類 コナジラミ類		4000倍							2回以内 (は種後の 土壌混和は 1回以内)	
みずな											収穫3日 前まで	
非結球メキャベツ メキャベツ 非結球レタス											収穫7日 前まで	2回以内
レタス											収穫3日 前まで	3回以内 (育苗期の 処理は1回以 内、散布は 2回以内)
葉ごぼう											収穫14日 前まで	2回以内
ごぼう		収穫7日 前まで	3回以内 (は種時の 土壌混和は 1回以内、散布 は2回以内)									
ほうれんそう	アブラムシ類 アザミウマ類		収穫前日 まで									
ふだんそう エンダイブ	アブラムシ類		収穫7日 前まで		2回以内							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

⑤ 20%イミダクロプリド水和剤（名称：アドマイヤーフロアブル）（続き）

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イミダクロプリド を含む農薬の 総使用回数
ねぎ	アザミウマ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫14日 前まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時までの 処理は1回 以内、散布は2 回以内)
	アザミウマ類 特アハクグリハエ	200倍	セル成型トレイ 1箱又は ペーパーポット 1冊(30 ×60cm、 使用土壌 約1.5～ 4L)当り 0.5L	定植前日 ～定植時	1回	灌注	
わけぎ あさつき	アザミウマ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫3日 前まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土 壌混和は1回 以内、散布は 2回以内)
モロヘイヤ		2000倍		収穫14日 前まで	1回		1回
くわい	アブラムシ類	4000倍		収穫21日 前まで	3回以内		3回以内
れんこん				収穫14日 前まで	2回以内		3回以内 (植付時の土 壌混和は1回 以内、植付後 は2回以内)
せり科葉菜類 (コリアンダー (葉)、セルリー ー、パセリ、 みつば、せりを 除く)				1回	1回		
コリアンダー (葉)				収穫3日 前まで	2回以内		2回以内
パセリ				収穫14日 前まで	1回		2回以内 (定植時までの 処理は1回 以内、散布は 1回以内)
セルリー				収穫7日 前まで	3回以内		3回以内
うど				根株 養成期 但し、 収穫60日 前まで			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

⑤ 20%イミダクロプリド水和剤 (名称: アドマイヤーフロアブル) (続き)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	イダクロプリド を含む農薬の 総使用回数
きゅうり	アブラムシ類 アザミヤカ類	4000倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は 合計1回以内、散 布及び常温煙霧 は合計3回以内)
メロン				収穫3日 前まで			4回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は 合計1回以内、散 布は3回以内)
なす	アブラムシ類			収穫前日 まで	2回以内		3回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は 合計1回以内、散 布及び常温煙霧 は合計2回以内)
かぼちゃ				アブラムシ類	3回以内 (定植時の土壌 混和は1回以内、 散布は2回以内)		
ズッキーニ	3回以内						
すいか					収穫3日 前まで		4回以内 (定植時の土壌 混和は1回以内、 散布は3回以内)
ピーマン	アブラムシ類 コジラミ類			収穫前日 まで	2回以内		3回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は 合計1回以内、 散布は2回以内)
トマト ミニトマト				アブラムシ類 アザミヤカ類	3回以内		
オクラ	収穫3日 前まで						3回以内
しそ	アブラムシ類			収穫7日 前まで	2回以内		2回以内
しそ科葉菜類 (しそを除く)							
しそ(花穂)	アブラムシ類 コジラミ類	2000倍	収穫45日 前まで	2回以内	2回以内		
ふき							
ふき (ふきのとう)	アザミヤカ類	2000倍	収穫前日 まで	2回以内	2回以内		
アスパラガス							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

⑤ 20%イミダクロプリド水和剤 (名称：アドマイヤーフロアブル) (続き)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イダクアプリド を含む農薬の 総使用回数			
やなぎたで	アブラムシ類	4000倍	100～300 L/10a	収穫3日 前まで	3回以内	散布	3回以内			
未成熟そらまめ				収穫7日 前まで			3回以内 (定植時及び は種時の土壌 混和は合計 1回以内)			
未成熟ささげ				収穫前日 まで	2回以内		3回以内 (定植時及び は種時の土壌 混和は合計 1回以内、散布 は2回以内)			
はまぼうふう (葉)				収穫7日 前まで	2回以内					
さんしょう (葉)				収穫14日 前まで	3回以内					
食用さくら (葉)				アザミウマ類	収穫3日 前まで		1回			
食用プリムラ				アブラムシ類	収穫14日 前まで		2回以内			
食用ぎく				アブラムシ類 アザミウマ類	収穫7日 前まで					
きく (葉)				アブラムシ類				収穫14日 前まで	3回以内	3回以内
食用かえで(葉)								2回以内	2回以内	
花き類・観葉植物 (きくを除く)	アブラムシ類	2000倍	100～200 L/10a	発生初期	5回以内		5回以内			
ポインセチア	アブラムシ類 コジラミ類									
きく	アブラムシ類 アザミウマ類									
つつじ類	ツツジグンバイ	5000倍	1L/m <sup>2</sup>	発生前	2回以内	株元灌注	5回以内 (株元灌注は 2回以内、土壌 混和は 2回以内)			
かえで	モジコウバアブラムシ						2回以内			
デイゴ	デイゴヒメコバチ	2000倍	200～700 L/10a	発生初期	2回以内	散布	2回以内			

⑥ 20%イミダクロプリド水和剤 (名称：リードックフロアブル)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イダクアプリド を含む農薬の 総使用回数
わさび	アブラムシ類	4000倍	100～200 L/10a	収穫7日 前まで	3回以内	散布	3回以内

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

⑦ 10%イミダクロプリド・10%スピノサド水和剤 (名称：ガードナーフロアブル)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	イダクロプリドを 含む農薬の 総使用回数	スピノサドを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	ウンカ類 イネヒメダカ ツグロコバエ イネズグムシ イネトビ カサネコバエ	100倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり0.5L	移植 3日前 ～移植 当日	1回	灌 注	3回以内 (移植時までの 処理は1回以 内、本田での散 布は2回以内)	1回
キャベツ	アブラムシ類 アオムシ コガ ハマダラメカ ハモンヨウ		成型育苗トレイ 1箱又は ペーパーポット1冊 (30×60cm、 使用土壌 約1.5～4L) 当り0.5L	定植 当日			3回以内 (育苗期の灌注 及び定植時の 土壌混和は合計 1回以内、散布 は2回以内)	4回以内 (定植前は 1回以内、 本圃では 3回以内)
はくさい	アブラムシ類 コガ ハマダラメカ ヨウムシ						3回以内 (定植時までの 処理は1回以 内、散布は2回 以内)	
ブロッコリー	アブラムシ類 アオムシ コガ ハマダラメカ	4回以内 (育苗期の灌注 は1回以内、定 植時の土壌混 和は1回以内、 散布は2回以内)						
レタス	オオタバコガ ナメダキ	200倍				3回以内 (育苗期の処理 は1回以内、散 布は2回以内)		

⑧ 70%イミダクロプリド粉末 (ガウチョVM)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	イダクロプリド を含む農薬 の総使用回数
てんさい	テンサイトビハムシ	90～130g/ユニット*	は種前	1回	種子被覆剤 に混和後、 種子にコー ティングす る	1回
	テンサイヒメダカ	130g/ユニット*				

\*：1ユニット (約100,000粒) /ha

⑨ 70%イミダクロプリド粉末 (ガウチョWS)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イダクロプリド を含む農薬の 総使用回数
とうもろこし	アブラムシ類	9～14g/10a	は種前	1回	種子処理機に よる種子粉衣	3回以内 (種子粉衣は1回以内、 は種後は2回以内)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

⑩ 50%イミダクロプリド水和剤 (名称：アドマイヤー顆粒水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イミダクロプリド を含む農薬の 総使用回数	
稲 (育苗箱)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	500倍	育苗箱 (30×60×3cm) 使用土壌 約5L)1箱 当り0.5L	移植2日前 ～ 移植当日	1回	灌注	3回以内 (移植時までの 処理は1回 以内、本田での 散布は 2回以内)	
	イネシジメ類 イネノメイガ	500～ 1000倍						
小麦	アブラムシ類	15000倍	60～150 L/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	3回以内 (種子粉衣は 1回以内、散布は 2回以内)	
かんきつ	アブラムシ類 シロハモグリガ ケキスイ類 ゴマダカシブチ成虫 コオホナムグリ コナカイガラムシ類 アカマルカイガラムシ コナシラミ類	10000倍	200～700 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内	
	ミカンキジラミ	5000倍						
	カメシ類 アザミウマ類	5000～ 10000倍						
りんご	カメシ類 リンゴワタムシ	5000倍		収穫3日前 まで	2回以内		2回以内	2回以内
	アブラムシ類	10000～ 15000倍						
うめ すもも	キンモンホソガ キンモンハモグリガ	10000倍		収穫21日前 まで	2回以内			2回以内
	アブラムシ類	5000倍						
なし	コナカイガラムシ類	5000倍		収穫3日前 まで	2回以内			2回以内
	アブラムシ類 カメシ類	5000～ 10000倍						
もも	アブラムシ類	10000倍		収穫14日前 まで	2回以内			2回以内
	モモハモグリガ カメシ類	5000～ 10000倍						
ネクタリン	アブラムシ類	10000倍	収穫14日前 まで	2回以内	2回以内			
	モモハモグリガ カメシ類	5000～ 10000倍						
ぶどう	コナカイガラムシ類	5000倍	収穫21日前 まで	2回以内	2回以内			
	フタテンヒメヨコバイ	10000倍						
	アザミウマ類	5000～ 10000倍						

下線部：平成25年3月13日付け農薬登録事項変更登録申請中（残留農薬基準値の変更）

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

⑩ 50%イミダクロプリド水和剤（名称：アドマイヤー顆粒水和剤）（続き）

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	イミダクロプリド を含む農薬の 総使用回数
かき	コカイガラムシ類	5000倍	200～700 L/10 a	収穫7日前 まで	3回以内		3回以内
	アザミヤカ類	10000倍					
	カメムシ類	5000～ 10000倍					
マンゴー	アザミヤカ類	10000倍		収穫14日 前まで			2回以内
パッションフルーツ				収穫7日前 まで			
アテモヤ				コカイガラムシ類			
なす	アブラムシ類 コジラミ類 アザミヤカ類	5000～ 10000倍		収穫前日 まで	2回以内	散布	3回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は 合計1回以内、散 布及び常温煙霧 は合計2回以内)
ピーマン とうがらし類	アブラムシ類 アザミヤカ類	5000～ 10000倍					3回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は 合計1回以内、 散布は2回以内)
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コジラミ類	5000～ 10000倍					4回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は合計 1回以内、散布 及び常温煙霧は 合計3回以内)
きゅうり	アブラムシ類 コジラミ類 アザミヤカ類		4回以内 (定植時の土壌 混和は1回以内、 散布は3回以内)				
すいか	アブラムシ類 アザミヤカ類		4回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は合計 1回以内、散布は 3回以内)				
ズッキーニ	アザミヤカ類 アブラムシ類 コジラミ類	10000倍	100～300 L/10 a	収穫3日前 まで	3回以内	散布	3回以内
メロン	コジラミ類	5000～ 10000倍		収穫7日前 まで			3回以内
	アブラムシ類 アザミヤカ類			2回以内 (定植時の土壌 混和は1回以内)			
うり類 (漬物用)	アブラムシ類 コジラミ類 アザミヤカ類	10000倍		収穫7日前 まで			3回以内
にがうり	アザミヤカ類			2回以内 (定植時の土壌 混和は1回以内)			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

⑩ 50%イミダクロプリド水和剤 (名称: アドマイヤー顆粒水和剤) (続き)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イミダクロプリド を含む農薬の 総使用回数	
なばな	アブラムシ類	10000倍	100~300 L/10 a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内 (は種時の土壌 混和は1回以内)	
とうもろこし	アブラムシ類	10000~ 15000倍		3.2L/10 a			収穫14日前 まで	無人ヘリ コプターによる 散布
		160倍	25L/10 a			3回以内 (植付時の土壌 混和は1回 以内、植付後は 2回以内)		
		80倍						
はれいしょ	アブラムシ類	2500倍	100~300 L/10 a	収穫14日前 まで		散布	3回以内 (植付時の土壌 混和は1回 以内、植付後は 2回以内)	
		5000~ 15000倍						
	材ジュウキクアノク	15000倍	3.2L/10 a			無人ヘリ コプターによる 散布		
アブラムシ類	160倍	100~300 L/10a		散布				
	80倍		1.6L/10 a					
さといも (葉柄)	アブラムシ類	10000倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで		2回以内	散布	3回以内 (植付時の土壌 混和は1回 以内、植付後は 2回以内)
さといも				収穫14日前 まで				
てんさい	カキノコハムシ アブラムシ類 テオイトグリサバエ	300倍	ペーパーポット 1冊当り1L (3L/m <sup>2</sup> )	定植時	1回	苗床灌注	1回	
	テオイトビハムシ	300~ 500倍						
みょうが (花穂)	カイガラムシ類	10000倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布、但 し花穂の 発生前に はマルチフ ィルム被覆 により散布 液が直接 花穂に飛 散しない 状態で使 用する	2回以内	
みょうが (茎葉)				みょうが (花穂)の収 穫前日まで 但し、花穂 を収穫しな い場合にあ っては開 花期終了ま で		散布		
すいぜんじな				アブラムシ類				収穫7日前 まで



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

⑩ 50%イミダクロプリド水和剤 (名称: アドマイヤー顆粒水和剤) (続き)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イミダクロプリド を含む農薬の 総使用回数
かんしょ	77°ラムシ類	10000倍	100~300 L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	3回以内 (植付前の土壌 混和は1回 以内、散布は 2回以内)
にんじん				収穫3日前 まで			2回以内
みしまさいこ				収穫30日前 まで	3回以内		3回以内
豆類(未成 熟、ただし、 未成熟そら まめを除く)				収穫前日 まで	2回以内		3回以内 (定植時及び は種時の土壌 混和は合計1回 以内、散布は 2回以内)
未成熟 そらまめ			収穫14日前 まで	3回以内 (定植時及び は種時の土壌 混和は合計1回 以内)			
豆類(種実)			80~300 L/10a	収穫30日前 まで			3回以内 (は種時の土壌 混和は1回 以内、散布は 2回以内)
やまのいも			79°ミナモト類	5000倍	100~300 L/10a		収穫14日前 まで
ねぎ	収穫14日前 まで	3回以内 (定植時までの 処理は1回 以内、散布は 2回以内)					
はくさい	収穫7日前 まで	3回以内 (育苗期の灌注 及び定植時の 土壌混和は合 計1回以内、散 布は2回以内)					
キャベツ	77°ラムシ類	10000倍	100~300 L/10a	収穫3日前 まで	2回以内	3回以内 (育苗期の処理 は1回以内、散 布は2回以内)	
レタス							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

⑩ 50%イミダクロプリド水和剤（名称：アドマイヤー顆粒水和剤）（続き）

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イミダクロプリド を含む農薬の 総使用回数				
ほうれんそう	アブラムシ類	10000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時の土壌 混和は1回 以内、散布は 2回以内)				
かぶ				収穫21日前 まで							
かぼちゃ				収穫前日 まで							
みつば				収穫7日前 まで ただし、伏 せ込み栽培 は伏せ込み 前まで			3回以内	2回以内	2回以内		
たまねぎ				アザミウマ類						5000～ 10000倍	収穫14日前 まで
アスパラガス				アザミウマ類						5000倍	収穫前日 まで
食用ゆり				アブラムシ類							3回以内
こんにゃく	アブラムシ類	10000倍	収穫21日前 まで	2回以内	3回以内 (培土時の 土壌混和は1回 以内、散布は 2回以内)						
茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメコバイ チャノホソカ	5000～ 10000倍	200～400 L/10a	摘採7日前 まで	1回	1回					
	ツマクノアオカスミカメ	5000倍									
きく	アザミウマ類		100～300 L/10a	発生初期	5回以内	5回以内					
げっきつ	ミカンキジラミ		200～700 L/10a		4回以内	4回以内					

下線部：平成25年3月13日付け農薬登録事項変更登録申請中（残留農薬基準値の変更）

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

⑩ 50%イミダクロプリド水和剤（アドマイヤー顆粒水和剤）（続き）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イダクロプリドを含む農薬の総使用回数
乾田直播 水稲	ウカ類	種もみ4～8kg 当たり 30～40g/10a	は種前	1回	種子塗沫 (未催芽籾)	3回以内 (種もみへの 処理は1回以内、 本田での散布は 2回以内)
湛水直播 水稲		種もみ3kg 当たり 30～40g/10a			過酸化カルシウム剤との同時 湿粉衣(地上は種用、 空中散播及び無人ヘリコ プターによる散播用)	

⑪ 4%イミダクロプリド・48%プロベナゾール水和剤  
(名称：側条オリゼメートアドマイヤー顆粒水和剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イダクロプリドを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネシロウドムシ イネトヨイムシ ウカ類	500 g/10 a	移植時	1回	ペースト肥 料に溶かし 側条施肥田 植機で施用 する。	3回以内 (種もみへの 処理又は移植時 までの処理は1回 以内、本田での 散布は2回以内)	2回以内 (育苗箱への 処理及び側条 施用は合計 1回以内)

⑫ 20%イミダクロプリド水和剤（名称：タフバリアフロアブル）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イダクロプリドを含む農薬の総使用回数
芝	コガネムシ類幼虫	2500倍	0.5 L/m <sup>2</sup>	成虫産卵時期 ～ 幼虫発生初期	2回以内	散布	2回以内
		1000倍	0.2 L/m <sup>2</sup>				
		500倍	0.1 L/m <sup>2</sup>				
	シバオゾウムシ	2500倍	0.5 L/m <sup>2</sup>	発生初期			
		1000倍	0.2 L/m <sup>2</sup>				
		500倍	0.1 L/m <sup>2</sup>				
カガヤシロカキガラムシ幼虫 ケラ	2500倍	0.5 L/m <sup>2</sup>	発生前～発生初期				
			発生初期				
つつじ類	ツツジゲンバイ	5000倍	1 L/m <sup>2</sup>	発生前	株元 灌注	5回以内 (株元灌注は 2回以内、 土壌混和は 2回以内)	
かえで	モジニタイクアラムシ					2回以内	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

⑬ 0.005%イミダクロプリド液剤（名称：ブルースカイAL）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
キャベツ	アブラムシ類	原液	収穫7日前まで	2回以内	希釈せずそのまま散布する	3回以内 (育苗期の灌注及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
レタス						3回以内 (育苗期の処理は1回以内、散布は2回以内)
非結球レタス						2回以内
ほうれんそう						3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
きゅうり	コジラミ類		収穫前日まで	3回以内		4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び常温煙霧は合計3回以内)
トマト						3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
しそ	アブラムシ類		収穫7日前まで	3回以内		3回以内
花き類・観葉植物	アブラムシ類		発生初期	5回以内		5回以内
ポインセチア	コジラミ類					
つつじ類	ツツジグンバイ	5回以内 (株元灌注は2回以内、土壌混和は2回以内)				

⑭ 0.5%イミダクロプリド粒剤（名称：タフバリア粒剤0.5）

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
芝	コガネムシ類幼虫 シバオゾウムシ	8kg/10a	発生初期	2回以内	散布	2回以内

## 2. 使用上の注意事項

### 稲（育苗苗）への使用

- ・ 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- ・ 誤って過剰に使用したり、本剤使用后3日以上移植せずに育苗箱中におくと葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守すること。
- ・ 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行い、移植後田面が露出しないように注意すること。

### 湛水直播水稻への使用

- ・ 湛水直播水稻に使用する場合は、次の項目を守ること。
  - ① 本剤を直接もみに処理すると薬害を生ずる恐れがあるので注意すること。
  - ② 処理する薬量は種もみの量に合わせて調製すること。
  - ③ 過酸化カルシウム剤の3分の1程度をもみに粉衣した後に、過酸化カルシウム剤と本剤を混合したものを種子に湿粉衣すること。また、過酸化カルシウム剤の使用上の注意事項を守ること。

### 常温煙霧による使用

- ・ ハウス等の常温煙霧に使用する場合は、次のことに注意すること。
  - ① 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当っては病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
  - ② できるだけ日中の煙霧は避け、夕刻から煙霧し、6時間以上密閉状態とすること。

### 無人ヘリコプターによる使用

- ・ 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
  - 1) 散布は散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - 4) 散布薬液の飛散によって動植物の被害や自動車の塗装等に被害を与えるおそれがあるなど、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散・流入しない様に十分注意すること。
  - 6) 散布終了後は次の項目を守ること。
    - ① 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。
    - ② 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

#### 種子（てんさい又はとうもろこし）への使用

- ・ 本剤は種子処理専用剤であり、その使用に当っては専用の機械を用い、専門の技術を有した者が扱うこと。（ガウチョVM）
- ・ 本剤は種子処理専用剤であり、専門の技術を有した者が使用すること。（ガウチョWS）

#### 対象作物に対する注意事項

- ・ きくのミナミキイロアザミウマに使用する場合、生育期後半に使用すると効果が不十分になる場合があるので生育期前半に使用すること。
- ・ 植穴処理で栽培本数が多い場合には、10アール当り3kgを目安に適用の範囲内で1株当りの使用量を調整することが望ましい。
- ・ 本剤をだいこんに使用する場合、間引き菜又はつまみ菜として食用には供さないこと。
- ・ トマト、ミニトマト、なす、ピーマン、とうがらし類、きゅうり、メロンの育苗期後半に使用する場合は、直径9cm以上のポットで育苗した苗に使用することとし、それ以外での使用は薬害を生じる恐れがあるので避けること。
- ・ かんきつに使用する場合には、今期に収穫の見込みのない苗木に使用し、散布後灌水をすること。効果発現が遅れることがあるため、対象害虫発生前に使用すること。  
(以上、アドマイヤー1粒剤)
- ・ 本剤をきくに使用する場合、植穴処理した薬剤を土壌と十分混和後、きくを植え付けること。  
(以上、ブルースカイ粒剤)
- ・ ネクタリン及びすももでは品種により、葉に薬害を生じる場合があるので注意すること。
- ・ かきのカキクダアザミウマについて使用する場合は、巻葉後の散布では効果が劣る場合があるので注意すること。

(以上、アドマイヤー水和剤及びアドマイヤー顆粒水和剤)

#### 他の生物に対する影響

- ・ 蚕に対して長期間毒性があるので、絶対に桑葉にかからないようにすること。
- ・ ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
  - 3) 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- ・ 本剤の処理後、ミツバチの訪花活動に影響を及ぼす恐れがあるので注意すること。
- ・ 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。  
ミツバチに対して影響があるので、養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めること。
- ・ マルハナバチに影響があるので、本剤使用後は他の方法(人工授粉、植物ホルモンなど)で授粉作業をすること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

### 3. 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

イミダクロプリド単剤（農薬の種類：水和剤、粒剤、液剤及び粉末）

この登録に係る使用方法では該当がない。

## V. 残留性及び水質汚濁性

### 1. 作物残留

#### 1) 分析法の原理と操作概要

試料を含水アセトニトリルで抽出し減圧濃縮後、塩化ナトリウム溶液及びヘキサンを加えて振とうする。ヘキサン層は分取して捨て、水層にジクロロメタンを加えて転溶する。分取したジクロロメタン層を炭酸カリウム溶液で洗浄し、濃縮後、シリカゲルカラムクロマトグラフィーにて精製し、高速液体クロマトグラフィーにてイミダクロプリド [I] を定量する。

#### 2) 分析対象の化合物

##### ・イミダクロプリド

化学名：1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N-ニトロイミダゾリ  
ジン-2-イリデンアミン

分子式：C<sub>9</sub>H<sub>10</sub>ClN<sub>5</sub>O<sub>2</sub>

分子量：255.7g/mol

代謝経路図での記号：[ I ]

#### 3) 残留試験結果

次頁以降に結果を示す。

##### 申請者注：平均値の算出について

分析値に定量限界（又は検出限界）未満の値が含まれる場合は、定量限界値（又は検出限界）未満の値を定量限界値（又は検出限界）と見なして平均値を記載した。

（例：分析値が「<0.01ppm, 0.01ppm」であった場合、平均値は0.01ppmとした。）



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

### 作物残留性試験成績の結果目次

<u>作物名</u>	<u>(食品分類)</u>	<u>記載頁</u>
稲	(米)	: 66-1
小麦	(小麦)	: 66-4
とうもろこし	(とうもろこし)	: 66-4
キノア	(その他の穀類)	: 66-5
だいず	(大豆)	: 66-5
あずき	(小豆類)	: 66-5
らっかつせい	(らっかつせい)	: 66-5
ばれいしょ	(ばれいしょ)	: 66-6
かんしょ	(かんしょ)	: 66-6
さといも	(さといも類)	: 66-7
やまのいも	(やまいも(長いも))	: 66-7
こんにゃくいも	(こんにゃくいも)	: 66-7
てんさい	(てんさい)	: 66-8
だいこん(葉部及び根部)	(だいこん類(根及び葉))	: 66-8
かぶ(葉部及び根部)	(かぶ類(根及び葉))	: 66-8
はくさい	(はくさい)	: 66-9
キャベツ	(キャベツ)	: 66-9
メキャベツ	(芽キャベツ)	: 66-10
みずな	(きょうな)	: 66-10
ブロッコリー	(ブロッコリー)	: 66-10
非結球メキャベツ	(その他のあぶらな科野菜)	: 66-10
畑わさび	(その他のあぶらな科 野菜、その他のハーブ)	: 66-11
わさび	(その他のあぶらな科 野菜、その他のハーブ)	: 66-11
なばな	(その他のあぶらな科野菜)	: 66-12
ごぼう	(ごぼう)	: 66-12
エンダイブ	(エンダイブ)	: 66-12
レタス	(レタス)	: 66-13
サラダ菜	(レタス)	: 66-13
リーフレタス	(レタス)	: 66-14
食用ぎく	(その他のきく科野菜)	: 66-14
きく(葉)	(その他のきく科野菜)	: 66-14
ふき	(その他のきく科野菜)	: 66-14
ふき(ふきのとう)	(その他のきく科野菜)	: 66-15
葉ごぼう	(その他のきく科野菜)	: 66-15
すいせんじな	(その他のきく科野菜)	: 66-15

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はパイエルクロップサイエンス株式会社にある。

<u>作物名</u>	<u>(食品分類)</u>	<u>記載頁</u>
たまねぎ	(たまねぎ)	: 66-16
根深ねぎ	(ねぎ)	: 66-16
葉ねぎ	(ねぎ)	: 66-16
にら	(にら)	: 66-16
アスパラガス	(アスパラガス)	: 66-17
わけぎ	(わけぎ)	: 66-17
にら (花茎)	(その他のゆり科野菜)	: 66-17
食用ゆり	(その他のゆり科野菜)	: 66-17
にんじん	(にんじん)	: 66-18
パセリ	(パセリ)	: 66-18
セルリー	(セロリ)	: 66-18
みつば	(みつば)	: 66-18
はまぼうふう	(その他のせり科野菜)	: 66-19
トマト	(トマト)	: 66-19
ミニトマト	(トマト)	: 66-20
ピーマン	(ピーマン)	: 66-20
なす	(なす)	: 66-21
ししとう	(その他のなす科野菜)	: 66-21
伏見甘長とうがらし	(その他のなす科野菜)	: 66-21
きゅうり	(きゅうり)	: 66-22
かぼちゃ	(かぼちゃ)	: 66-22
すいか	(すいか)	: 66-23
メロン	(メロン類果実)	: 66-23
まくわうり	(まくわうり)	: 66-24
にがうり	(その他のうり科野菜)	: 66-24
ほうれんそう	(ほうれんそう)	: 66-24
オクラ	(おくら)	: 66-25
さやえんどう	(未成熟えんどう)	: 66-25
さやいんげん	(未成熟いんげん)	: 66-25
えだまめ	(えだまめ)	: 66-26
未成熟ささげ	(その他の野菜)	: 66-26
未成熟そらまめ	(その他の野菜)	: 66-26
れんこん	(その他の野菜)	: 66-26
モロヘイヤ	(その他の野菜)	: 66-27
やまのいも(むかご)	(その他の野菜)	: 66-27
くわい	(その他の野菜)	: 66-27
ふだんそう	(その他の野菜)	: 66-28
食用さくら(葉)	(その他の野菜)	: 66-28

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

作物名	(食品分類)	記載頁
食用プリムラ	(その他の野菜)	: 66-28
じゅんさい	(その他の野菜)	: 66-28
うど	(その他の野菜)	: 66-28
さといも (葉柄)	(その他の野菜)	: 66-28
アマランサス (茎葉)	(その他の野菜)	: 66-29
ヤングコーン	(その他の野菜)	: 66-29
食用かえで (葉)	(その他の野菜)	: 66-29
温州みかん	(みかん、その他のスパイス (みかんの皮))	: 66-30
夏みかん	(なつみかんの果実全体)	: 66-30
いよかん	(その他のかんきつ類果実)	: 66-31
小粒かんきつ (すだち、かぼす)	(その他のかんきつ類果実)	: 66-31
りんご	(りんご)	: 66-32
なし	(日本なし、西洋なし)	: 66-32
びわ	(びわ)	: 66-33
もも	(もも)	: 66-33
ネクタリン	(ネクタリン)	: 66-34
あんず	(あんず)	: 66-35
すもも	(すもも)	: 66-35
うめ	(うめ)	: 66-35
いちご	(いちご)	: 66-35
ぶどう	(ぶどう)	: 66-35
かき	(かき)	: 66-37
キウイフルーツ	(キウイー)	: 66-37
マンゴー	(マンゴー)	: 66-37
パッションフルーツ	(パッションフルーツ)	: 66-37
アセロラ	(その他の果実)	: 66-37
ピタヤ	(その他の果実)	: 66-37
アテモヤ	(その他の果実)	: 66-38
くり	(くり)	: 66-38
いちょう (種子)	(ぎんなん)	: 66-38
ごま	(ごまの種子)	: 66-38
茶	(茶)	: 66-39
あさつき	(その他のハーブ)	: 66-40
しそ	(その他のハーブ)	: 66-40
バジル	(その他のハーブ)	: 66-40
しそ (花穂)	(その他のハーブ)	: 66-40

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

<u>作物名</u>	<u>(食品分類)</u>	<u>記載頁</u>
みょうが	(その他のハーブ)	: 66-40
コリアンダー (葉)	(その他のハーブ)	: 66-41
さんしょう (葉)	(その他のハーブ)	: 66-41
やなぎたで (あゆたで)	(その他のハーブ)	: 66-41
たばこ	—	: 66-42
飼料用稲	—	: 66-42
みしまさいこ	—	: 66-42

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					親化合物 [I]		親化合物 [I]			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
分析機関名					日本食品分析センター	日本特殊農薬(株)研究所				
稲 (玄米) 平成元年度 (1989年)	A区: 2%粒剤 80g/箱、箱施用 B区: A区+1%粒剤 4kg/10a 1回水面施用	日植防研	A	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				1	133	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			B	2	88	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			日植防研 高知農場	A	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	111	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				B	2	66	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
稲 (稲わら) 平成元年度 (1989年)	A区: 2%粒剤 80g/箱、箱施用 B区: A区+1%粒剤 4kg/10a 1回水面施用	日植防研	A	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				1	133	<0.01	<0.01	0.01	0.01	
			B	2	88	<0.01	<0.01	0.01	0.01	
			日植防研 高知農場	A	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				1	111	0.03	0.03	0.02	0.02	
				B	2	66	0.03	0.03	0.04	0.04
稲 (玄米) 平成2年度 (1990年)	2%粒剤 80g/箱、箱施用 + 0.25%粉剤 4kg/10a 2回散布	日植防研		0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				3	21	0.038	0.038	0.038	0.038	
				3	28	0.020	0.020	0.019	0.019	
			日植防研 高知農場		0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	21	0.018	0.018	0.019	0.018	
				3	28	0.017	0.017	0.017	0.016	
稲 (稲わら) 平成2年度 (1990年)	2%粒剤 80g/箱、箱施用 + 0.25%粉剤 4kg/10a 2回散布	日植防研		0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				3	21	0.40	0.40	0.26	0.25	
				3	28	0.17	0.16	0.23	0.22	
			日植防研 高知農場		0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				3	21	0.33	0.32	0.27	0.26	
				3	28	0.26	0.26	0.23	0.22	
稲 (玄米) 平成2年度 (1990年)	2%粒剤 80g/箱、箱施用 +1%粒剤、3kg/10a 2回水面施用	千葉農試 北総		0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				3	80	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		日植防研 高知農場		0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				3	70	0.006	0.006	0.006	0.006	
稲 (稲わら) 平成2年度 (1990年)	2%粒剤 80g/箱、箱施用 +1%粒剤、3kg/10a 2回水面施用	千葉農試 北総		0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				3	80	0.04	0.04	0.04	0.04	
		日植防研 高知農場		0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				3	70	0.06	0.06	0.06	0.06	
分析機関名					日本食品分析センター	日本バ <sup>イ</sup> エ <sup>ル</sup> ク <sup>ロ</sup> ップ <sup>サイ</sup> エ <sup>ン</sup> ス <sup>株</sup> 式 <sup>有</sup> 限 <sup>公</sup> 司				
稲 (玄米) 平成2年度 (1990年)	2%粒剤 80g/箱、箱施用 +10%水和剤 2000倍 120~150L/10a 2回散布	日植防研 120L		0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				3	30	0.060	0.058	0.055	0.054	
				3	45	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			日植防研 高知農場 150L		0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	28	0.036	0.036	0.030	0.028	
				3	45	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
稲 (稲わら) 平成2年度 (1990年)	2%粒剤 80g/箱、箱施用 +10%水和剤 2000倍 120~150L/10a 2回散布	日植防研 120L		0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				3	30	0.18	0.18	0.18	0.18	
				3	45	0.03	0.03	0.03	0.02	
			日植防研 高知農場 150L		0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				3	28	0.21	0.20	0.25	0.24	
				3	45	0.03	0.03	0.06	0.05	
稲 (玄米) 平成6年度 (1994年)	2%粒剤 80g/箱、箱施用 + 10%水和剤 2000倍、150L/10a 2回散布	和歌山 農試		0	-			<0.005	<0.005	
				3	30			0.077	0.076	
				3	44			0.006	0.006	
			熊本農業 研究 センター		0	-			<0.005	<0.005
				3	30			0.030	0.030	
				3	45			<0.005	<0.005	
稲 (稲わら) 平成6年度 (1994年)	2%粒剤 80g/箱、箱施用 + 10%水和剤 2000倍、150L/10a 2回散布	和歌山 農試		0	-			<0.01	<0.01	
				3	30			0.22	0.22	
				3	44			0.17	0.17	
			熊本農業 研究 センター		0	-			<0.01	<0.01
				3	30			0.28	0.28	
				3	45			0.05	0.04	



作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [I]		親化合物 [I]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					(財)日本食品分析センター	バイエルクロップサイエンス㈱		
稲  (玄米) 平成14年 (2002年)	②50%顆粒水和剤:125倍希釈、 250mL/箱、移植当日苗箱灌注(1回)	石川植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.10	0.10	0.18	0.18
			3	14	0.25	0.24	0.27	0.26
			3	21	0.18	0.17	0.23	0.22
	②50%顆粒水和剤:5000倍希釈、 150L/10a、2回散布  ①+②の体系処理	日植防高知	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.25	0.24	0.23	0.23
			3	14	0.25	0.25	0.28	0.28
			3	20	0.13	0.12	0.16	0.16
3	29	0.03	0.03	0.05	0.05			
稲  (稲わら) 平成14年 (2002年)	②50%顆粒水和剤:125倍希釈、 250mL/箱、移植当日苗箱灌注(1回)	石川植防	0	-	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
			3	7	2.33	2.28	3.00	2.96
			3	14	1.21	1.16	1.58	1.56
			3	21	-	-	1.02	1.02
	②50%顆粒水和剤:5000倍希釈、 150L/10a、2回散布  ①+②の体系処理	日植防高知	0	-	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
			3	7	0.94	0.92	1.44	1.36
			3	14	0.33	0.33	0.51	0.50
			3	20	-	-	0.21	0.20
3	29	-	-	0.04	0.04			
分析機関名					(財)日本食品分析センター	㈱化学分析コンサルタント		
稲  (玄米) 平成19年 (2007年)	②2%粒剤:80g/箱、 移植当日苗箱施用(1回)	岐阜植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.02	0.02	0.02	0.02
			3	14	0.02	0.02	0.02	0.02
			3	35	0.02	0.02	0.02	0.02
	②1%粒剤:3 kg/10a、2回散布  ①+②の体系処理	日植防高知	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.01	0.01	0.02	0.02
			3	14	0.03	0.03	0.04	0.04
			3	24	0.02	0.02	0.02	0.02
3	31	0.02	0.02	0.02	0.02			
3	38	0.01	0.01	0.02	0.02			
稲  (稲わら) 平成19年 (2007年)	②2%粒剤:80g/箱、 移植当日苗箱施用(1回)	岐阜植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	1.60	1.56	2.67	2.66
			3	14	1.33	1.32	1.83	1.79
			3	35	0.56	0.56	0.55	0.54
	②1%粒剤:3 kg/10a、2回散布  ①+②の体系処理	日植防高知	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.34	0.34	0.39	0.38
			3	14	2.71	2.58	3.53	3.50
			3	24	1.16	1.14	1.06	1.06
3	31	0.18	0.18	0.13	0.12			
3	38	0.13	0.12	0.11	0.11			

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [I]		親化合物 [I]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					日本食品分析センター		(株)化学分析コンサルタント	
小麦 (玄麦)  平成18年度 (2006年)	①10%水和剤、は種前、 種子重量の0.15%塗抹処理(1回)  ②50%顆粒水和剤、15000倍、 150L(宮崎)~200L(群馬)/10a、 2回散布  ①+②の体系処理	群馬県植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	14	0.025	0.024	0.033	0.032
			3	20	0.010	0.010	0.013	0.013
		日植防研	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
3	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
小麦 (玄麦)  平成18年度 (2006年)	①10%水和剤、は種前、 種子重量の0.15%塗抹処理(1回)  ②50%顆粒水和剤、10000倍、 150L(宮崎)~200L(群馬)/10a、 2回散布  ①+②の体系処理	群馬県植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	14	0.040	0.039	0.052	0.052
			3	20	0.011	0.011	0.016	0.016
		日植防研	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
3	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
分析機関名					日本食品分析センター		日本ハク「イナク」の味(株)	
とうもろこし (露地) (乾燥種子)  平成6年度 (1994年)	20%フロアブル 100cc/種子 3kg 種子塗抹 + 2000倍 200L/10a 2回散布	北海道 中央農試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		長野中 農試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
とうもろこし (露地) (生食用子実)  平成6年度 (1994年)	20%フロアブル 100cc/種子 3kg 種子塗抹 + 2000倍 200L/10a 2回散布	岩手植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		千葉農試 東総野菜 研究室	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
残留農薬研究所					日本ハク「イナク」の味(株)			
とうもろこし (露地) (脱穀した種子) 平成12年度 (2000年)	20%フロアブル ①原液100mLを播種時に 種子3kgに1回塗抹 ②60倍、3L/10a、2回散布 (無人ヘリコプター)	北海道植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		青森植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
とうもろこし (露地) (生食用子実) 平成12年度 (2000年)	20%フロアブル ①原液100mLを播種時に 種子3kgに1回塗抹 ②60倍、3L/10a、2回散布 (無人ヘリコプター)	北海道植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		青森植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01



作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [I]		親化合物 [I]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					(株)化学分析コンサルタント			
キノア (脱穀種子)	20%フロアブル、4000倍 300L/10a、1回散布	山梨県総合農業 技術センター (北杜市明野町)	0	-			<0.005	<0.005
			1	7			0.771	0.753
			1	14			0.409	0.387
			1	21			0.231	0.220
平成18年度 (2006年)	20%フロアブル、4000倍 300L/10a、1回散布	山梨県総合農業 技術センター (北杜市須玉町)	0	-			<0.005	<0.005
			1	7			1.420	1.390
			1	14			0.298	0.289
			1	21			0.320	0.310
	20%フロアブル、4000倍 300L/10a、2回散布	山梨県総合農業 技術センター (北杜市明野町)	0	-			<0.005	<0.005
			2	7			1.310	1.300
			2	14			0.534	0.528
			2	21			0.558	0.532
20%フロアブル、4000倍 300L/10a、2回散布	山梨県総合農業 技術センター (北杜市須玉町)	0	-			<0.005	<0.005	
		2	7			1.070	1.070	
		2	14			0.314	0.308	
		2	21			0.337	0.326	
分析機関名					日本食品分析センター		日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップサイエンス(株)	
だいず (露地) (乾燥子実)	1%粒剤、3kg/10a 播種時、播溝処理 + 20%フロアブル 4000倍 200L/10a 2回散布	北海道 十勝農試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	28	<0.01	<0.01	0.01	0.01
		秋田農試	3	42	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
平成7年度 (1995年)		3	42	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
分析機関名					日本食品分析センター		バイエルクロップサイエンス(株)	
あずき (露地) (乾燥子実)	①1%粒剤:4 kg/10a 播種時播溝土壌混和 ②50%顆粒水和剤:5000倍、 150L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	北海道植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	0.04	0.04	0.05	0.05
		山形県農業研究 研修センター	3	28	0.04	0.04	0.05	0.05
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
平成14年 (2002年)		3	21	0.13	0.12	0.16	0.16	
		3	28	0.04	0.04	0.04	0.04	
分析機関名					日本食品分析センター			
らっかせい (露地) (乾燥子実)	①1%粒剤:3 kg/10a 播種時播溝土壌混和 ②50%顆粒水和剤:10000倍、 200L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	鯉淵学園	0	-	<0.05	<0.05		
			3	21	<0.05	<0.05		
			3	28	<0.05	<0.05		
		鹿兒島農業 環境協会 植物防疫部会	3	42	<0.05	<0.05		
0	-		<0.05	<0.05				
平成16年 (2004年)		3	21	<0.05	<0.05			
		3	28	<0.05	<0.05			
		3	42	<0.05	<0.05			

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剂 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)						
					公的分析機関		社内分析機関				
					親化合物 [ I ]						
					最高値	平均値	最高値	平均値			
分析機関名					日本食品分析センター		日本特殊農薬調剤研究所				
ばれいしょ (露地) (塊茎) 平成2年度 (1990年)	70%水和剤 100g/水1L/いも200kg 種いも処理 +10%水和剤 1000倍、200L/10a 2回散布	北海道 中央農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			3	14	0.193	0.186	0.178	0.174			
			3	21	0.096	0.092	0.091	0.09			
		長野植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			3	14	0.015	0.014	0.021	0.020			
			3	21	0.013	0.013	0.017	0.016			
分析機関名					日本食品分析センター		日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップ <sup>サイ</sup> エンス <sup>株</sup> 司				
ばれいしょ (露地) (塊茎) 平成5年度 (1993年)	1%粒剤 4kg/10a 播種時植溝処理 +10%水和剤 1000倍 200L/10a 3回散布	北海道 十勝農試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			4	14	0.02	0.02	0.01	0.01			
			4	21	0.02	0.02	0.02	0.02			
		長崎総農 林試 愛野支場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			4	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01			
			4	21	0.02	0.02	0.02	0.02			
分析機関名					日本食品分析センター		長崎県総合農林試験場				
ばれいしょ (露地) (塊茎) 平成10年度 (1998年)	10%水和剤 空中散布区：15倍、 3 L/10a、2回散布 地上散布区：1000倍、 200 L/10a、2回散布	長崎 総農林試 (愛野町)	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02			
			空	2	14	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02		
			中	2	21	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02		
			地	2	14	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02		
			上	2	21	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02		
			長崎 総農林試 (吾妻町)	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02		
		空		2	14	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02		
		中		2	21	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02		
		地		2	14	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02		
		上		2	21	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02		
		分析機関名					日本食品分析センター		日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップ <sup>サイ</sup> エンス <sup>株</sup> 司		
		ばれいしょ (露地) (塊茎) 平成12年度 (2000年)	① 1%粒剤:4kg/10a 植付時、植溝土壌混和 ② 50%顆粒水和剤:5000倍、 200 L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	北海道植防	0	-			<0.01	<0.01	
3	14						0.01	0.01			
3	21						0.02	0.02			
新潟植防	0			-			<0.01	<0.01			
	3			14			<0.01	<0.01			
	3			21			<0.01	<0.01			
分析機関名					日本食品分析センター		日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップ <sup>サイ</sup> エンス <sup>株</sup> 司				
ばれいしょ (露地) (塊茎) 平成18年度 (2006年)	① 1%粒剤:4kg/10a 植付時、植溝土壌混和 ② 50%顆粒水和剤:1250倍、 25 L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	北海道植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	14	0.01	0.01	0.02	0.02			
			3	21	0.01	0.01	0.01	0.01			
			3	28	0.01	0.01	0.01	0.01			
			日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
				3	14	<0.01	<0.01	0.01	0.01		
		3		21	0.01	0.01	0.01	0.01			
		3		28	0.01	0.01	0.01	0.01			
		分析機関名					徳島県 農業研究所		バイエルクロップサイエンス株		
		かんしょ (露地) (塊根) 平成16年度 (2004年)		50%顆粒水和剤：10000倍、 300L/10a、2回散布 ① 50%顆粒水和剤：10000倍、 800L/10a、1回株元土壌灌注 ② 50%顆粒水和剤：10000倍、 300L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	徳島農業研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2			7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			2			14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
2	21		<0.01			<0.01	<0.01	<0.01			
高知農技センター	0		-		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	2		7		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	2		14		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	2		21		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
徳島農研	3		7		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	3		14		0.01	0.01	<0.01	<0.01			
	3		21		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	高知農技センター		3		7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
3		14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01					
3		21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01					

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日 数	分析結果 (ppm)						
					公的分析機関		社内分析機関				
					親化合物 [I]		親化合物 [I]				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
分析機関名					日本食品分析センター		JA全農 営農・技術センター				
かんしょ (露地)  (塊根) 平成22年度 (2010年)	① 1%粒剤:6kg/10a 植付時、作糸土壌混和	石川県植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	② 20%フロアブル:4000倍、 188~200 L/10a、2回散布	鹿児島県農業環境 協会植物防疫部会	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
①+②の体系処理					3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
分析機関名					日本食品分析センター		日本ハルゲンアグロケム(株)				
さといも (露地) (球茎)  平成9年度 (1997年)	① 1%粒剤:4kg/10a 定植時、植溝土壌混和	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	14	<0.01	<0.01	0.01	<0.01			
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	② 20%フロアブル:4000倍、 200L/10a、2回散布	鹿児島 農試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
①+②の体系処理					3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
分析機関名					日本食品分析センター		日本バイエルアグロケム(株)				
やまのいも (露地) (塊茎) 平成8年 (1996年)	① 1%粒剤:4kg/10a、 定植時、植溝土壌混和	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	② 10%水和剤:2000倍、 300L/10a、2回散布	鳥取園試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
①+②の体系処理					3	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
分析機関名					日本食品分析センター		日本バイエルアグロケム(株)				
こんにゃくいも (露地) (球茎)  平成6年度 (1994年)	① 1%粒剤:6kg/10a 培土時、土壌混和	福島植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			2	30	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	② 1%粒剤:6kg/10a 生育期、1回散布	群馬農試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			2	21	0.01	0.01	0.02	0.02			
			2	30	0.02	0.02	0.02	0.02			
①+②の体系処理					2	30	0.02	0.02	0.02	0.02	
分析機関名					日本食品分析センター		バイエルクロップサイエンス(株)				
こんにゃくいも (露地)  (球茎)  平成18年度 (2006年)	体型処理1 ① 1%粒剤:6kg/10a 培土時、土壌混和	群馬農技 センター	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			3	21	0.019	0.018	0.019	0.019			
			3	28	0.021	0.021	0.022	0.021			
	② 1%粒剤:6kg/10a 生育期、2回株上散布	長野植防 南信研	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			3	21	0.036	0.034	0.050	0.048			
			3	28	0.026	0.026	0.030	0.029			
	①+②の体系処理					3	35	0.034	0.033	0.033	0.032
	体型処理2 ① 1%粒剤:6kg/10a 培土時、土壌混和	群馬農技 センター	0	-	体型処理1と同一		体型処理1と同一				
			3	21	0.020	0.020	0.019	0.019			
			3	28	0.021	0.021	0.018	0.018			
		② 50%顆粒水和剤:10000倍 200(群馬)~300(長野)L/10a 生育期、2回茎葉散布	長野植防 南信研	0	-	体型処理1と同一		体型処理1と同一			
				3	21	0.008	0.008	0.008	0.008		
3				28	0.006	0.006	0.007	0.007			
①+②の体系処理					3	35	0.008	0.008	0.007	0.007	

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					親化合物 [I]		親化合物 [I]			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
分析機関名					日本食品分析センター		日本ハ'イェル'クロップサイエンス(株)			
てんさい (露地) (根節) 平成6年度 (1994年)	① 10%水和剤: 100g/6L/6冊/10a 移植時、苗箱灌注 ② 10%水和剤: 1000倍 200L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	北海道 北見農試	0 - 3 21 3 28	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01			
		北海道 中央農試	0 - 3 21 3 28	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01			
		分析機関名					日本食品分析センター		日本ハ'イェル'クロップサイエンス(株)	
		てんさい (露地) (根節) 平成9年度 (1997年)	① 70%原末: 130g/Unit コート種子 ② 10%水和剤、1000倍 200L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	北海道 植防	0 - 3 21 3 28	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	
				北海道 植防 (音更)	0 - 3 21 3 28	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	
				てんさい (露地) (根節) 平成12年度 (2000年)	① 50%顆粒水和剤: 300倍、 1L/冊、1回灌注 ② 50%顆粒水和剤: 5000倍、 200L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	北海道植防	0 - 3 14 3 21	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01
北海道植防 (音更)	0 - 3 13 3 21					<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	
分析機関名					日本食品分析センター		日本特殊農薬研究所			
だいこん (露地) (根節) 平成2年度 (1990年)	1%粒剤 6kg/10a 播種時、播溝土壌混和処理	日植防研	0 - 1 42 1 52	<0.005 0.012 <0.005	<0.005 0.011 <0.005	<0.005 0.015 0.006	<0.005 0.014 0.006			
			日植防研 宮崎農場	0 - 1 57 1 67	<0.005 0.009 0.007	<0.005 0.008 0.006	<0.005 0.009 0.011	<0.005 0.008 0.011		
		日植防研		0 - 1 42 1 52	<0.005 0.014 <0.005	<0.005 0.013 <0.005	<0.005 0.010 <0.005	<0.005 0.010 <0.005		
			日植防研 宮崎農場	0 - 1 57 1 67	<0.005 0.006 0.023	<0.005 0.006 0.022	<0.005 0.006 0.020	<0.005 0.005 0.020		
		分析機関名					日本食品分析センター		日本ハ'イェル'クロップサイエンス(株)	
		だいこん (露地) (根節) 平成9年度 (1997年)	1%粒剤 6kg/10a 播種時播溝土壌混和 1回及び 20%フロアブル 4000倍、200L/10a 2回散布	青森県 畑作園試	0 - 3 14 3 21	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	
					岐阜植防	0 - 3 14 3 21	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01
				だいこん (露地) (葉部) 平成9年度 (1997年)		1%粒剤 6kg/10a 播種時播溝土壌混和 1回及び 20%フロアブル 4000倍、200L/10a 2回散布	青森県 畑作園試	0 - 3 14 3 21	<0.01 0.15 0.10	<0.01 0.14 0.10
岐阜植防	0 - 3 14 3 21				<0.01 <0.01 <0.01		<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 0.01 <0.01	<0.01 0.01 <0.01	
分析機関名					日本食品分析センター		バイエルクロップサイエンス(株)			
かぶ (根節) 平成17年度 (2005年)	① 1%粒剤: 4kg/10a、 播種時、播溝土壌混和 ② 20%フロアブル: 4000倍 270(宮崎)~300(埼玉)L/10a、 2回散布 ①+②の体系処理	埼玉植防	0 - 3 7 3 14	<0.01 0.01 0.01	<0.01 0.01 0.01	<0.01 0.01 <0.01	<0.01 0.01 <0.01			
			日植防研 宮崎	0 - 3 7 3 14 3 21	<0.01 0.06 0.04 0.04	<0.01 0.06 0.04 0.04	<0.01 0.07 0.04 0.03	<0.01 0.07 0.04 0.03		
		かぶ (葉部) 平成17年度 (2005年)		① 1%粒剤: 4kg/10a、 播種時、播溝土壌混和 ② 20%フロアブル: 4000倍 270(宮崎)~300(埼玉)L/10a、 2回散布 ①+②の体系処理	埼玉植防	0 - 0 7 3 14 3 21	<0.05 1.99 1.53 1.18	<0.05 1.95 1.52 1.16	<0.05 2.12 0.99 0.86	<0.05 2.08 0.97 0.84
			日植防研 宮崎		0 - 3 7 3 14 3 21	<0.05 1.47 0.56 0.06	<0.05 1.40 0.56 0.06	<0.05 1.19 0.54 0.11	<0.05 1.19 0.54 0.10	

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					親化合物 [I]		親化合物 [I]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
分析機関名					日本食品分析センター		日本ハ「イムダ」ロケム(株)		
はくさい (露地) (茎葉)  平成5年度 (1993年)	20%フロアブル 2000倍 200L/10a 2回散布	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			2	7	0.06	0.06	0.04	0.04	
			2	14	0.02	0.02	0.02	0.02	
	20%フロアブル 4000倍 200L/10a 2回散布	長野植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			2	7	0.07	0.07	0.11	0.11	
			2	14	0.01	0.01	0.02	0.02	
分析機関名					日本食品分析センター		ハ「イムダ」ロケム(株)		
はくさい (露地) (茎葉)  平成14年 (2002年)	①1%粒剤:1g/株 定植時土壌混和 ②20%フロアブル:2000倍、 200L/10a(日植防研)、2回散布 230.4L/10a(日植防宮崎)、2回散布 ①+②の体系処理	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	0.05	0.05	0.04	0.04	
			3	14	0.02	0.02	0.03	0.03	
		日植防研宮崎	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	0.12	0.12	0.13	0.13	
			3	14	0.03	0.03	0.02	0.02	
分析機関名					日本食品分析センター		(株)化学分析コンサルタント		
はくさい (露地) (茎葉)  平成20年 (2008年)	①10%フロアブル:100倍希釈、 0.5L/育苗トレイ、定植時灌注  ②20%フロアブル:4000倍、 300L/10a、2回散布  ①+②の体系処理	群馬植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	1	0.03	0.03	0.05	0.05	
			3	3	0.02	0.02	0.02	0.02	
		長野植防南信	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	1	0.10	0.10	0.13	0.13	
			3	3	0.04	0.04	0.05	0.05	
	分析機関名					日本食品分析センター		日本ハ「イムダ」ロケム(株)	
	キャベツ (露地) (葉球)  平成6年度 (1994年)	20%フロアブル 2000倍 200L/10a 2~3回散布	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				2	7	0.04	0.04	0.02	0.02
				2	14	0.01	0.01	0.02	0.02
			日植防研 宮崎	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				2	7	0.21	0.21	0.06	0.06
2				14	0.02	0.02	<0.01	<0.01	
分析機関名					日本食品分析センター		バイエルクロップサイエンス(株)		
キャベツ (露地) (葉球)  平成17年度 (2005年)	① 1%粒剤:0.5g/株、 定植時植穴土壌混和 ② 20%フロアブル:2000倍 300L/10a、2回散布  ①+②の体系処理	長野植防松代研	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			3	3	0.14	0.14	0.21	0.20	
			3	7	0.17	0.16	0.10	0.10	
		石川植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			3	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			3	7	0.05	0.05	<0.05	<0.05	
	分析機関名					日本食品分析センター		バイエルクロップサイエンス(株)	
	キャベツ (露地) (葉球)  平成17年度 (2005年)	① 20%フロアブル:200倍 0.5L/トレイ、定植時苗灌注 ② 20%フロアブル:2000倍 300L/10a、2回散布  ①+②の体系処理	長野植防松代研	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				3	3	0.22	0.22	0.24	0.24
				3	7	0.20	0.20	0.14	0.14
			石川植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				3	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
3				7	0.06	0.06	0.07	0.07	
分析機関名					日本食品分析センター		バイエルクロップサイエンス(株)		
キャベツ (露地) (葉球)  平成17年度 (2005年)	① 20%フロアブル:200倍 0.5L/トレイ、定植時苗灌注 ② 20%フロアブル:2000倍 300L/10a、2回散布  ①+②の体系処理	長野植防松代研	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			3	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			3	7	0.06	0.06	0.07	0.07	
		石川植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			3	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			3	7	0.06	0.06	0.07	0.07	

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					親化合物 [ I ]		親化合物 [ I ]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
分析機関名					日本食品分析センター				
メキャベツ (露地) (芽球)  平成16年 (2004年)	20%フロアブル、4000倍  200L/10a、2回散布	静岡農試 (小笠)	0	-	<0.2	<0.2			
			2	7	<0.2	<0.2			
			2	14	<0.2	<0.2			
			2	21	<0.2	<0.2			
		静岡農試 (浜松)	0	-	<0.2	<0.2			
2	7	<0.2	<0.2						
2	14	<0.2	<0.2						
2	21	<0.2	<0.2						
分析機関名					残留農薬研究所		京都府農業総合研究所		
みずな (施設) (莖葉)  平成9年度 (1997年)	20%フロアブル 4000倍 200L/10a 1又は2回散布	京都府 農業総合 研究所	試験 1	0	-	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
				1	3	1.15	1.10	1.39	1.36
				1	7	0.28	0.28	0.34	0.34
				1	14	0.02	0.02	0.12	0.12
				2	3	1.02	0.98	1.31	1.30
				2	7	0.1	0.09	0.41	0.40
		試験 2	0	-	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05	
			1	3	2.41	2.39	1.97	1.96	
			1	7	0.96	0.96	1.26	1.25	
			1	14	0.37	0.36	0.42	0.42	
			2	3	1.64	1.58	2.20	2.20	
			2	7	0.84	0.84	0.72	0.70	
2	14	0.32	0.32	0.21	0.21				
分析機関名					日本食品分析センター		バイエルクロップサイエンス㈱		
ブロッコリー (露地)  (花蕾)  平成16(2004)年度 及び 平成18(2006)年度	① 20%フロアブル：50倍 0.25L/トレイ、定植前苗灌漑 ② 1%粒剤：0.5g/株、 定植時植穴土壌混和 ③ 20%フロアブル：2000倍 150L(愛知)～300L(埼玉)/10a 2回散布 ①+②+③の体系処理	愛知農総試 (2004年)	0	-	<0.2	<0.2	<0.05	<0.05	
			4	3	0.3	0.2	0.28	0.28	
			4	7	<0.2	<0.2	0.06	0.06	
			4	14	<0.2	<0.2	<0.05	<0.05	
		埼玉植防 (2006年)	0	-	<0.2	<0.2	<0.05	<0.05	
			4	3	1.5	1.5	1.97	1.94	
			4	7	0.6	0.6	0.57	0.56	
			4	14	0.3	0.3	0.52	0.52	
		愛知農総試 (2004年)	2	3	0.4	0.4	0.38	0.36	
			2	7	<0.2	<0.2	<0.05	<0.05	
2	14		<0.2	<0.2	<0.05	<0.05			
埼玉植防 (2006年)	2		3	2.4	2.3	1.99	1.98		
	2	7	0.5	0.5	0.59	0.59			
2	14	0.3	0.2	0.37	0.37				
分析機関名					日本食品分析センター				
非結球メキャベツ (露地) (本葉)  平成16年 (2004年)	20%フロアブル、4000倍  200L/10a、2回散布	静岡農試 (磐田)	0	-	<0.2	<0.2			
			2	7	<0.2	<0.2			
			2	14	<0.2	<0.2			
			2	21	<0.2	<0.2			
		静岡農試 (浜名)	0	-	<0.2	<0.2			
2	7	<0.2	<0.2						
2	14	<0.2	<0.2						
2	21	<0.2	<0.2						
非結球メキャベツ (露地) (えき芽葉)  平成16年 (2004年)	20%フロアブル、4000倍  200L/10a、2回散布	静岡農試 (磐田)	0	-	<0.2	<0.2			
			2	7	0.5	0.5			
			2	14	<0.2	<0.2			
			2	21	<0.2	<0.2			
		静岡農試 (浜名)	0	-	<0.2	<0.2			
2	7	<0.2	<0.2						
2	14	<0.2	<0.2						
2	21	<0.2	<0.2						

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [I]		親化合物 [I]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					長野県農業総合試験場			
畑わさび (露地) (葉柄+根茎) 平成7年度 (1995年)	20%フロアブル 4000倍	長野営農 技術センター	0	-	<0.02	<0.02		
			2	7	0.04	0.04		
			2	14	0.03	0.03		
			2	21	<0.02	<0.02		
			2	28	<0.02	<0.02		
畑わさび (露地) (葉+葉柄+根茎) 平成7年度 (1995年)	150L/10a 2回散布	長野営農 技術センター	0	-	<0.02	<0.02		
			2	7	0.25	0.25		
			2	14	0.11	0.09		
			2	21	0.02	0.02		
			2	28	<0.02	<0.02		
分析機関名					長野県農業総合試験場		日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップサイエンス(株)	
畑わさび (露地) (葉+葉柄+根茎) 平成8年度 (1996年)	20%フロアブル 4000倍	長野営農 技術センター	0	-	<0.03	<0.03	<0.01	<0.01
			2	7	0.39	0.38	0.18	0.18
			2	14	0.14	0.14	0.07	0.06
			2	21	0.08	0.08	0.04	0.04
	150L/10a 2回散布	長野 総農試	0	-	<0.03	<0.03	<0.01	<0.01
			2	7	0.39	0.38	0.15	0.14
			2	14	0.25	0.24	0.11	0.10
			2	21	0.09	0.09	0.05	0.05
分析機関名					徳島県立農業試験場		日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップサイエンス(株)	
畑わさび (施設) (葉+葉柄+根茎) 平成8年度 (1996年)	20%フロアブル 4000倍	徳島農試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	7	0.76	0.75	0.34	0.32
			2	14	0.24	0.23	0.14	0.12
			2	21	0.09	0.09	0.08	0.08
150L/10a 2回散布	徳島農試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		2	7	0.76	0.75	0.34	0.32	
		2	14	0.24	0.23	0.14	0.12	
		2	21	0.09	0.09	0.08	0.08	
分析機関名					長野県農業総合試験場			
わさび (花及び花茎) 平成17年度 (2005年)	20%フロアブル、4000倍、 200L/10a、3回散布	長野県 中信農試	0	-	<0.05	<0.05		
			3	7	2.38	2.30		
			3	14	1.52	1.50		
			3	21	0.44	0.42		
			3	28	0.17	0.16		
わさび (葉及び葉柄) 平成17年度 (2005年)	20%フロアブル、4000倍、 200L/10a、3回散布	長野県 中信農試	0	-	<0.05	<0.05		
			3	7	1.38	1.36		
			3	14	1.15	1.14		
			3	21	0.94	0.94		
			3	28	0.83	0.82		
わさび (根及び根茎) 平成17年度 (2005年)	20%フロアブル、4000倍、 200L/10a、3回散布	長野県 中信農試	0	-	<0.1	<0.1		
			3	7	0.2	0.2		
			3	14	0.2	0.2		
			3	21	0.1	0.1		
			3	28	<0.1	<0.1		
分析機関名					日本食品分析センター			
わさび (花及び花茎) 平成17年度 (2005年)	20%フロアブル、4000倍、 200L/10a、3回散布	静岡農試 わさび分場	0	-	<0.05	<0.05		
			3	7	0.75	0.74		
			3	14	0.51	0.50		
			3	21	0.10	0.10		
			3	28	0.08	0.08		
わさび (葉及び葉柄) 平成17年度 (2005年)	20%フロアブル、4000倍、 200L/10a、3回散布	静岡農試 わさび分場	0	-	<0.05	<0.05		
			3	7	0.27	0.27		
			3	14	0.19	0.19		
			3	21	0.07	0.07		
			3	28	<0.05	<0.05		
わさび (根及び根茎) 平成17年度 (2005年)	20%フロアブル、4000倍、 200L/10a、3回散布	静岡農試 わさび分場	0	-	<0.05	<0.05		
			3	7	0.06	0.06		
			3	14	0.06	0.06		
			3	21	<0.05	<0.05		
			3	28	<0.05	<0.05		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [I]		親化合物 [I]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					徳島県立農業試験場		日本バ <sup>イ</sup> エ <sup>ル</sup> ク <sup>ロ</sup> ップ <sup>サイ</sup> エ <sup>ン</sup> ス	
なばな (露地) (花茎) 平成12年 (2000年)	50%顆粒水和剤:10000倍、 250 L/10a、2回散布	徳島県農試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	5.79	5.78	4.67	4.59
			2	3	2.99	2.98	3.59	3.54
			2	7	1.63	1.61	1.56	1.54
		香川県農試	2	14	0.19	0.19	0.21	0.21
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	3.04	3.02	2.99	2.96
			2	3	1.42	1.41	1.55	1.54
		2	7	0.43	0.43	0.47	0.46	
		2	14	0.15	0.15	0.16	0.16	
分析機関名					日本食品分析センター		日本バ <sup>イ</sup> エ <sup>ル</sup> ク <sup>ロ</sup> ップ <sup>サイ</sup> エ <sup>ン</sup> ス	
ごぼう (露地) (根部) 平成9年度 (1997年)	20%フロアブル 4000倍、200 L/10a 2回処理	日植防 研究所	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		群馬県植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
分析機関名					日本食品分析センター		JA全農 営農・技術センター	
ごぼう (露地) (根部) 平成21年度 (2009年)	① 1%粒剤:4kg/10a、 播種時播溝土壌混和 ② 20%フロアブル:4000倍 200L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	群馬県植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		大分県植防	3	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		大分県植防	3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
分析機関名					日本食品分析センター		JA全農 営農・技術センター	
ごぼう (露地) (根部) 平成21年度 (2009年)	① 1%粒剤:4kg/10a、 播種時播溝土壌混和 ② 1%粒剤:4 kg/10a、 生育期、2回株元散布 ①+②の体系処理	群馬県植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.01	0.01	0.02	0.02
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	0.02	0.02
		大分県植防	3	28	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		大分県植防	3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
分析機関名					岡山県農業総合センター農業試験場			
エンダイブ (施設) (茎葉) 平成16年度 (2004年)	20%フロアブル:4000倍 200L/10a(静岡)、 303~560.6L/10a(岡山) 1回散布	静岡農試	0	-	<0.05	<0.05		
			2	7	2.35	2.26		
			2	14	0.48	0.48		
			2	21	0.20	0.20		
		岡山農総センター	0	-	<0.05	<0.05		
			2	7	2.26	2.21		
			2	14	0.96	0.94		
			2	21	0.45	0.42		



作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					親化合物 [I]		親化合物 [I]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
分析機関名					日本食品分析センター		日本ハ <sup>®</sup> 「ヘルタ <sup>®</sup> 」ロム(株)		
レタス (露地) (茎葉)  平成5年度 (1993年)	20%フロアブル 2000倍 105~200L/10a 2回散布	日植防研 105~150 L/10a	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			2	7	0.09	0.08	0.09	0.08	
			2	14	0.02	0.02	0.03	0.02	
	和歌山 植防 200L/10a	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
		2	7	0.08	0.07	0.07	0.07		
		2	14	0.06	0.06	0.10	0.10		
20%フロアブル 4000倍 105~200L/10a 2回散布	日植防研 105~150 L/10a	2	7	0.05	0.04	0.09	0.09		
		2	14	<0.01	<0.01	0.02	0.02		
		和歌山 植防 200L/10a	2	7	0.06	0.06	0.07	0.06	
2	14	0.05	0.05	0.08	0.08				
分析機関名					日本食品分析センター		バイエルクロップサイエンス(株)		
レタス (施設:岩手 露地:宮崎) (茎葉) 平成17年度 (2005年)	① 1%粒剤:0.5g/株、 定植時植穴土壌混和 ② 20%フロアブル:4000倍 200L(岩手)~230L(宮崎)/10a 2回散布 ①+②の体系処理	岩手植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			3	7	0.47	0.46	0.45	0.44	
			3	14	0.06	0.06	0.11	0.11	
		日植防研 宮崎	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			3	7	0.15	0.15	0.17	0.17	
			3	14	0.09	0.08	0.06	0.06	
	3	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
	レタス (施設:岩手 露地:宮崎) (茎葉) 平成17年度 (2005年)	① 20%フロアブル:200倍 0.5L/トレイ、定植時苗灌注 ② 20%フロアブル:4000倍 200L(岩手)~230L(宮崎)/10a 2回散布 ①+②の体系処理	岩手植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				3	7	0.49	0.47	0.39	0.38
				3	14	0.07	0.07	<0.05	<0.05
			日植防研 宮崎	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				3	7	0.15	0.15	0.19	0.19
3				14	0.11	0.10	0.07	0.06	
3	21	<0.05	<0.05	0.08	0.08				
分析機関名					日本食品分析センター		ハ <sup>®</sup> 「ヘルタ <sup>®</sup> 」サイエンス(株)		
サラダ菜 (露地) (茎葉) 平成15年 (2003年)	20%フロアブル:4000倍、 300L/10a、2回散布	埼玉県植物防 疫協会	0	-	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	
			2	3	0.8	0.8	0.9	0.8	
			2	7	0.4	0.4	0.3	0.3	
			2	14	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	
		愛知県農業総合 試験場園芸研究 部特産野菜グ ループ	0	-	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	
			2	3	0.4	0.4	0.4	0.4	
			2	7	0.1	0.1	<0.1	<0.1	
			2	14	0.2	0.2	<0.1	<0.1	

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [1]		親化合物 [1]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					日本食品分析センター		日本ハインテック株式会社	
リーフレタス (露地) (茎葉) 平成15年 (2003年)	20%フロアブル:4000倍、 300L/10a、2回散布	埼玉県農林総合 研究センター	0	-	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
			2	3	3.5	3.5	4.2	4.2
			2	7	0.9	0.8	0.9	0.8
			2	14	<0.1	<0.1	0.1	0.1
		長野県農業総合 試験場	0	-	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
			2	3	0.7	0.7	0.7	0.7
			2	7	0.2	0.2	0.2	0.2
			2	14	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
分析機関名					山形農試		日本ハインテック株式会社	
食用ぎく (露地) (花卉) 平成6年度 (1994年)	20%フロアブル 4000倍 250~300L/10a 1~2回散布	青森畑作 園試	0	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			1	7	0.55	0.54	0.67	0.67
			1	14	<0.02	<0.02	0.03	0.02
			2	7	0.69	0.68	0.72	0.72
		山形園試	2	14	0.09	0.08	0.09	0.09
			0	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			1	7	0.29	0.28	0.14	0.14
			1	14	<0.02	<0.02	0.02	0.02
			2	7	0.45	0.44	0.31	0.30
			2	14	0.06	0.06	0.02	0.02
分析機関名					愛知県農業総合試験場			
きく (葉) (施設) (葉) 平成16年度 (2004年)	20%フロアブル:4000倍 200L/10a 3回散布	愛知農総試 (豊川市)	0	-	<0.2	<0.2		
			3	7	4.7	4.6		
			3	14	0.3	0.3		
			3	21	<0.2	<0.2		
		愛知農総試 (豊橋市)	0	-	<0.2	<0.2		
			3	7	1.8	1.8		
			3	14	0.2	0.2		
			3	21	<0.2	<0.2		
分析機関名					愛知県農業総合試験場			
ふき (施設) (茎) 平成6年度 (1994年)	20%フロアブル 4000倍 150L/10a 2回散布	愛知県 東海市	0	-	<0.02	<0.02		
			2	7	0.12	0.12		
			2	14	0.04	0.04		
			2	21	0.02	0.02		
		愛知県 知多市	2	28	<0.02	<0.02		
			0	-	<0.02	<0.02		
			2	7	0.08	0.08		
			2	14	0.03	0.03		
			2	21	0.02	0.02		
			2	28	<0.02	<0.02		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [I]		親化合物 [I]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					徳島農業研究所			
ふきのとう (露地) (花蕾)  平成21年度 (2009年)	20%フロアブル  4000倍、300L/10a  2回散布	徳島農業研究所 (徳島県三好市)	0	-	<0.02	<0.02		
			2	46	0.02	0.02		
			2	60	<0.02	<0.02		
			2	75	<0.02	<0.02		
		徳島農業研究所 (徳島県勝浦郡)	0	-	<0.02	<0.02		
			2	45	0.07	0.06		
			2	60	0.06	0.06		
			2	75	0.03	0.03		
分析機関名					大阪府食とみどりの総合技術センター			
葉ごぼう (施設) (可食部) 平成15年 (2003年)	20%フロアブル:4000倍、 200L/10a、2回散布	長崎県病害虫防 除所	0	-	<0.05	<0.05		
			2	7	1.33	1.33		
			2	14	0.64	0.60		
			2	21	0.36	0.36		
		大阪府食とみど りの総合技術セ ンター	0	-	<0.05	<0.05		
			2	7	3.54	3.52		
			2	14	0.86	0.84		
			2	21	1.14	1.14		
分析機関名					(財)日本食品分析センター			
すいぜんじな (施設) (茎葉) 平成15年 (2003年)	50%顆粒水和剤:10000倍、 200L/10a、2回散布	静岡農試	0	-	<0.1	<0.1		
			2	3	1.2	1.2		
			2	7	0.4	0.4		
			2	14	<0.1	<0.1		
		石川農総研	0	-	<0.1	<0.1		
			2	3	4.3	4.2		
			2	7	2.6	2.6		
			2	14	1.4	1.4		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剂 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					親化合物 [ I ]		親化合物 [ I ]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
分析機関名					日本食品分析センター	バイエルクロップサイエンス㈱			
たまねぎ (鱗茎)	50%顆粒水和剤、5000倍、 200L/10a、2回散布	北海道植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
	2		21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
	3		14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
	3		21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
	①1%粒剤、4kg/10a、定植時植溝土 ②50%顆粒水和剤、5000倍、 200L/10a、2回散布 ①+②の体系処理		北海道：平成14年度 (2002年)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
2	14	<0.01		<0.01	<0.01	<0.01			
2	21	<0.01		<0.01	<0.01	<0.01			
3	14	<0.01		<0.01	<0.01	<0.01			
3	21	<0.01		<0.01	<0.01	<0.01			
①1%粒剤、4kg/10a、定植時植溝土 ②50%顆粒水和剤、5000倍、 200L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	佐賀：平成15年度 (2003年)	0		-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
2		14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
2		21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
3		14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
3		21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
①+②の体系処理		分析機関名					日本食品分析センター	日本ハイレック株式会社	
根深ねぎ (露地) (茎葉) 平成9年 (1997年)	1%粒剤 4kg/10a 播種時植溝土壌混和 1回及び 20%フロアブル 2000倍、200L/10a 2回散布	埼玉植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	14	0.15	0.14	0.16	0.16	
		3	21	0.06	0.05	0.08	0.08		
		日植防宮崎	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
3	14		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01				
葉ねぎ (露地) (茎葉) 平成9年度 (1997年)	1%粒剤 4kg/10a 定植時植溝土壌混和 1回及び 20%フロアブル 2000倍、200L/10a 2回散布	滋賀防除所	0	-			<0.01	<0.01	
			3	14			0.04	0.04	
		3	21			0.04	0.04		
		徳島植防	0	-			<0.01	<0.01	
3	14				0.23	0.22			
3	21			0.12	0.12				
分析機関名					日本食品分析センター	JA全農 営農・技術センター			
根深ねぎ (露地) (茎葉) 平成21年 (2009年)	20%フロアブル 200倍希釈、0.5L 定植時、1回育苗トレイ溜注 及び 20%フロアブル 2000倍希釈 200L/10a、2回散布	鳥取園芸試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	0.03	0.03	0.03	0.03	
			3	14	0.01	0.01	0.02	0.02	
			3	21	0.03	0.03	0.03	0.03	
3	28	0.03	0.03	0.03	0.03				
葉ねぎ (露地) (茎葉) 平成21年 (2009年)	20%フロアブル 200倍希釈、0.5L 定植時、1回育苗トレイ溜注 及び 20%フロアブル 2000倍希釈 200L/10a、2回散布	滋賀県植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	0.04	0.04	0.05	0.04	
			3	14	0.03	0.02	0.04	0.04	
			3	21	0.02	0.02	0.03	0.02	
3	28	0.03	0.03	0.02	0.02				
根深ねぎ (露地) (茎葉) 平成21年 (2009年)	20%フロアブル 200倍希釈、0.5L 定植時、1回育苗トレイ溜注 及び 1%粒剤 4kg/10a 生育期、2回株元散布	鳥取園芸試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	0.09	0.08	0.03	0.03	
			3	14	0.09	0.09	0.17	0.16	
			3	21	0.20	0.20	0.20	0.20	
3	28	0.24	0.24	0.32	0.32				
葉ねぎ (露地) (茎葉) 平成21年 (2009年)	20%フロアブル 200倍希釈、0.5L 定植時、1回育苗トレイ溜注 及び 1%粒剤 4kg/10a 生育期、2回株元散布	滋賀県植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	0.03	0.03	0.05	0.05	
			3	14	0.08	0.08	0.10	0.10	
			3	21	0.02	0.02	0.03	0.03	
3	28	0.06	0.06	0.04	0.04				
分析機関名					栃木県農業試験場	高知県農業技術センター			
にら (施設) (茎葉) 平成17年 (2005年)	① 1%粒剤：4kg/10a 定植時、植溝土壌混和 ② 1%粒剤：4kg/10a 株養成期、1回散布 ①+②の体系処理	栃木県農業試験場	0	-	<0.01	<0.01	<0.4	<0.4	
			2	30	<0.01	<0.01	<0.4	<0.4	
			2	45	<0.01	<0.01	<0.4	<0.4	
			2	60	<0.01	<0.01	<0.4	<0.4	
			高知県農業技術 センター	0	-	<0.01	<0.01	<0.4	<0.4
				2	30	0.12	0.12	<0.4	<0.4
2	45	0.19		0.19	<0.4	<0.4			
2	60	0.14	0.14	<0.4	<0.4				

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					親化合物 [I]		親化合物 [I]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
分析機関名					長崎総農試				
アスパラガス (施設) (若莖) 平成16年 (2004年)	50%顆粒水和剤：5000倍、 300L/10a、2回散布	長崎総農試	0	-	<0.05	<0.05			
			2	1	<0.05	<0.05			
			2	3	<0.05	<0.05			
			2	7	<0.05	<0.05			
		鹿児島農試 大隅支場	0	-	<0.05	<0.05			
			2	1	<0.05	<0.05			
			2	3	<0.05	<0.05			
			2	7	<0.05	<0.05			
分析機関名					日本食品分析センター				
アスパラガス (施設) (若莖) 平成20年 (2008年)	20%フロアブル：2000倍、 300L/10a、2回散布	佐賀農試	0	-	<0.01	<0.01			
			2	1	0.15	0.14			
			2	3	0.04	0.04			
			2	7	<0.01	<0.01			
		鹿児島県農業開 発総合センター 大隅支場	0	-	<0.01	<0.01			
			2	1	0.30	0.30			
			2	3	0.02	0.02			
			2	7	<0.01	<0.01			
分析機関名					(財)日本食品分析センター				
わけぎ (露地) (莖葉) 平成15年 (2003年)	①1%粒剤：4kg/10a 定植時植溝処理土壌混和 ②20%フロアブル：2000倍、 300L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	広島県立 農業技術セン ター	0	-	<0.2	<0.2			
			3	3	0.7	0.7			
			3	7	0.6	0.6			
			3	14	0.4	0.4			
		佐賀県農業 試験研究セン ター	0	-	<0.2	<0.2			
			3	3	1.0	1.0			
			3	7	0.3	0.2			
			3	14	<0.2	<0.2			
分析機関名					高知県農業技術センター				
にら (花莖) (施設) (花莖) 平成20年(2008年)	1%粒剤：4kg/10a ① 定植時、植溝土壌混和、1回 ② 株養成期、1回散布 ①+②の体系処理	高知県農業技術 センター	0	-	<0.05	<0.05			
			2	30	<0.05	<0.05			
			2	45	<0.05	<0.05			
			2	60	<0.05	<0.05			
にら (花莖) (施設) (花莖) 平成21年(2009年)	1%粒剤：4kg/10a ① 定植時、植溝土壌混和、1回 ② 株養成期、1回散布 ①+②の体系処理	高知県農業技術 センター	0	-	<0.05	<0.05			
			2	30	<0.05	<0.05			
			2	45	<0.05	<0.05			
			2	60	<0.05	<0.05			
分析機関名					(株)エコプロ・リサーチ				
食用ゆり (露地)  (鱗莖)  平成22年 (2010年)	50%顆粒水和剤  5000倍希釈  300L/10a  3回散布	北海道総合研究 機構	0	-	<0.01	<0.01			
			3	1	<0.01	<0.01			
			3	7	<0.01	<0.01			
			3	14	<0.01	<0.01			
			3	21	<0.01	<0.01			
			3	21	<0.01	<0.01			
		花・野菜技術 センター	北海道総合研究 機構	0	-	<0.01	<0.01		
				3	1	<0.01	<0.01		
				3	7	<0.01	<0.01		
				3	14	<0.01	<0.01		
				3	21	<0.01	<0.01		
				3	21	<0.01	<0.01		
分析機関名					中央農業試験場				

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [ I ]		親化合物 [ I ]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					徳島県 農業研究所	バイエルクロップサイエンス㈱		
にんじん (露地) (根部) 平成16年 (2004年)	50%顆粒水和剤：10000倍、 200L(日植防研)～300L(徳島)/10 2回散布	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		徳島農研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	0.02	0.02	0.02	0.02
			2	7	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			2	14	0.02	0.02	0.01	0.01
分析機関名					香川県農業試験場	日本バ <sup>レ</sup> ィエ <sup>ル</sup> ク <sup>ロ</sup> ップサイエンス㈱		
パセリ (施設) (茎葉) 平成8年 (1996年)	1%粒剤 0.5g/株 定植時 植穴処理	香川農試	0	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			1	50	0.16	0.16	0.13	0.13
			1	60	0.07	0.07	0.07	0.06
			1	75	0.04	0.04	0.04	0.04
パセリ (施設) (茎葉) 平成9年 (1997年)	1%粒剤 0.5g/株 定植時 植穴処理	香川農試	0	-	<0.02	<0.02	0.01	0.01
			1	49	0.29	0.28	0.36	0.36
			1	60	0.18	0.17	0.27	0.27
			1	75	0.06	0.06	0.07	0.07
分析機関名					日本食品分析センター			
パセリ (施設) (茎葉) 平成16年 (2004年)	① 1%粒剤 0.5g/株 定植時植穴土壌混和 ② 20%フロアブル 4000倍 200L/10a、1回散布 ①+②の体系処理	静岡農試 (磐田)	0	-	<0.2	<0.2		
			2	7	5.7	5.6		
			2	14	1.4	1.4		
			2	21	0.3	0.3		
		静岡農試 (浜松)	0	-	<0.2	<0.2		
			2	7	3.6	3.6		
			2	14	1.3	1.3		
			2	21	0.6	0.6		
分析機関名					日本エコテック株式会社			
パセリ (施設) (茎葉) 平成22年 (2010年)	① 1%粒剤 0.5g/株 定植時植穴土壌混和 ② 1%粒剤 3 kg/10a 1回散布 ①+②の体系処理	千葉県農林総合 研究センター (旭)	0	-			<0.01	<0.01
			2	14			0.95	0.94
			2	21			0.51	0.50
			2	28			0.18	0.18
		千葉県農林総合 研究センター (匝瑳)	0	-			<0.01	<0.01
			2	14			0.34	0.34
			2	21			0.21	0.21
			2	28			0.13	0.13
分析機関名					日本食品分析センター		バイエルクロップサイエンス (株)	
セルリー (施設) (茎葉) 平成16年 (2004年)	20%フロアブル：4000倍 200L/10a 3回散布	静岡農試	0	-	<0.05	<0.05	<0.1	<0.1
			3	7	0.30	0.29	0.3	0.3
			3	14	0.26	0.25	0.2	0.2
			3	21	0.11	0.10	<0.1	<0.1
		愛知農総試	0	-	<0.05	<0.05	<0.1	<0.1
			3	7	0.69	0.68	0.5	0.5
			3	14	0.21	0.21	0.2	0.2
			3	21	0.11	0.10	<0.1	<0.1
分析機関名					JA全農 営農・技術センター			
みつば (施設・水耕) (茎葉) 平成16年(2004年)	50%顆粒水和剤：10000倍、 150L/10a、2回散布	埼玉県農林総合 研究センター	0	-	<0.02	<0.02		
			2	7	2.77	2.77		
			2	14	1.93	1.90		
			2	21	1.45	1.44		
みつば (施設・水耕) (茎葉) 平成18年(2006年)	50%顆粒水和剤：10000倍、 200L/10a、2回散布	福岡県農業試験 場	0	-	<0.05	<0.05		
			2	7	2.53	2.50		
			2	14	1.32	1.32		
			2	21	0.92	0.91		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)						
					公的分析機関		社内分析機関				
					親化合物 [I]		親化合物 [I]				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
分析機関名					島根県農業試験場						
はまぼうふう (露地) (茎葉) 平成15年(2003年) 及び 平成16年(2004年)	20%フロアブル:4000倍  200L/10a	島根農試 (平成15年)	0	-	<0.02	<0.02					
			2	7	0.18	0.18					
			2	14	0.07	0.06					
			2	21	0.03	0.02					
	2回散布	島根農試 (平成16年)	0	-	<0.02	<0.02					
			2	7	0.10	0.10					
			2	14	0.03	0.03					
			2	21	<0.02	<0.02					
分析機関名					日本食品分析センター		日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップ <sup>サイ</sup> エンス <sup>株</sup> 社				
トマト (施設) (果実)  平成5年 (1993年)	1%粒剤 2g/株 定植時植穴処理 +10%水和剤 2000倍 200L/10a 2回散布	栃木植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	1	0.04	0.04	0.03	0.02			
			3	3	0.05	0.04	0.04	0.04			
			3	7	0.03	0.02	0.04	0.04			
		愛知農試 弥富農技 センター	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	1	0.10	0.10	0.11	0.10			
			3	3	0.08	0.08	0.10	0.10			
			3	7	0.09	0.09	0.13	0.12			
分析機関名					日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップ <sup>サイ</sup> エンス <sup>株</sup> 社						
トマト (施設) (果実)  平成5年 (1993年)	1%粒剤 2g/株 定植時植穴処理 +10%水和剤 2000倍 200L/10a 1~2回散布	高知大学 農学部	0	-			<0.01	<0.01			
			2	1			0.07	0.06			
			2	3			0.08	0.08			
			2	7			0.07	0.07			
			3	1			0.14	0.14			
			3	3			0.13	0.13			
			3	7			0.14	0.14			
			分析機関名					日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップ <sup>サイ</sup> エンス <sup>株</sup> 社			
トマト (施設) (果実)  平成5年 (1993年)	10%水和剤 2000倍 200L/10a 1~3回散布	高知大学 農学部	0	-			<0.01	<0.01			
			1	1			0.06	0.06			
			1	3			0.06	0.06			
			1	7			0.04	0.04			
			2	1			0.06	0.06			
			2	3			0.08	0.08			
			2	7			0.09	0.08			
			3	1			0.15	0.15			
			3	3			0.15	0.15			
			3	7			0.15	0.14			
分析機関名					日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップ <sup>サイ</sup> エンス <sup>株</sup> 社						
トマト (施設) (果実)  平成11年 (1999年)	①1%粒剤:2g/株、 定植時植穴土壌混和 ②50%顆粒水和剤:10000倍、 250L又は257L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	岩手農研セン- 250L/10a	0	-			<0.01	<0.01			
			3	1			0.12	0.12			
			3	3			0.08	0.08			
			3	7			0.12	0.12			
		愛知農総試 257L/10a	0	-			<0.01	<0.01			
			3	1			0.13	0.13			
			3	3			0.10	0.10			
			3	7			0.11	0.10			
分析機関名					日本食品分析センター		バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップ <sup>サイ</sup> エンス <sup>株</sup> 社				
トマト (施設) (果実)  平成15年 (2003年)	①1%粒剤:2g/株、 定植時植穴土壌混和 ②20%フロアブル:2000倍、 300L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	長野県植防 南信	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			3	1	0.26	0.26	0.27	0.26			
			3	3	0.22	0.22	0.21	0.20			
			3	7	0.23	0.23	0.18	0.18			
		石川県植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			3	1	0.10	0.10	0.10	0.10			
			3	3	0.13	0.13	0.07	0.06			
			3	7	0.12	0.12	0.09	0.08			
			分析機関名					日本食品分析センター		バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップ <sup>サイ</sup> エンス <sup>株</sup> 社	

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日 数	分析結果 (ppm)						
					公的分析機関		社内分析機関				
					親化合物 [ I ]		親化合物 [ I ]				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
分析機関名					(財)日本食品分析センター		バ <sup>®</sup> イェルクロップサイエンス(株)				
ミニトマト (施設) 平成15年 (2003年)	①1%粒剤:2 g/株、 定植時植穴処理土壌混和 ②20%フロアブル:2000倍、 200又は300L/10a、散布 ①+②の体系処理	群馬県植防		0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
				3	1	0.22	0.22	0.24	0.23		
				3	3	0.22	0.21	0.23	0.22		
				3	7	0.18	0.17	0.25	0.24		
				3	14	0.19	0.18	0.23	0.22		
		石川県植防		0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
				3	1	0.51	0.48	0.49	0.48		
				3	3	0.50	0.49	0.48	0.48		
				3	7	0.48	0.48	0.46	0.46		
				3	14	0.53	0.52	0.50	0.49		
分析機関名					日本食品分析センター		日本バ <sup>®</sup> イェルクロップサイエンス(株)				
ピーマン (施設) (果実) 平成4年度 (1992年)	A区:1%粒剤 2g/株 定植時植穴処理 B区: A区+10%水和剤 2000倍 200L/10a 2回散布	千葉県農試 北総営農 指導所	A	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
				1	46	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
				1	61	0.08	0.08	0.07	0.07		
				B	3	1	1.21	1.20	0.98	0.98	
				3	3	1.01	1.00	0.96	0.96		
		沖縄農試		A	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				1	52	0.01	0.01	0.01	0.01		
				1	62	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
				B	3	1	0.33	0.32	0.55	0.55	
				3	3	0.61	0.60	0.40	0.40		
分析機関名					(財)日本食品分析センター		バ <sup>®</sup> イェルクロップサイエンス(株)				
ピーマン (施設) (果実) 平成15年 (2003年)	①1%粒剤:2 g/株、 定植時植穴処理土壌混和 ②50%顆粒水和剤:5000倍、 150(高知)又は250L(日植防研) 2回散布 ①+②の体系処理	日植防研		0	-	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2		
				3	1	0.8	0.8	0.8	0.8		
				3	3	0.6	0.6	0.6	0.6		
				3	7	0.4	0.4	0.4	0.4		
				3	7	0.4	0.4	0.4	0.4		
		日植防研高知		0	-	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2		
				3	1	0.8	0.8	0.7	0.6		
				3	3	0.6	0.6	0.6	0.6		
				3	7	0.5	0.5	0.5	0.4		
				3	7	0.5	0.5	0.5	0.4		
分析機関名					(財)日本食品分析センター		(株)化学分析コンサルタント				
ピーマン (施設) (果実) 平成20年 (2008年)	①1%粒剤:2 g/株、 定植時植穴処理土壌混和 ②20%フロアブル: 2000倍、200L/10a(岩手植防)又 300L/10a(日植防研)、2回散布 ①+②の体系処理	岩手植防		0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
				3	1	0.42	0.42	0.39	0.38		
				3	3	0.35	0.34	0.46	0.46		
				3	7	0.27	0.26	0.28	0.28		
				3	14	0.07	0.07	0.08	0.08		
				日植防研		0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						3	1	1.50	1.49	1.39	1.38
		3	3			1.03	1.00	1.29	1.28		
		3	7			0.64	0.62	0.57	0.56		
		3	14			0.08	0.08	0.10	0.10		
		3	14			0.08	0.08	0.10	0.10		
		3	14			0.08	0.08	0.10	0.10		



作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					親化合物 [I]		親化合物 [I]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
分析機関名					日本食品分析センター		日本特殊農薬(株)研究所		
なす (施設) (果実)  平成2年度 (1990年)	A区: 1%粒剤 2g/株 定植時植穴処理  B区: A区+10%水和剤 2000倍 200L/10a 2回散布	日植防研	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			A	1	47	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	57	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			B	3	1	0.095	0.092	0.123	0.121
				3	3	0.074	0.073	0.085	0.084
				3	3				
		長野中信 農試	A	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	65	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		1	75	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
		B	3	1	0.074	0.073	0.080	0.078	
			3	3	0.041	0.040	0.067	0.066	
分析機関名					日本食品分析センター		日本ハ「イェアグ」ロム(株)		
なす (施設) (果実)  平成7年度 (1995年)	1%粒剤 2g/株 定植時植穴処理 +10%水和剤 100g/5L/10a 常温煙霧 2回処理	日植防研 高知農場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				3	1	0.03	0.03	0.04	0.04
				3	3	0.03	0.03	0.03	0.03
				3	7	0.01	0.01	0.02	0.02
		日植防研 宮崎農場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				3	1	0.08	0.08	0.13	0.12
				3	3	0.07	0.07	0.10	0.10
				3	7	0.06	0.06	0.06	0.06
分析機関名					(財)日本食品分析センター		ハ「イェアグ」ロム(株)		
なす (施設)  平成15年 (2003年)	①1%粒剤:2g/株、 定植時植穴処理土壌混和 ②20%フロアブル:2000倍、 280L(新潟)又は300L(埼玉)/10 2回散布 ①+②の体系処理	埼玉県植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
				3	1	0.52	0.52	0.63	0.61
				3	3	0.45	0.44	0.54	0.53
				3	7	0.21	0.20	0.21	0.21
		新潟農総研 園芸研究セン ター	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
				3	1	0.22	0.22	0.32	0.32
				3	3	0.29	0.28	0.28	0.28
				3	7	0.12	0.12	0.14	0.14
分析機関名					(財)日本食品分析センター		ハ「イェアグ」ロム(株)		
ししとう (施設) (果実)  平成15年 (2003年)	①1%粒剤:2g/株、 定植時植穴土壌混和 ②50%顆粒水和剤:5000倍、 300L又は120L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	岐阜県植防	0	-	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	
				3	1	1.6	1.6	1.4	1.4
				3	3	1.0	1.0	1.2	1.2
				3	7	0.5	0.5	0.5	0.5
		日植防研高知	0	-	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	
				3	1	1.3	1.2	1.2	1.2
				3	3	1.2	1.2	1.0	1.0
				3	7	1.1	1.0	1.0	1.0
伏見甘長 とうがらし (施設) (果実)  平成15年 (2003年)	①1%粒剤:2g/株、 定植時植穴土壌混和 ②50%顆粒水和剤:5000倍、 300L又は284.9L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	京都府農業総合 研究所	0	-	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	
				3	1	1.1	1.1	1.1	1.0
				3	3	1.1	1.1	1.2	1.2
				3	7	0.4	0.4	0.5	0.4
		日植防研宮崎	0	-	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	
				3	1	1.5	1.5	1.5	1.5
				3	3	1.3	1.3	1.4	1.4
				3	7	0.7	0.7	0.9	0.9

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [ I ]		親化合物 [ I ]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					日本食品分析センター		日本特殊農薬開発研究所	
きゅうり (施設) (果実) 平成2年度 (1990年)	1%粒剤 2g/株 定植時植穴処理	日植防研	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	41	0.009	0.008	0.010	0.010
			1	51	<0.005	<0.005	0.008	0.008
		大阪農技 センター	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	38	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	48	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
分析機関名					日本食品分析センター		日本ハ「イムア」ロケム(株)	
きゅうり (施設) (果実) 平成4年度 (1992年)	1%粒剤 2g/株 定植時植穴処理 +10%水和剤 2000倍 200L/10a 3回散布	千葉農試 北総営農 指導所	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	1	0.19	0.18	0.17	0.17
			4	3	0.15	0.15	0.14	0.14
		沖縄 病害虫 防除所	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	1	0.10	0.10	0.13	0.12
			4	3	0.08	0.08	0.08	0.08
きゅうり (施設) (果実) 平成7年度 (1995年)	1%粒剤 2g/株 定植時植穴処理 +10%水和剤 100g/5L/10a 常温煙霧 3回処理	日植防研 (7日未実施)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	1	0.04	0.04	0.04	0.04
		日植防研 高知農場	4	3	0.03	0.02	0.03	0.03
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	1	0.04	0.04	0.04	0.04
			4	3	0.02	0.02	0.03	0.03
4	7	0.02	0.02	0.02	0.02			
分析機関名					日本食品分析センター		日本ハ「イムア」ロケム(株)	
きゅうり (施設) (果実) 平成11年度 (1999年)	①1%粒剤:2g/株 定植時植穴処理 ②50%顆粒水和剤:10000倍、 250 L/10a、3回散布 ①+②の体系処理 (長野営農は生育不良の ため5回散布)	長野営農 技術センター	0	-			<0.01	<0.01
			6	1			0.09	0.08
			6	3			0.07	0.07
		愛知農試 安城農技センター	0	-			<0.01	<0.01
			4	1			0.21	0.20
			4	3			0.15	0.14
4	7			0.04	0.04			
分析機関名					(財)日本食品分析センター		ハ「イムア」ロケム(株)	
きゅうり (施設) (果実) 平成15年 (2003年)	①1%粒剤:2g/株、 定植時植穴土壌混和 ②20%フロアブル:2000倍、 300Lまたは150~200L/10a 3回散布 ①+②の体系処理	日植防研	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	1	0.42	0.42	0.37	0.37
			4	3	0.24	0.24	0.24	0.24
		長野県植物防疫 協会南信	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	1	0.15	0.14	0.16	0.16
			4	3	0.07	0.07	0.09	0.08
4	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
分析機関名					日本食品分析センター		日本ハ「イムア」ロケム(株)	
かぼちゃ (施設) (果実) 平成12年度 (2000年)	①1%粒剤:2g/株 定植時植穴処理 ②50%顆粒水和剤:10000倍、 188.9又は200 L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.02	0.02	0.01	0.01
			3	3	0.02	0.02	0.02	0.02
		日植防研 宮崎	3	7	<0.01	<0.01	0.01	0.01
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.03	0.03	0.04	0.04
3	3	0.02	0.02	0.02	0.02			
3	7	<0.01	<0.01	0.01	0.01			
分析機関名					神奈川県農業技術センター(株)化学分析コンサルタント			
かぼちゃ (施設) (果実) 平成19年度 (2007年)	① 1%粒剤:2g/株、定植時植穴処理 ② 20%フロアブル:4000倍、 300L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	神奈川県農業 技術センター	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.06	0.06	0.09	0.09
			3	3	0.06	0.06	0.05	0.05
			3	7	0.04	<0.01	0.04	0.04
分析機関名					日本食品分析センター		神奈川県農業技術センター	
かぼちゃ (施設) (果実) 平成20年度 (2008年)	① 1%粒剤:2g/株、定植時植穴処理 ② 20%フロアブル:4000倍、 300L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	石川植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.09	0.09	0.11	0.10
			3	3	0.02	0.02	0.04	0.04
			3	7	0.01	0.01	0.01	0.01

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [I]		親化合物 [I]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					日本食品分析センター		日本バ「エアグ」ロム㈱	
すいか (施設) (果実)  平成5年度 (1993年)	1%粒剤 10g/株 定植時植穴処理 +10%水和剤 2000倍 200L/10a 3~4回散布	岩手県 農業短期 大学校	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		石川県 砂丘地 農試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
4	3	0.03	0.02	0.04	0.04			
4	7	0.03	0.02	0.03	0.02			
分析機関名					日本食品分析センター		バ「エアグ」ロム㈱	
すいか (施設) (果実)  平成15年 (2003年)	①1%粒剤:10g/株、 定植時植穴土壌混和 ②50%顆粒水和剤:5000倍、 300L/10a、3回散布 ①+②の体系処理	石川県農業総合 研究センター砂丘地	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	3	0.11	0.11	0.08	0.08
			4	7	0.05	0.05	0.06	0.06
			4	14	0.06	0.06	0.07	0.07
		熊本県農業研究 センター	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	3	0.02	0.02	0.02	0.02
			4	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
分析機関名					日本食品分析センター		JA全農 営農・技術センター	
すいか (施設) (果肉)  平成22年 (2010年)	①1%粒剤:5g/株、 定植時植穴土壌混和 ②20%フロアブル:2000倍、 204~295L/10a、3回散布 ①+②の体系処理	日本植物防疫協 会研究所	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	3	0.02	0.02	0.01	0.01
			4	7	0.01	0.01	0.02	0.02
			4	14	0.02	0.02	0.03	0.03
		石川県植物防疫 協会	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	3	<0.01	<0.01	0.02	0.02
			4	7	0.01	0.01	0.01	0.01
			4	14	0.02	0.02	0.01	0.01
すいか (施設) (果実全体:果肉+果皮)  平成22年 (2010年)	①1%粒剤:5g/株、 定植時植穴土壌混和 ②20%フロアブル:2000倍、 204~295L/10a、3回散布 ①+②の体系処理	日本植物防疫協 会研究所	0	-		<0.01	<0.01	<0.01
			4	3		0.07	0.05	0.05
			4	7		0.04	0.04	0.04
			4	14		0.04	0.04	0.04
		石川県植物防疫 協会	0	-		<0.01	<0.01	<0.01
			4	3		0.05	0.08	0.08
			4	7		0.05	0.05	0.04
			4	14		0.04	0.03	0.02
すいか (施設) (果皮)  平成22年 (2010年)	①1%粒剤:5g/株、 定植時植穴土壌混和 ②20%フロアブル:2000倍、 204~295L/10a、3回散布 ①+②の体系処理	日本植物防疫協 会研究所	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	3	0.16	0.16	0.18	0.18
			4	7	0.09	0.09	0.12	0.12
			4	14	0.07	0.07	0.08	0.08
		石川県植物防疫 協会	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	3	0.13	0.12	0.26	0.26
			4	7	0.12	0.12	0.16	0.16
			4	14	0.09	0.08	0.08	0.08
分析機関名					日本食品分析センター		日本バ「エアグ」ロム㈱	
メロン (施設) (果実)  平成4年度 (1992年)	1%粒剤 2g/株 定植時植穴処理 +10%水和剤 2000倍 200L/10a 3回散布	千葉農試 砂地野菜 研究室	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	7	0.01	0.01	0.01	0.01
		沖縄農試 園芸支場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	3	<0.01	<0.01	0.01	0.01
			4	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
分析機関名					日本バ「エアグ」ロム㈱			
メロン (施設) (果実)  平成11年度 (1999年)	1%粒剤:2g/株+ 50%顆粒水和剤: 10000倍、 250 L/10a、3回散布	石川農総研 砂丘地農試	0	-			<0.01	<0.01
			4	1			0.03	0.03
			4	3			0.03	0.03
			4	7			0.02	0.02
		愛知農総試 園芸研究所	0	-			<0.01	<0.01
			4	1			0.03	0.03
			4	3			0.03	0.03
			4	7			0.02	0.02

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					親化合物 [ I ]		親化合物 [ I ]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
分析機関名					(財)日本食品分析センター		バイエルクロップサイエンス(株)		
メロン (施設) (果実)  平成15年度 (2003年)	①1%粒剤:2g/株、 定植時植穴土壌混和 ②50%顆粒水和剤:5000倍、 300Lまたは250L/10a、3回散布  ①+②の体系処理	石川県農業総合 研究センター砂丘地	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			4	3	0.02	0.02	0.03	0.03	
			4	7	0.02	0.02	0.02	0.02	
			4	14	0.02	0.02	0.02	0.02	
		日植防研高知	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			4	3	0.02	0.02	0.02	0.02	
			4	7	0.02	0.02	0.03	0.03	
			4	14	0.02	0.02	0.03	0.02	
分析機関名					(財)日本食品分析センター		(株)化学分析コンサルタント		
メロン (施設) (果実)  平成19年度 (2007年)	①1%粒剤:2g/株、 定植時植穴土壌混和 ②20%フロアブル:2000倍、 300L/10a、3回散布  ①+②の体系処理	熊本県農業研究センター-生産環境研究所	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			4	3	0.01	0.01	0.02	0.02	
			4	7	0.02	0.02	0.02	0.02	
			4	14	0.02	0.02	0.03	0.02	
		日植防研宮崎	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			4	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			4	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			4	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
分析機関名					A全農 営農・技術センター				
まくわうり (露地) (果実)  平成17年度 (2005年)	1%粒剤:1g/株  定植時、植穴土壌混和	山口農試 (山口市大字秋徳三島)	0	-	<0.02	<0.02			
			1	70	<0.02	<0.02			
			1	80	<0.02	<0.02			
			1	90	<0.02	<0.02			
		山口農試 (山口市大内御城)	0	-	<0.02	<0.02			
			1	70	<0.02	<0.02			
			1	80	<0.02	<0.02			
			1	90	<0.02	<0.02			
分析機関名					沖縄県病害虫防除所		日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップサイエンス(株)		
にがうり (施設) (可食部)  平成6年度 (1994年)	10%水和剤 1000倍  250L/10a 2回散布  10%水和剤 2000倍 250L/10a 2回散布	沖縄農試 園芸支場	0	-	<0.01	<0.01			
			2	1	0.47	0.47			
			2	3	0.19	0.19			
			2	7	0.21	0.2			
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			2	1	0.74	0.72	0.81	0.8	
		名護市	2	3	0.68	0.68	0.86	0.85	
			2	7	0.52	0.52	0.53	0.5	
			2	1	0.17	0.16			
			2	3	0.05	0.05			
			2	7	0.07	0.06			
			2	1	0.44	0.42	0.39	0.38	
名護市	2	3	0.36	0.34	0.28	0.28			
	2	7	0.28	0.28	0.26	0.26			
	分析機関名					日本食品分析センター		日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップサイエンス(株)	
	ほうれんそう (施設) (茎葉)  平成9年度 (1997年)	20%フロアブル 4000倍、150 L/10a 2回処理	岐阜県高冷地 農業試験場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				2	1	0.03	0.03	0.03	0.02
				2	3	0.01	0.01	0.02	0.02
2				7	0.03	0.02	0.02	0.02	
徳島県植防			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			2	1	0.17	0.17	0.16	0.16	
			2	3	0.04	0.04	0.05	0.04	
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
分析機関名					日本食品分析センター		バイエルクロップサイエンス(株)		
ほうれんそう (施設) (茎葉)  平成17年度 (2005年)	① 1%粒剤:4kg/10a、 播種土壌混和 ② 20%フロアブル:4000倍 150(岩手)~200(石川)L/10a  ①+②の体系処理	岩手県植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			3	1	4.54	4.49	4.60	4.44	
			3	3	3.34	3.34	3.78	3.60	
			3	7	1.75	1.74	2.19	2.16	
			0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			3	1	8.72	8.66	8.77	8.57	
		石川県植防	3	3	8.69	8.68	8.77	8.59	
			3	7	5.29	5.25	6.38	6.26	

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [I]		親化合物 [I]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					高知県農業技術センター	徳島県立農業試験場		
オクラ (露地) (さや) 平成8年度 (1996年)	20%フロアブル 4000倍  2回散布 1回目186L/10a 2回目189L/10a	高知県 南国市	0 2 2 2 2	-	0.18	0.18		
					0.09	0.09		
					0.04	0.04		
					<0.01	<0.01		
					0.12	0.12		
					0.07	0.07		
					0.04	0.04		
	3回散布 1回目132L/10a 2回目189L/10a 3回目185L/10a	徳島県 石井町	0 1 1 1 1	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					0.17	0.16	0.12	0.12
					0.08	0.08	0.08	0.08
					<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					0.21	0.18	0.14	0.13
					0.08	0.08	0.08	0.08
					<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
1、2、3回散布 200L/10a	徳島	2 2 2 2 3 3 3	-	0.22	0.21	0.12	0.12	
				0.08	0.08	0.08	0.08	
				<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				0.08	0.08	0.08	0.08	
				<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
分析機関名					日本食品分析センター	バイエルクロップサイエンス㈱		
さやえんどう (施設) (さや) 平成16年度 (2004年)  静岡単回処理は 平成15年度 (2003)年	1%粒剤、2g/植穴(1g/株)、 定植時植穴土壌混和	静岡県農試	0 1 1 1	-	<0.05	<0.05	<0.02	<0.02
					0.06	0.06	0.07	0.06
					0.06	0.06	0.06	0.06
					<0.05	<0.05	0.03	0.03
					0.20	0.20	0.13	0.12
					0.16	0.16	0.14	0.14
					0.11	0.11	0.07	0.07
	① 1%粒剤、2g/植穴(1g/株)、 定植時植穴土壌混和 ② 50%顆粒水和剤、10000倍、 300L/10a、2回散布 ① + ②の体系処理	静岡県農試	3 3 3 3	-	<0.05	<0.05	<0.02	<0.02
					<0.05	<0.05	<0.02	<0.02
					<0.05	<0.05	<0.02	<0.02
					<0.05	<0.05	<0.02	<0.02
					0.14	0.14	0.11	0.11
					0.15	0.14	0.10	0.10
					<0.05	<0.05	0.05	0.05
① 1%粒剤、2g/株 定植時植穴土壌混和 ② 50%顆粒水和剤、10000倍 300L/10a、2回散布 ① + ②の体系処理	愛媛県病害虫防除所	3 3 3 3	-	0.14	0.14	0.11	0.11	
				0.15	0.14	0.10	0.10	
				<0.05	<0.05	0.05	0.05	
				<0.05	<0.05	<0.02	<0.02	
				<0.05	<0.05	<0.02	<0.02	
				<0.05	<0.05	<0.02	<0.02	
				<0.05	<0.05	<0.02	<0.02	
分析機関名					日本食品分析センター	日本バ「イロ」ク「ロ」ム		
さやいんげん (施設) (さや) 平成5年度 (1993年)	1%粒剤 2g/株 定植時植穴処理	福島植防	0 1 1	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					<0.01	<0.01	0.01	0.01
					<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		沖縄農試	0 1 1	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					0.03	0.03	0.05	0.05
					<0.01	<0.01	0.01	0.01
分析機関名					日本食品分析センター	バイエルクロップサイエンス㈱		
さやいんげん (施設) (さや) 平成16年度 (2004年)	① 1%粒剤、2g/株 定植時植穴土壌混和 ② 50%顆粒水和剤、10000倍 100L(新潟)~300L(愛媛)/10a、 2回散布	新潟農総研	0 3 3 3 3	-	<0.05	<0.05	<0.02	<0.02
					0.17	0.17	0.19	0.18
					0.15	0.14	0.16	0.16
					<0.05	<0.05	0.05	0.05
					<0.05	<0.05	<0.02	<0.02
					<0.05	<0.05	<0.02	<0.02
					<0.05	<0.05	<0.02	<0.02
	① + ②の体系処理	愛媛県病害虫防除所	0 3 3 3 3	-	<0.05	<0.05	<0.02	<0.02
					0.24	0.24	0.30	0.30
					0.13	0.13	0.12	0.12
					<0.05	<0.05	0.04	0.04
					<0.05	<0.05	<0.02	<0.02
					<0.05	<0.05	<0.02	<0.02
					<0.05	<0.05	<0.02	<0.02

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					親化合物 [1]		親化合物 [1]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
分析機関名					日本食品分析センター		日本ハク「イネ」の味(株)		
えだまめ (露地) (さや) 平成7年度 (1995年)	1%粒剤、3kg/10a 播種時、播漕処理 + 20%フロアブル、4000倍 200L/10a 2回散布	群馬植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		徳島植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	0.17	0.16	0.16	0.15	
3	14	0.04	0.04	0.05	0.04				
3	21	<0.01	<0.01	0.01	0.01				
分析機関名					日本食品分析センター		バイエルクロップサイエンス(株)		
えだまめ (露地) (さや) 平成16年度 (2004年)	① 1%粒剤、2g/株 定植時植穴土壌混和  ② 50%顆粒水和剤、10000倍 200L/10a、2回散布  ① + ②の体系処理	北海道中央農試	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	1	0.24	0.24	0.28	0.26	
			3	3	0.46	0.46	0.48	0.48	
			3	7	0.24	0.24	0.35	0.34	
		埼玉植防	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	1	0.38	0.37	0.40	0.38	
			3	3	0.39	0.38	0.46	0.43	
			3	7	0.13	0.13	0.15	0.14	
3	14	0.12	0.12	0.16	0.16				
分析機関名					岐阜県農業技術研究所				
未成熟ささげ  平成15年度 (2003年)	1%粒剤:2g/株  定植時植穴処理土壌混和	岐阜県農業技術研究所 糸賀町	0	-	<0.05	<0.05			
			1	61	<0.05	<0.05			
			1	67	<0.05	<0.05			
			1	74	<0.05	<0.05			
		岐阜県農業技術研究所 丹生川村	0	-	<0.05	<0.05			
			1	85	<0.05	<0.05			
1	92	<0.05	<0.05						
1	99	<0.05	<0.05						
分析機関名					愛知県農業総合試験場				
未成熟ささげ  平成23年度 (2011年)	① 1%粒剤:2g/株 定植時植穴処理土壌混和  ② 20%フロアブル:4000倍希釈 200L/10a、2回散布  ① + ②の体系処理	愛知県農業総合試験場 (愛知県安西市)	0	-	<0.05	<0.05			
			3	1	0.09	0.09			
			3	3	<0.05	<0.05			
			3	7	<0.05	<0.05			
		愛知県農業総合試験場 (愛知県弥富市)	0	-	<0.05	<0.05			
			3	1	0.13	0.13			
3	3	<0.05	<0.05						
3	7	<0.05	<0.05						
3	14	<0.05	<0.05						
分析機関名					愛媛県農業試験場		日本ハク「イネ」の味(株)		
未成熟そらまめ (露地) (可食部) ①平成9年度 (1997年) ②平成10年度 (1998年)	20%フロアブル 4000倍 200L/10a 3回散布	愛媛県 農業試験場	①	0	-	<0.03	<0.03	<0.01	<0.01
				3	7	0.11	0.11	0.09	0.09
			3	14	0.08	0.08	0.07	0.06	
			②	0	-	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01
				3	7	0.14	0.12	0.21	0.20
			3	14	0.12	0.10	0.15	0.15	
分析機関名					日本食品分析センター		日本ハク「イネ」の味(株)		
れんこん (露地) (可食部) 平成7年度 (1995年)	0.25%粉剤 4kg/10a 2回散布	新潟農試 (7日未実施)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
		石川植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01				

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					親化合物 [I]		親化合物 [I]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
分析機関名					日本食品分析センター		ハ' (エルクロップサイエンス) 株		
れんこん (露地) 平成15年度 (2003年)	①1%粒剤:3kg/10a、 植付時作条土壌混和 ②0.25%粉剤:4kg/10a、2回散布 ①+②の体系処理	茨城県農業総合 センター 園芸研究所	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		佐賀県農業試験 研究センター 白石分場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
分析機関名					徳島県 農業研究所		(財)化学分析コンサルタント		
れんこん (露地) 平成19年度 (2007年)	①1%粒剤:3kg/10a、植付時作条土壌混和 ②20%フロアブル、4000倍、150L/10a、 2回散布 ①+②の体系処理	徳島県農林水産 総合技術 支援センター 農業研究所	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		①+②の体系処理	3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
分析機関名					茨城農総センター農業研究所		バイエルクロップサイエンス(株)		
れんこん (露地) 平成18年度 (2006年)	①1%粒剤:3kg/10a、植付時作条土壌混和 ②20%フロアブル、4000倍、150L/10a、 2回散布 ①+②の体系処理	茨城県農業総合 センター 園芸研究所	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		①+②の体系処理	3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
分析機関名					群馬県農業技術センター				
モロヘイヤ (施設) 平成15年度 (2003年)	20%フロアブル:2000倍、 300L/10a、1回又は2回散布	群馬県農業技術 センター	0	-	<0.2	<0.2			
			1	3	7.6	7.0			
			1	7	1.7	1.6			
			1	14	0.5	0.4			
			2	1	16.6	15.0			
			2	3	12.7	12.3			
			2	7	2.4	2.2			
		埼玉県農林総合 研究センター	0	-	<0.2	<0.2			
			1	3	11.5	10.9			
			1	7	3.3	3.2			
			1	14	1.0	1.0			
			2	1	20.8	20.3			
			2	3	10.7	10.2			
			2	7	4.3	3.9			
分析機関名					鳥取県農業試験場				
やまのいも(むかご) (露地) (むかご) 平成17年度 (2005年)	1%粒剤:4kg/10a、 植付時、植溝土壌混和	鳥取県園芸試験場	0	-	<0.05	<0.05			
			1	210	0.06	0.06			
		鳥取県園芸試験場 弓浜分場	0	-	<0.05	<0.05			
			1	140	<0.05	<0.05			
分析機関名					埼玉農林総合研究センター				
くわい (露地) (塊茎) 平成15年及び同16年 (2003年及び2004年)	20%フロアブル:4000倍、 300L/10a、3回散布	埼玉県防除所 (平成15年)	0	-	<0.01	<0.01			
			3	21	<0.01	<0.01			
			3	30	<0.01	<0.01			
		埼玉県防除所 (平成16年)	3	42	<0.01	<0.01			
			0	-	<0.01	<0.01			
			3	21	<0.01	<0.01			
3	28	<0.01	<0.01						
3	43	<0.01	<0.01						

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剂 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [ I ]		親化合物 [ I ]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					日本植物防疫協会研究所			
ふだんそう (施設) (茎葉) 平成15年度 (2003年)	20%フロアブル:4000倍、 200L/10a、2回散布	奈良県農業技術 センター (奈良県新庄町)	0	-	<0.01	<0.01		
			2	1	3.27	3.27		
			2	3	2.32	2.26		
			2	7	1.75	1.70		
		奈良県農業技術 センター (奈良県田原本 町)	0	-	<0.01	<0.01		
			2	1	3.03	3.02		
			2	3	3.09	3.04		
			2	7	2.03	2.01		
分析機関名					㈱エコプロ・リサーチ			
食用さくら(葉) (露地) (茎葉) 平成16年度 (2004年)	20%フロアブル:4000倍、 300L/10a、1回散布	静岡農試 (松崎町)	0	-	<0.05	<0.05		
			1	3	0.80	0.80		
			1	7	0.78	0.74		
			1	14	<0.05	<0.05		
		静岡農試 (南伊豆町)	0	-	<0.05	<0.05		
			1	3	0.36	0.36		
			1	7	0.22	0.22		
			1	14	<0.05	<0.05		
分析機関名					愛知県農業総合試験場			
食用ブドウ (施設) (花器全体) 平成16年度 (2004年)	20%フロアブル:4000倍 150L/10a 2回散布	愛知農総試 (豊橋市川崎町)	0	-	<0.02	<0.02		
			2	7	4.23	4.01		
			2	14	0.23	0.23		
			2	21	0.07	0.07		
		愛知農総試 (豊橋市長瀬町)	0	-	<0.02	<0.02		
			2	7	4.10	3.88		
			2	14	0.19	0.18		
			2	21	0.04	0.04		
分析機関名					秋田県農業試験場			
じゅんさい (露地) (葉) 平成15年度(2003年) 及び 平成16年度(2004年)	1%粒剤、3kg/10a 1回散布	秋田農試 (平成15年度)	0	-	<0.02	<0.02		
			1	1	0.06	0.06		
			1	3	<0.02	<0.02		
			1	7	<0.02	<0.02		
		秋田農試 (平成16年度)	0	-	<0.02	<0.02		
			1	1	0.14	0.13		
			1	3	0.17	0.16		
			1	7	0.05	0.04		
1	14	<0.02	<0.02					
分析機関名					栃木県農業試験場			
うど (付せ込み床) (軟化茎葉) 平成17年(2005年) 平成18年(2006年)	20%フロアブル:2000倍 200L/10a 3回散布	栃木県 農業試験場 (平成17年度)	0	-	<0.01	<0.01		
			3	60	<0.01	<0.01		
		栃木県 農業試験場 (平成18年度)	0	-	<0.01	<0.01		
			3	60	<0.01	<0.01		
分析機関名					石川県保健環境センター			
さといも(葉柄) (施設) (葉柄) 平成15年度 (2003年)	50%顆粒水和剤:10000倍、 200L/10a、2回散布	石川県農業総合 研究センター	0	-	<0.05	<0.05		
			2	3	0.49	0.48		
			2	7	0.15	0.14		
			2	14	<0.05	<0.05		
		大阪府食とみど りの総合技術セ ンター	0	-	<0.05	<0.05		
			2	3	0.32	0.30		
			2	7	0.23	0.22		
			2	14	0.16	0.15		



作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [I]		親化合物 [I]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					大阪府食とみどりの総合技術センター			
さといも(葉柄) (施設) (葉柄) 平成16年度 (2004年)	① 1%粒剤: 4kg/10a、 植え付け時、植溝土壌混和	愛知県農業総合 試験場	0	-	<0.05	<0.05		
			3	1	0.10	0.10		
			3	3	0.06	0.06		
			3	7	<0.05	<0.05		
	② 50%顆粒水和剤:10000倍、 200L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	大阪府食とみどりの総合技術セ ンター	0	-	<0.05	<0.05		
			3	1	0.25	0.24		
3	3	0.17	0.17					
3	7	0.07	0.06					
分析機関名					(株)クレハ分析センター			
アマランサス (茎葉) 平成18年度 (2006年)	20%フロアブル、5000倍	宮城県農業・ 園芸総合研 (宮城県名取市)	0	-			<0.5	<0.5
			2	1			4.1	4.0
			2	2			4.1	4.0
			2	4			3.4	3.4
			2	7			2.9	2.9
	300L/10a、2回散布	宮城県大崎農業 改良普及センター (宮城県大崎市)	0	-			<0.5	<0.5
			2	1			<0.5	<0.5
			2	3			<0.5	<0.5
			2	7			<0.5	<0.5
			2	14			<0.5	<0.5
分析機関名					(株)クレハ分析センター			
アマランサス (茎葉) 平成21年度 (2009年)	20%フロアブル 5000倍、300L/10a 2回散布	宮城県大崎農業 改良普及センター (宮城県大崎市)	0	-			<0.05	<0.05
			2	1			5.3	5.0
			2	3			3.2	3.2
			2	7			1.9	1.8
			2	16			1.2	1.2
			分析機関名					日本エコテック (株)
ヤングコーン 幼果(雌穂) 平成20年度 (2008年)	20%フロアブル、4000倍、	山梨県総合 農業技術センター (中央市)	0	-			<0.01	<0.01
			2	2			<0.01	<0.01
			2	6			<0.01	<0.01
			2	14			<0.01	<0.01
			2	20			<0.01	<0.01
	100~150L/10a、2回散布	山梨県総合 農業技術センター (甲府市)	0	-			<0.01	<0.01
			2	3			<0.01	<0.01
			2	7			<0.01	<0.01
			2	14			<0.01	<0.01
			2	21			<0.01	<0.01
分析機関名					(株)エコプロ・リサーチ			
食用かえで(葉) (葉、葉柄及び枝) 平成21年度 (2009年)	20%フロアブル、4000倍、 200L/10a、2回散布	愛知県農業総合 試験場(蒲郡市)	0	-			<0.05	<0.05
			2	14			2.50	2.42
			2	21			2.41	2.29
			2	30			1.94	1.89
分析機関名					愛知県農業総合試験場			
食用かえで(葉) (葉、葉柄及び枝) 平成24年度 (2012年)	20%フロアブル、4000倍、 200L/10a、2回散布	愛知県農業総合 試験場(幸田町)	0	-	<0.05	<0.05		
			2	14	2.10	2.09		
			2	21	1.70	1.66		
			2	30	0.73	0.73		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剂 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					親化合物 [ I ]		親化合物 [ I ]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
分析機関名					日本食品分析センター		日本バ <sup>イ</sup> エ <sup>ル</sup> ク <sup>ロ</sup> ップ <sup>サイ</sup> エ <sup>ン</sup> ス		
温州みかん (露地) (果肉) 平成4年度 (1992年)	20%フロアブル 2000倍 500L(高知) - 700L(長崎)/10a 3回散布	日植防研 高知農場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	14	0.02	0.02	0.01	<0.01	
			3	30	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		長崎 果樹試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	14	0.06	0.06	0.02	0.02	
			3	30	0.05	0.05	0.03	0.03	
温州みかん (露地) (果皮) 平成4年度 (1992年)	20%フロアブル 2000倍 500L(高知) - 700L(長崎)/10a 3回散布	日植防研 高知農場	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	14	0.90	0.88	1.22	1.08	
			3	30	0.74	0.73	0.80	0.78	
		長崎 果樹試	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	14	2.04	1.96	2.29	2.28	
			3	30	2.03	2.02	1.83	1.78	
温州みかん (露地) (果肉) 平成8年度 (1996年)	20%フロアブル 10倍 2.5L/10a 無人ヘリ散布	静岡 柑橋試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		愛媛 果試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		静岡 柑橋試	0	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	
			3	14	0.19	0.18	0.25	0.24	
愛媛 果試	0	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01			
	3	14	0.22	0.22	0.20	0.18			
分析機関名					日本食品分析センター		日本バ <sup>イ</sup> エ <sup>ル</sup> ク <sup>ロ</sup> ップ <sup>サイ</sup> エ <sup>ン</sup> ス		
夏みかん (露地、無袋) (果肉) 平成6年度 (1994年)	20%フロアブル 2000倍 400L/10a 3回散布	愛媛果試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		長崎果試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
夏みかん (露地、無袋) (果皮) 平成6年度 (1994年)	20%フロアブル 2000倍 400L/10a 3回散布	愛媛果試	0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01	
			3	14	0.43	0.43	0.24	0.24	
		長崎果試	0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01	
			3	14	0.67	0.66	0.66	0.65	
		愛媛果試	0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01	
			3	21	0.65	0.65	0.54	0.53	
夏みかん (露地、無袋) (果実) 平成6年度 (1994年)	20%フロアブル 2000倍 400L/10a 3回散布	愛媛果試	0	-	果肉、果皮の 平均値から算 出した。	<0.05	果肉、果皮の 平均値から算 出した。	<0.01	
			3	14	0.15	0.15	0.11	0.04	
		長崎果試	0	-	果肉、果皮の 平均値から算 出した。	<0.05	果肉、果皮の 平均値から算 出した。	<0.01	<0.01
			3	14	0.20	0.20	0.19	0.19	
		愛媛果試	0	-	果肉、果皮の 平均値から算 出した。	<0.05	果肉、果皮の 平均値から算 出した。	<0.01	<0.01
			3	21	0.20	0.20	0.25	0.25	
夏みかん (露地) (果肉) 平成8年度 (1996年)	20%フロアブル 10倍 2.5L/10a 無人ヘリ散布	三重農技 センター	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		三重農技 センター	0	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	
			3	14	0.15	0.14	0.19	0.19	
			3	14	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	
三重農技 センター	0	-	果肉、果皮 のデータよ り算出する ため平均値 を用いた	<0.02	果肉、果皮 のデータよ り算出する ため平均値 を用いた	<0.01	<0.01		
	3	14	0.04	0.04	0.06	0.06			

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使 用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [I]		親化合物 [I]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					日本食品分析センター		日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップサイエンス株式会社	
いよかん (露地) (果肉) 平成8年度 (1996年)	20%フロアブル 10倍 2.5L/10a 無人ヘリ散布	佐賀 果試	0 3	- 14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
いよかん (露地) (果皮) 平成8年度 (1996年)		佐賀 果試	0 3	- 14	0.23	0.22	0.18	0.18
いよかん (露地) (果実) 平成8年度 (1996年)		佐賀 果試	0 3	- 14	果肉、果皮 のデータよ り算出する ため平均値 を用いた	<0.02 0.07	果肉、果皮 のデータよ り算出する ため平均値 を用いた	<0.01 0.05
分析機関名					日本食品分析センター		日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップサイエンス株式会社	
小粒かんきつ (露地) (果実) 平成8年度 (1996年)	20%フロアブル 2000倍 250L/10a 3回散布	徳島 植防 (すだち)	0 3 3 3	- 14 21 28			<0.01	<0.01
							0.03	0.03
							0.02	0.02
							0.02	0.02
小粒かんきつ (露地) (果実) 平成8年度 (1996年)	20%フロアブル 2000倍 600L/10a 3回散布	大分県 柑橘 試験場 (かぼす)	0 3 3 3	- 14 21 28			<0.01	<0.01
							0.27	0.26
							0.23	0.22
							0.12	0.12
小粒かんきつ (露地) (果実) 平成8年度 (1996年)	20%フロアブル 10倍 2.5L/10a 無人ヘリ散布	徳島 植防 (すだち)	0 3	- 14			<0.01 0.16	<0.01 0.15
		大分県 病害虫 防除所 (かぼす)	0 3	- 15			<0.01 0.05	<0.01 0.05

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [ I ]		親化合物 [ I ]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					日本食品分析センター		日本特殊農薬株式会社	
りんご (露地、無袋) (果実)  平成2年度 (1990年)	10%水和剤 1000倍 500L/10a 2回散布	秋田県試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	21	0.090	0.087	0.105	0.104
			2	30	0.052	0.052	0.124	0.120
		福島植防	2	45	0.062	0.060	0.097	0.094
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	21	0.026	0.025	0.030	0.029
2	30	0.022	0.022	0.014	0.014			
2	45	0.022	0.022	0.024	0.024			
分析機関名					(財)日本食品分析センター		バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップ <sup>サイ</sup> エンス <sup>株</sup> 限	
りんご (露地、無袋) (果実)  平成14年度 (2002年)	50%顆粒水和剤 5000倍 600L/10a 2回散布	青森県植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	0.17	0.16	0.20	0.20
			2	7	0.13	0.13	0.07	0.07
		長野県植防須坂	2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	0.10	0.10	0.12	0.12
2	7	0.11	0.10	0.10	0.10			
2	14	0.06	0.06	0.06	0.06			
分析機関名					日本食品分析センター		日本特殊農薬株式会社	
なし (露地、無袋) (果実)  平成2年度 (1990年)	10%水和剤 1000倍 400L/10a 2回散布	千葉県試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	30	0.201	0.197	0.163	0.162
			2	37	0.108	0.106	0.087	0.086
		鳥取県樹 野菜試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	30	0.047	0.046	0.061	0.060
			2	45	0.034	0.032	0.041	0.040
分析機関名					日本食品分析センター		日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップ <sup>サイ</sup> エンス <sup>株</sup> 限	
なし (露地、無袋) (果実)  平成8年度 (1996年)	20%フロアブル 2500倍 300L/10a 2回散布	福島植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	0.09	0.09	0.15	0.14
			2	21	0.07	0.06	0.07	0.06
		千葉県原農 千葉分場	2	28	0.05	0.05	0.08	0.07
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	0.10	0.10	0.19	0.19
	5000倍 300L/10a 2回散布	福島植防	2	21	0.07	0.06	0.11	0.11
			2	28	0.04	0.04	0.07	0.07
			2	14	0.07	0.07	0.08	0.08
		千葉県原農 千葉分場	2	21	0.05	0.04	0.07	0.06
			2	28	0.04	0.04	0.04	0.04
			2	14	0.04	0.04	0.06	0.06
2	21	0.01	0.01	0.04	0.04			
2	28	0.02	0.02	0.04	0.04			
分析機関名					日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップ <sup>サイ</sup> エンス <sup>株</sup> 限			
なし (露地、無袋) (果実)  平成10年度 (1998年)	50%顆粒水和剤 5000倍、400L/10a 2回散布	福島植防 (幸水)	0	-			<0.01	<0.01
			2	28			0.13	0.13
			2	42			0.04	0.04
		長野植防 (豊水)	0	-			<0.01	<0.01
			2	28			0.13	0.12
			2	42			0.06	0.06
分析機関名					日本食品分析センター		バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップ <sup>サイ</sup> エンス <sup>株</sup> 限	
なし (露地、無袋) (果実)  平成14年度 (2002年)	20%フロアブル 2000倍 350L(群馬)又は400L(福島)/10a 2回散布	群馬県植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	0.15	0.14	0.16	0.15
			2	7	0.12	0.12	0.12	0.11
		福島県植防	2	14	0.11	0.11	0.14	0.14
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	0.13	0.12	0.13	0.13
	2	7	0.18	0.17	0.20	0.20		
	2	14	0.14	0.13	0.09	0.08		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [I]		親化合物 [I]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					長野県総合農林試験場		日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>グ</sup> ロ <sup>ク</sup> ム <sup>株</sup> 限	
びわ (施設、有袋) (果実) 平成5年度 (1993年)	20%フロアブル 2000倍 400L/10a 2回散布	長崎県試	0 2 2 2	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
				7	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
				14	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
				21	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
びわ (施設、①有袋、 ②無袋)(果実) 平成6年度 (1994年)  (注：びわの栽培は、 その大部分が有袋で 行われている。)	20%フロアブル 2000倍 400L/10a 2回散布	長崎県 大村市 野田町	①	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
				7	0.04	0.04	<0.01	<0.01
				14	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
				21	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			②	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
				7	2.55	2.54	1.49	1.48
				14	0.76	0.76	0.61	0.60
				21	0.76	0.72	0.39	0.38
分析機関名					(株)化学分析コンサルタント			
びわ (露地、無袋) (果実) 平成17年度 (2005年)	20%フロアブル 2000倍 400L/10a 2回散布	千葉県農総研センター 暖地園芸研究所	0 2 2 2 2	-			<0.05	<0.05
				1			0.17	0.17
				7			0.18	0.18
				14			0.17	0.17
				21			0.15	0.14
		長崎県樹試	-			<0.05	<0.05	
			1			0.06	0.06	
			7			0.13	0.13	
			14			0.19	0.19	
			21			0.18	0.18	
分析機関名					日本食品分析センター		日本特殊農薬製造(株)	
もも (露地、無袋) (果肉) 平成2年度 (1990年)	10%水和剤 1000倍 400L/10a 2回散布	福島植防	0 2 2	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				30	0.123	0.118	0.197	0.195
				45	0.083	0.082	0.085	0.084
		山梨県試	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			30	0.142	0.140	0.129	0.122	
			45	0.107	0.104	0.128	0.125	
もも (露地、無袋) (果皮) 平成2年度 (1990年)	10%水和剤 1000倍 400L/10a 2回散布	福島植防	0 2 2	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				30	0.378	0.366	0.594	0.593
				45	0.241	0.234	0.202	0.195
		山梨県試	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			30	0.394	0.388	0.388	0.371	
			45	0.302	0.286	0.358	0.352	

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剂 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日 数	分析結果 (ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					親化合物 [ I ]		親化合物 [ I ]			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
分析機関名					日本食品分析センター		日本バイオテクノロジー株式会社			
もも (露地、無袋) (果肉)  平成8年度 (1996年)	20%フロアブル 2500倍 300L/10a 2回散布	福島植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			2	14	0.13	0.11	0.13	0.12		
			2	21	0.08	0.08	0.07	0.07		
			2	28	0.09	0.08	0.07	0.07		
		和歌山 果園試 紀北分場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			2	14	0.09	0.08	0.11	0.11		
	20%フロアブル 5000倍 300L/10a 2回散布	福島植防	2	14	0.07	0.06	0.13	0.12		
			2	21	0.04	0.04	0.07	0.07		
			2	28	0.04	0.04	0.07	0.07		
			2	28	0.04	0.04	0.07	0.07		
		和歌山 果園試 紀北分場	2	14	0.07	0.07	0.07	0.06		
			2	21	0.04	0.04	0.02	0.02		
もも (露地、無袋) (果皮)  平成8年度 (1996年)	20%フロアブル 2500倍 300L/10a 2回散布	福島植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			2	14	0.54	0.53	0.48	0.48		
			2	21	0.42	0.42	0.23	0.23		
			2	28	0.28	0.27	0.20	0.20		
		和歌山 果園試 紀北分場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			2	14	0.70	0.70	0.50	0.50		
	20%フロアブル 5000倍 300L/10a 2回散布	福島植防	2	14	0.67	0.66	0.33	0.32		
			2	21	0.17	0.17	0.13	0.12		
			2	28	0.27	0.26	0.16	0.16		
			2	21	0.16	0.16	0.12	0.12		
		和歌山 果園試 紀北分場	2	14	0.12	0.12	0.11	0.11		
			2	28	0.31	0.30	0.26	0.26		
分析機関名					日本食品分析センター		バイエルクロップサイエンス株式会社			
もも (露地) (果肉) 平成14年度 (2002年)	20%フロアブル 2000倍 400L/10a 2回散布	青森県植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05		
			2	3	0.15	0.14	0.16	0.16		
			2	7	0.11	0.10	0.10	0.10		
			2	14	0.10	0.10	0.08	0.08		
		長野県植防須坂	0	-	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05		
			2	3	0.14	0.14	0.14	0.14		
	20%フロアブル 2000倍 400L/10a 2回散布	青森県植防	2	7	0.12	0.12	0.13	0.12		
			2	14	0.12	0.12	0.11	0.10		
			0	-	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1		
			2	3	1.2	1.2	0.6	0.6		
		長野県植防須坂	2	7	0.7	0.6	0.6	0.6		
			2	14	0.4	0.4	0.4	0.4		
分析機関名					日本食品分析センター		バイエルクロップサイエンス株式会社			
ネクタリン (露地、無袋) (果実)  平成15年度 (2003年)	10%水和剤 1000倍 15L/樹(福島)、 700L/10a(長野)  2回散布	福島果樹試	0	-	<0.01	<0.01				
			2	1	0.67	0.66				
			2	3	0.47	0.46				
			2	7	0.32	0.31				
		長野果樹試	2	14	0.29	0.28				
			2	21	0.23	0.23				
	20%フロアブル 2000倍 400L/10a 2回散布	青森県植防	0	-	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1		
			2	3	1.2	1.2	2.3	2.2		
			2	7	1.0	1.0	1.7	1.6		
			2	14	0.7	0.7	0.6	0.6		
		分析機関名					日本植物防疫協会研究所			
		もも (露地) (果皮) 平成14年度 (2002年)	20%フロアブル 2000倍 400L/10a 2回散布	青森県植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
2	3				0.15	0.14	0.16	0.16		
2	7				0.11	0.10	0.10	0.10		
2	14				0.10	0.10	0.08	0.08		
長野県植防須坂	0			-	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05		
	2			3	0.14	0.14	0.14	0.14		
20%フロアブル 2000倍 400L/10a 2回散布	青森県植防		2	7	0.12	0.12	0.13	0.12		
			2	14	0.12	0.12	0.11	0.10		
			0	-	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1		
			2	3	1.2	1.2	2.3	2.2		
	長野県植防須坂		2	7	1.0	1.0	1.7	1.6		
			2	14	0.7	0.7	0.6	0.6		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [I]		親化合物 [I]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					長野県農業総合試験場		日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップサイエンス株式会社	
あんず (露地、無袋) (果実)  平成9年度 (1997年)	20%フロアブル 5000倍 400L/10a 2回散布	青森県 畑作園芸 試験場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	0.45	0.44	0.32	0.3
			2	7	0.29	0.29	0.29	0.28
			2	11	0.15	0.15	0.15	0.14
	2	18	0.05	0.05	0.05	0.04		
	20%フロアブル 5000倍 300L/10a 2回散布	長野県 果樹 試験場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	7	0.18	0.17	0.17	0.17
			2	14	0.05	0.05	0.05	0.04
2			21	0.05	0.05	0.03	0.03	
分析機関名					日本食品分析センター		日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップサイエンス株式会社	
すもも (露地、無袋) (果実)  平成7年度 (1995年)	10%水和剤 1000倍 300(長野)~400L(和歌山)/10a 2回散布	長野植防 須坂	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	21	0.03	0.02	0.07	0.07
			2	28	0.02	0.02	0.05	0.05
		10%水和剤 2000倍 300L(長野)~400L(和歌山)/10a 2回散布	和歌山 果樹園試 (400L/10a)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01
	2			21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	2			28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	2			28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	長野植防 須坂	和歌山 果樹園試	2	21	0.02	0.01	0.04	0.04
2			28	0.02	0.02	0.03	0.02	
2			21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
2			28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
うめ (露地) (果実)  平成7年度 (1995年)	10%水和剤 2000倍 300L(福井)~400L(和歌山)/10a 2回散布	福井園試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	21	0.07	0.07	0.07	0.06
			2	28	0.05	0.04	0.06	0.05
		和歌山 果樹園試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	2		21	0.05	0.05	0.06	0.06	
	2		28	0.04	0.04	0.05	0.05	
	2		28	0.04	0.04	0.05	0.05	
	分析機関名					日本食品分析センター		日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップサイエンス株式会社
いちご (施設) (果実)  平成4年度 (1992年)	1%粒剤 1g/株 定植時植穴処理	千葉農試 砂地野菜 研究室	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	105	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			1	113	<0.01	<0.01	0.01	0.01
		1%粒剤 1g/株 定植時植穴処理 +10%水和剤 2000倍 200L/10a 2回散布	長野植防 松代 研究所	0	-	<0.01	<0.01	<0.01
	1			150	0.03	0.02	0.03	0.03
	1			160	0.03	0.03	0.02	0.02
	3			1	1.06	1.05	0.86	0.82
	千葉農試 砂地野菜 研究室	3	3	0.83	0.81	0.75	0.71	
3		1	0.24	0.24	0.26	0.26		
長野植防 松代 研究所	3	3	0.18	0.18	0.17	0.16		
	3	3	0.18	0.18	0.17	0.16		
分析機関名					日本食品分析センター		日本特殊農薬研究所	
ぶどう (施設、無袋) (果実)  平成2年度 (1990年)	10%水和剤 1000倍 300L/10a 2回散布	山梨果試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	21	1.130	1.080	1.349	1.338
			2	30	0.488	0.462	0.458	0.456
		長野植防 (巨峰)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	2		21	0.163	0.160	0.258	0.256	
	2		30	0.128	0.125	0.112	0.111	
	2		30	0.128	0.125	0.112	0.111	

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剂 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [ I ]		親化合物 [ I ]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					日本食品分析センター		日本ハ <sup>®</sup> イェアグ <sup>®</sup> のくま(株)	
ぶどう (施設、無袋) (果実) 巨峰 平成8年度 (1996年)	20%フロアブル 4000倍 300L/10a 2回散布	石川植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	0.23	0.22	0.12	0.12
			2	21	0.12	0.12	0.08	0.07
		大分農技 センター	2	28	0.17	0.16	0.15	0.14
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	0.57	0.56	0.50	0.48
2	21	0.28	0.28	0.27	0.27			
2	28	0.17	0.17	0.20	0.18			
ぶどう (施設、無袋) (果実) デラウェア 平成9年度 (1997年)	20%フロアブル 5000倍 300L/10a(石川、三重、大阪) 500L/10a(京都) 2回散布	石川植防	0	-			<0.01	<0.01
			2	14			0.29	0.28
			2	21			0.27	0.26
		三重農技 センター	2	28			0.08	0.08
			0	-			<0.01	<0.01
			2	14			0.05	0.05
		京都丹後 農研	2	21			0.05	0.05
			2	28			0.06	0.06
			0	-			<0.01	<0.01
		大阪農技 センター	2	14			0.82	0.82
			2	21			0.79	0.76
			2	28			0.29	0.28
大阪農技 センター	0	-			<0.01	<0.01		
	2	14			1.27	1.26		
	2	21			0.73	0.72		
2	28			0.61	0.6			
ぶどう (施設、無袋) (果実) デラウェア 平成8年度 (1996年)	20%フロアブル 4000倍 300L/10a 2回散布	秋田果試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	0.56	0.55	0.43	0.42
			2	21	0.41	0.40	0.54	0.52
		大阪農技 センター	2	28	0.60	0.59	0.40	0.40
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	1.00	0.98	1.13	1.07
2	21	0.75	0.74	0.76	0.71			
2	28	0.52	0.51	0.58	0.58			
分析機関名					山梨県総合農業試験場		日本ハ <sup>®</sup> イェアグ <sup>®</sup> のくま(株)	
ぶどう (デラウェア) (施設、無袋) (果実) 平成8及び9年度 (1996及び1997年)	10%水和剤 常温煙霧 50倍 10L/10a 2回散布	山梨 総農試 (平8)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	21	0.08	0.08	0.06	0.06
			2	30	0.07	0.07	0.07	0.07
		山梨 総農試 (平9)	2	45	0.05	0.05	0.05	0.04
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	21	0.05	0.05	0.07	0.07
2	30	0.04	0.04	0.08	0.08			
2	45	0.03	0.03	0.09	0.08			
ぶどう (巨峰) (施設、無袋) (果実) 平成9年度 (1997年)	10%水和剤 常温煙霧 50倍 10L/10a 2回処理	山梨 総農試 (平8)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	21	0.05	0.05	0.07	0.06
			2	30	0.04	0.04	0.04	0.03
		山梨 総農試 (平9)	2	45	0.03	0.03	0.02	0.02
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	21	0.12	0.12	0.08	0.08
2	30	0.08	0.08	0.08	0.08			
2	45	0.09	0.09	0.05	0.04			
分析機関名					山梨県総合農業試験場		日本ハ <sup>®</sup> イェアグ <sup>®</sup> のくま(株)	
ぶどう (施設、無袋) (果実) 平成10年度 (1998年)	50%顆粒水和剤 5000倍、300L/10a 2回処理	石川植防 (デラウェア)	0	-			<0.01	<0.01
			2	21			0.80	0.78
		2	28			0.50	0.50	
		長野中宿 農試 (巨峰)	0	-			<0.01	<0.01
2	21				0.40	0.38		
2	28			0.42	0.40			



作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					親化合物 [I]		親化合物 [I]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
分析機関名					日本食品分析センター		日本ハ「ヘルマ」ロム附		
かき (露地、無袋) (果実)  平成5年度 (1993年)	10%水和剤 1000倍 500L/10a 3回散布	新潟園試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	0.29	0.28	0.34	0.32	
			3	14	0.22	0.22	0.32	0.32	
			3	21	0.36	0.35	0.34	0.33	
		愛知 農総試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	0.21	0.21	0.28	0.28	
			3	15	0.17	0.16	0.17	0.16	
			3	21	0.13	0.12	0.14	0.13	
分析機関名					附化学分析コンサルタント				
キウイフルーツ (露地、無袋) (果肉)  平成17年度 (2005年)	20%フロアブル、2000倍  278L(奈良)~300L(愛媛)/10a、 2回散布	奈良植防	0	-			<0.05	<0.05	
			2	1			<0.05	<0.05	
			2	7			<0.05	<0.05	
			2	14			<0.05	<0.05	
		愛媛果樹試	2	21			<0.05	<0.05	
			0	-			<0.05	<0.05	
			2	1			<0.05	<0.05	
			2	7			<0.05	<0.05	
2	14			<0.05	<0.05				
	2	21			<0.05	<0.05			
	分析機関名					沖縄県病害虫防除所		日本ハ「ヘルマ」ロム附	
	マンゴー (施設、無袋) (果実)  平成5年度 (1993年)	10%水和剤 1000倍 450L/10a 2回散布	沖縄県 病害虫 防除所 与那城村	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
2				14	0.33	0.32	0.49	0.49	
2				21	0.25	0.24	0.32	0.32	
2				30	0.20	0.20	0.19	0.19	
沖縄県 病害虫 防除所 中城村			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			2	14	0.33	0.32	0.45	0.45	
			2	21	0.33	0.32	0.32	0.32	
			2	30	0.17	0.17	0.19	0.19	
分析機関名					鹿児島県農業試験場				
パッションフルーツ (無袋) (果実)  平成16年度 (2004年)	50%顆粒水和剤、10000倍  250L(名瀬市)~625L(笠利町)/10 2回散布	鹿児島農試大島支 場 (鹿児島県名瀬市)	0	-	<0.02	<0.02			
			2	7	0.15	0.15			
			2	14	0.09	0.09			
			2	21	0.08	0.08			
		鹿児島農試大島支 場 (鹿児島県笠利町)	0	-	<0.02	<0.02			
			2	7	0.29	0.28			
			2	14	0.22	0.22			
			2	21	0.18	0.17			
分析機関名					沖縄県病害虫防除所				
アセロラ (施設：宮城) (露地：沖縄) (果実)  平成17年度 (2005年)	20%フロアブル、4000倍  400L(沖縄)~500L(宮崎)/10a、 2回散布	宮城県農業・ 園芸総合研究所	0	-	<0.05	<0.05			
			2	7	0.18	0.18			
			2	14	0.08	0.08			
			2	21	0.05	0.05			
		沖縄県病害虫 防除所	0	-	<0.05	<0.05			
			2	7	0.30	0.30			
			2	14	0.14	0.14			
			2	21	<0.05	<0.05			
ピタヤ (露地) (果実)  平成17年度 (2005年)	20%フロアブル、2000倍  200L/10a、2回散布	沖縄県病害虫 防除所	0	-	<0.05	<0.05			
			2	7	0.27	0.26			
			2	14	0.12	0.12			
			2	21	0.11	0.11			
		沖縄県農業試験 場 八重山支場	0	-	<0.05	<0.05			
			2	7	0.11	0.11			
			2	14	<0.05	<0.05			
			2	21	<0.05	<0.05			

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [I]		親化合物 [I]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					鹿児島県農業試験場			
アテモヤ (無袋) (果実)  平成16及び17年度 (2004及び2005年)	50%顆粒水和剤、10000倍  270L(平16年)~300L(平17年)/10	鹿児島農試 大島支場 (平16)	0	-	<0.02	<0.02		
			2	7	0.18	0.18		
			2	14	0.13	0.13		
			2	21	<0.02	<0.02		
	2回散布	鹿児島農試 大島支場 (平17)	0	-	<0.02	<0.02		
			2	7	<0.02	<0.02		
			2	14	<0.02	<0.02		
			2	21	<0.02	<0.02		
分析機関名					残留農薬研究所		日本バ <sup>イ</sup> エ <sup>ル</sup> ク <sup>ロ</sup> ップ <sup>サイ</sup> エ <sup>ンス</sup> 株 <sup>式</sup> 有 <sup>限</sup> 公 <sup>司</sup>	
くり (露地) (果実)  平成8年度 (1996年)	10%水和剤  1000倍  300L/10a  3回散布	茨城農総 センター	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		愛媛果試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	13	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
	分析機関名					大分県安全農業研究所		
ぎんなん (種子) 平成18年度 (2006年)	20%フロアブル、2000倍、 300L/10a、2回散布	大分県安全 農業研究所 (宇佐市安心院町)	0	-	<0.005	<0.005		
			2	1	<0.005	<0.005		
			2	7	<0.005	<0.005		
			2	14	<0.005	<0.005		
ぎんなん (種子) 平成19年度 (2007年)	20%フロアブル、2000倍、 300L/10a、2回散布	大分県安全 農業研究所 (宇佐市安心院町)	0	-	<0.01	<0.01		
			2	1	0.01	0.01		
			2	7	<0.01	<0.01		
			2	14	<0.01	<0.01		
分析機関名					(財)残留農薬研究所			
ごま (種子) 平成24年度 (2012年)	1%粒剤  3kg/10a、播種時、播溝土壌混和	日本植物防疫協会 高知試験場	0	-	<0.01	<0.01		
			1	86	<0.01	<0.01		
		日本植物防疫協会 宮崎試験場	0	-	<0.01	<0.01		
			1	81	<0.01	<0.01		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [I]		親化合物 [I]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名			日本食品分析センター		日本ハ <sup>®</sup> イ <sup>®</sup> ア <sup>®</sup> ク <sup>®</sup> ロ <sup>®</sup> ム <sup>®</sup> 附			
茶 (荒茶) 平成2年度 (1990年)	10%水和剤 1000倍 200L/10a 1回散布	静岡茶試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	13	2.36	2.30	1.80	1.77
			1	20	0.79	0.78	0.54	0.54
			1	27	0.11	0.11	0.10	0.10
		宮崎総農 茶業支場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	14	1.95	1.92	1.39	1.32
			1	21	0.80	0.80	0.60	0.60
			1	28	0.20	0.20	0.17	0.17
茶 (浸出液) 平成2年度 (1990年)	10%水和剤 1000倍 200L/10a 1回散布	静岡茶試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	13	1.85	1.80	1.90	1.85
			1	20	0.67	0.64	0.62	0.61
			1	27	0.06	0.06	0.09	0.08
		宮崎総農 茶業支場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	14	1.95	1.90	1.16	1.12
			1	21	0.65	0.64	0.61	0.59
			1	28	0.16	0.15	0.14	0.14
茶 (荒茶) 平成10年度 (1998年)	50%顆粒水和剤 5000倍、200L/10a 1回散布	静岡茶試	0	-	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01
			1	7	3.89	3.84	3.02	3.00
			1	14	3.17	3.00	2.29	2.26
			1	21	0.56	0.55	0.35	0.34
		宮崎総農 茶業支場	0	-	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01
			1	7	3.49	3.34	4.09	3.98
			1	14	1.71	1.69	1.83	1.82
			1	21	0.98	0.97	1.03	1.01
分析機関名					日本ハ <sup>®</sup> イ <sup>®</sup> ア <sup>®</sup> ク <sup>®</sup> ロ <sup>®</sup> ム <sup>®</sup> 附			
茶 (浸出液) 平成10年度 (1998年)	50%顆粒水和剤 5000倍、200L/10a 1回散布	静岡茶試	0	-			<0.01	<0.01
			1	7			2.62	2.53
			1	14			1.93	1.80
			1	21			0.27	0.26
		宮崎総農 茶業支場	0	-			<0.01	<0.01
			1	7			3.41	3.31
			1	14			1.92	1.91
			1	21			0.90	0.88

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					親化合物 [I]		親化合物 [I]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
分析機関名					日本食品分析センター				
あさつき (露地) (茎葉) 平成15年度 (2003年)	①1%粒剤:4kg/10a 定植時植溝処理土壌混和 ②20%フロアブル:2000倍、 300L/10a、2回散布 ①+②の体系処理	山形県立 砂丘地農業 試験場	0	-	<0.2	<0.2			
			3	3	2.5	2.4			
			3	7	2.0	1.9			
		福島県植物防疫 協会 郡山試験地	0	-	<0.2	<0.2			
			3	3	1.4	1.4			
			3	7	0.8	0.8			
			3	14	0.4	0.4			
分析機関名					愛知県農業総合試験場				
しそ (施設) (葉) 平成6年度 (1994年)	20%フロアブル 4000倍 30L(豊川)~50L(豊橋)/10a 1回散布	愛知農総試 (愛知県豊橋市)	0	-	<0.03	<0.03			
			1	7	0.74	0.70			
			1	10	0.21	0.21			
			1	14	0.07	0.06			
			1	21	0.03	0.03			
		愛知農総試 (愛知県豊川市)	0	-	<0.03	<0.03			
			1	7	0.29	0.28			
			1	10	0.07	0.06			
			1	14	<0.03	<0.03			
			1	21	<0.03	<0.03			
分析機関名					愛知県農業総合試験場				
しそ (施設) (葉) 平成21年度 (2009年)	20%フロアブル 4000倍 200L/10a 3回散布	愛知農総試 (愛知県豊橋市)	0	-	<0.5	<0.5			
			3	1	12.2	11.7			
			3	3	4.5	4.4			
			3	7	0.7	0.7			
			3	14	0.1	0.1			
		愛知農総試 (愛知県豊川市)	0	-	<0.5	<0.5			
			3	1	16.4	15.6			
			3	3	8.6	8.5			
			3	7	2.2	2.2			
			3	14	0.3	0.3			
分析機関名					愛知県農業総合試験場				
バジル (施設) (茎葉) 平成22年度 (2010年)	20%フロアブル 4000倍 200L/10a 3回散布	愛知農総試 (愛知県豊橋市)	0	-	<0.05	<0.05			
			3	1	7.11	6.91			
			3	3	3.81	3.72			
			3	7	2.54	2.41			
			3	14					
		愛知農総試 (愛知県豊川市)	0	-	<0.05	<0.05			
			3	1	5.13	5.06			
			3	3	4.29	4.26			
			3	7	1.98	1.96			
			3	14					
分析機関名					㈱化学分析コンサルタント				
しそ (施設) (可食部:花穂) 平成16年度 (2004年)	20%フロアブル 4000倍 150L/10a 2回散布	愛知農総試 (愛知県豊橋市)	0	-			<0.05	<0.05	
			2	7			1.70	1.68	
			2	14			0.09	0.08	
			2	21			<0.05	<0.05	
			2	21					
		愛知農総試 (愛知県豊川市)	0	-			<0.05	<0.05	
			2	7			0.18	0.18	
			2	14			<0.05	<0.05	
			2	21			<0.05	<0.05	
			2	21					
分析機関名					高知県農業技術センター				
みょうが (施設) (花穂) 平成15年度(2003年) (高知県須崎市) 及び 平成16年度(2004年) (高知県南国市)	50%顆粒水和剤:10000倍、 350L(①)又は300L(②)/10a 2回散布	高知件農業技術 センター (高知県須崎市)	①	0	-	<0.02	<0.02		
			2	1	<0.02	<0.02			
			2	3	<0.02	<0.02			
			2	7	<0.02	<0.02			
		高知件農業技術 センター (高知県南国市)	②	0	-	<0.04	<0.04		
			2	1	<0.04	<0.04			
			2	3	<0.04	<0.04			
			2	7	<0.04	<0.04			

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					親化合物 [I]		親化合物 [I]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
分析機関名					愛知県農業総合試験場			
コリアンダー (施設) (茎葉) 平成16年度 (2004年)	20%フロアブル：4000倍  150～200L/10a	愛知農総試	0	-	<0.02	<0.02		
			2	3	1.53	1.49		
			2	7	1.00	0.98		
			2	14	0.29	0.28		
	2回散布	静岡農試	0	-	<0.02	<0.02		
			2	3	1.09	1.07		
			2	7	0.30	0.28		
			2	14	0.24	0.23		
分析機関名					埼玉県農林総合研究センター			
さんしょう (葉) (露地) (葉) 平成16年度(2004年)	20%フロアブル：4000倍  150L/10a	埼玉県 病害虫防除所 (さいたま市)	0	-	<0.1	<0.1		
			3	183	<0.1	<0.1		
	3回散布	埼玉県 病害虫防除所 (川口市)	0	-	<0.1	<0.1		
			3	196	<0.1	<0.1		
分析機関名					愛知県農業総合試験場			
さんしょう(葉) (施設) (茎葉) 平成22年度 (2010年)	20%フロアブル  4000倍 200L/10a	愛知農総試 (愛知県豊橋市)	0	-	<0.05	<0.05		
			3	14	5.09	5.08		
			3	21	4.30	4.18		
			3	30	1.26	1.24		
	3回散布	愛知農総試 (愛知県豊川市)	0	-	<0.05	<0.05		
			3	14	6.80	6.79		
			3	21	3.09	3.01		
			3	30	2.26	2.26		
分析機関名					東京都農林総合研究センター			
やなぎたで (茎葉) 平成17年度 (2005年)	20%フロアブル、4000倍、 300L/10a、3回散布	東京都農林総合 研究センター	0	-	<0.5	<0.5		
			3	3	8.7	7.8		
			3	7	1.7	1.6		
			3	14	0.8	0.7		
やなぎたで (茎葉) 平成18年度 (2006年)	20%フロアブル、4000倍、 300L/10a、3回散布	東京都農林総合 研究センター	0	-	<0.5	<0.5		
			3	3	10.8	9.6		
			3	7	5.0	4.4		
			3	14	2.5	2.4		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					親化合物 [I]		親化合物 [I]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
分析機関名					日本バ <sup>イ</sup> エル <sup>ク</sup> ロップ <sup>サイ</sup> エンス <sup>株</sup> 式 <sup>有</sup> 限 <sup>公</sup> 司				
たばこ (露地) (葉)  平成5年度 (1993年)	1%粒剤 1~1.5g/株 定植時 植穴処理 ①中葉 ②上葉	盛岡薬枝 センター (1g/株)	①	0	-			<0.01	<0.01
				1	85			0.13	0.12
		鹿児島 薬枝 センター (1.5g/株)	②	0	-			<0.01	<0.01
				1	112			0.05	0.04
たばこ (露地) (葉)  平成6年度 (1994年)	1%粒剤 3kg/10a 定植時植穴処理 +10%水和剤 2000倍 150~180L/10a 1~2回散布 ①中葉 ②上葉	葉たばこ 研究所	①	0	-			1.28	1.28
				2	10			9.74	9.28
		岡山薬枝 センター	②	0	-			<0.01	<0.01
				3	10			2.58	2.48
	10%水和剤 2000倍 150L/10a 1~2回散布 ①中葉 ②上葉	岡山薬枝 センター	①	0	-			0.03	0.02
				2	10			2.03	1.99
		岡山薬枝 センター	②	0	-			<0.01	<0.01
				3	10			0.18	0.18
分析機関名					(財)残留農薬研究所 楠化学分析コンサルタント				
飼料用稲 (植物体全体、 根を除く)  平成16年度 (2004年)	① 50%顆粒水和剤、125倍、250mL/箱 1回苗箱灌注(移植日) ② 2%粒剤、80g/箱、1回箱施用(移植日) ③ 1%粒剤、3kg/10a、2回灌水散布 (最終灌水散布:収穫30日前) ④ 10%水和剤、1000倍、150L/10a、 2回茎葉散布 ①+②+③+④の体系処理	(社)日本草地畜産 種子協会 飼料作物 研究所(栃木)	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
				6	7	1.42	1.37	2.44	2.44
		(社)日本草地畜産 種子協会 九州試験地(熊本)	6	14	1.14	1.09	1.26	1.21	
			6	21	0.72	0.72	1.13	1.13	
		0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02		
		6	7	0.78	0.78	0.95	0.93		
6	13	0.60	0.58	0.97	0.96				
6	20	0.35	0.34	0.44	0.44				
分析機関名					高知県農業技術センター				
みしまさいこ (露地) (根)  平成16年度(2004年)	50%顆粒水和剤:4000倍 250L(窪川町)~300L(越知町)/10 3回散布	高知県農業技術 センター (窪川町)	0	-	<0.01	<0.01			
				3	30	<0.01	<0.01		
		高知県農業技術 センター (越知町)	0	-	<0.01	<0.01			
	3	30	<0.01	<0.01					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

◎参考資料-1

参考として、代謝物の

の分析も行った。

1.

1) 分析法の原理と操作概要

2) 分析対象の化合物

3) 残留試験結果

次頁以降に結果を示す。

2.

1) 分析法の原理と操作概要

2) 分析対象の化合物

3) 残留試験結果

次頁以降に結果を示す。







本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剂 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試 料 調 製 場 所	使 用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)								
					公的分析機関				社内分析機関				
					脱ニトロ体[M01]		還元体[M04]		脱ニトロ体[M01]		還元体[M04]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	





本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はバイエルクロップサイエンス株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量・使用方法	試 料 調 製 場 所	使 用 回 数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)	
					社内分析機関	
					全CNA [M06]	
					最高値	平均値